

診療年報

第3号
(2013年)

北九州市立八幡病院



北九州市立八幡病院



病院の仕事

病院長 市川 光太郎

今年の梅雨明けは平穏な日本であって欲しいと願う日々ですが、特に近年、集中豪雨の被害に目を覆いたくなるほどの惨事が続いています。明らかに自然は地球規模で変わりつつあるのだと認識していても、日々の仕事に追われて、グローバルな思考をはじめ、実際の行動も何もしていない自分がいます。

ここで改めて、「病院の仕事」とは？特に公的な市立病院の仕事とは？と自問してみますと、やはり、患者さん達・市民の皆さまの安心のために、そして健康維持・傷病予防のために病院自体が存在していることに考えが辿り着きます。すなわち、「病院の仕事」は職員一人一人の仕事を通して、その個々のプロダクトの集合体が「病院の仕事」として評価されるものであると思われます。

実際に眼に見える形として傷病が治り、予防が完遂できる場合の身体的変化の好転とともに、身体的に対して、眼に見えない形で安心感・満足感の会得が来院された人達に得られるかの2点が常にセットでプロダクトされないと「病院の仕事」としての評価は低いのかかもしれません。もちろん身体的変化の好転が不幸にして得られなくとも精神心理的な満足感が得られれば、「病院の仕事」としてのある程度の評価は得られるものと考えています。この職員一人一人が紡ぐ糸が寄り合わさって、太く大きな綱になること、1本たりとも欠けないことが、すなわち「病院の仕事」のプロダクトだと思っています。

是非とも職員一人一人が個性を出すとともに協調・協働し合って人数分以上のプロダクトを出すことができればと願っています。そういう観点からも病院全体として、或いは職員として、専門職人として、個人として、どのような院内活動を1年間行えたのか、その蓄積が表れるものが「病院年報」と思っております。昨年度に比し、一人一人の活動が、或いは部署の活動が、そして病院全体の活動が、和と輪をもって、活性化しているのか？明るく仕事ができているのか？などが、一目瞭然となるのが「病院年報」と思っています。

是非とも職員一人一人が地道に自分の仕事をやり遂げ、その集合体が大きな「病院の仕事」になり、患者さんの、市民のためになる「病院の仕事」であって欲しいと願っています。

院長あいさつ

1. 病院概要

基本理念・基本方針	1
組織図	2
職員名簿	3

2. 医療分析

全体的統計	9
-------	---

3. クローズアップ

消化器・肝臓病センター	13
心大血管リハビリテーション	14
病院総合医療情報システム（電子カルテシステム）の選定導入について	15

4. 診療科部門紹介

内科	17
循環器内科	18
小児科	22
外科・呼吸器外科	25
整形外科	26
脳神経外科	27
形成外科	28
泌尿器科	29
精神科	30
救急科	31
放射線科（医師）	32

放射線科（技師）	33
臨床検査科	35
薬剤科	36
リハビリテーション室	37
看護科	38
事務局	39

5. 業績集

内科	43
循環器内科	43
整形外科	49
外科・呼吸器外科	51
救急科	62
小児科	64
形成外科	83
皮膚科	84
麻酔科	84
精神科	85
脳神経外科	86
薬剤部門	86
放射線部門	88
看護部門	89
検査部門	95
理学療法部門	96
栄養部門	96
その他（院内研究会など）	96

6. 委員会報告

災害対策チーム委員会	101
I C T委員会	102
臨床検査部門委員会	103
輸血療法委員会	104
広報委員会	105
リスクマネジメント部会	106
医療連携室運営委員会	107
リハビリテーション部門委員会	108
クリニカルパス委員会	109
褥瘡対策委員会	110

7. 各種学会指導医・専門医・認定医一覧 111

8. 編集後記 115

1

病院概要



基本理念・基本方針

基本理念

私たちは、24時間質の高い医療を提供し、
皆様に、安心、信頼、満足していただける病院をめざします。

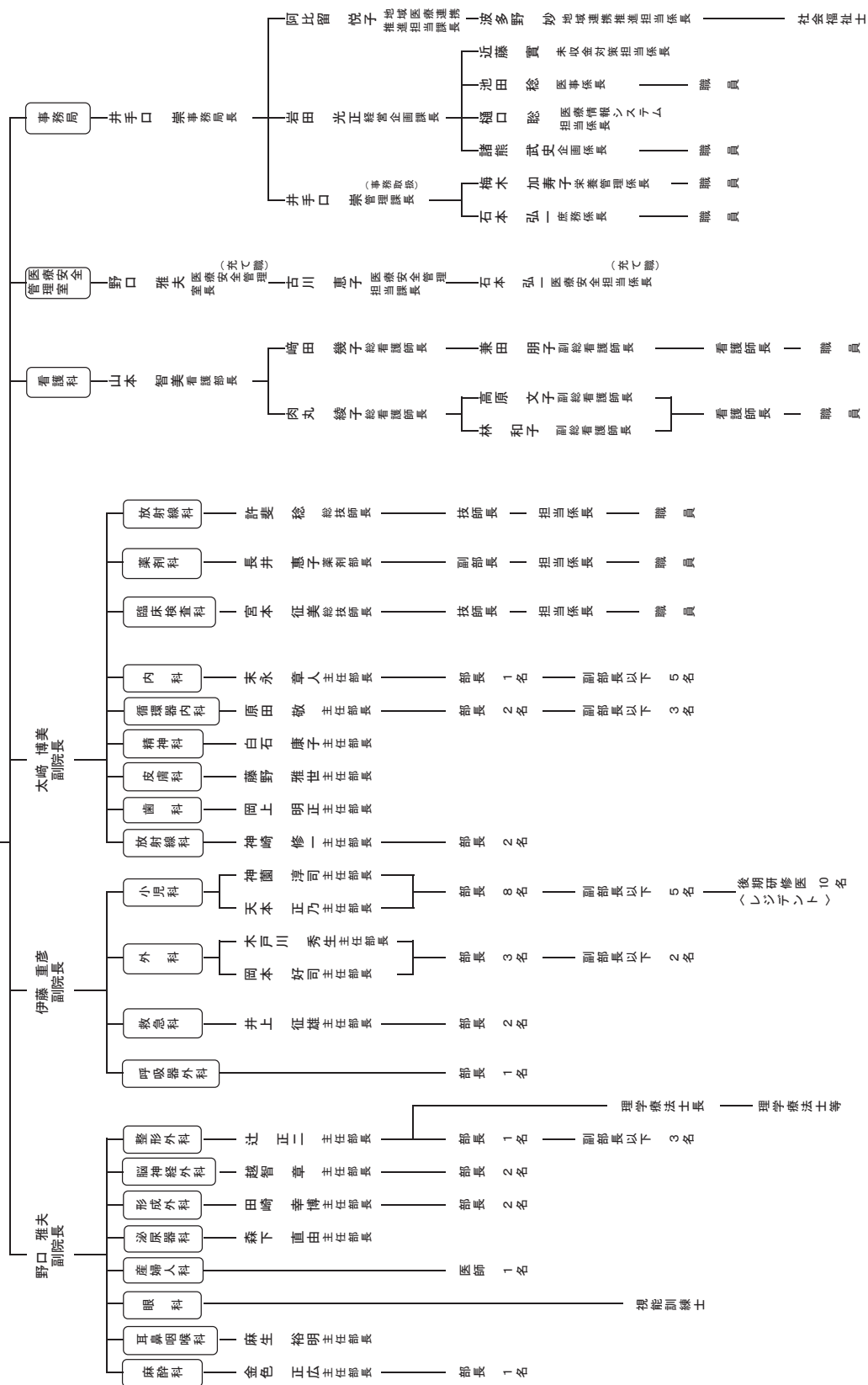
基本方針

1. 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行ないます。
3. 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。
4. 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。
5. 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。

組織図

北九州市立八幡病院 組織図

市川 光太郎 院長



(平成25年12月31日現在)

職員名簿

職名	氏 名
院長	市 川 光太郎
副院長	太 崎 博 美
副院長	伊 藤 重 彦
副院長	野 口 雅 夫
●内科	
主任部長	末 永 章 人
部長	吉 田 有 吾
副部長	立和田 隆
副部長	伊 藤 光 佑
副部長	伊 藤 千 与
	小 住 乃理子
	酒 見 亮 介
●循環器内科	
主任部長	原 田 敬
部長	田 中 正 哉
部長	小 住 清 志
副部長	高 橋 正 雄
	屏 壮 史
	岩 垣 端 礼
●整形外科	
主任部長	辻 正 二
部長	田 中 尚 洋
副部長	渡 邊 航之助
副部長	萩 原 弘
副部長	上 戸 康 平
●外科	
主任部長	岡 本 好 司
主任部長	木戸川 秀 生
部長	山 吉 隆 友
部長	野 口 純 也
部長	梶 屋 隆 太
副部長	久 永 真
	松 本 彩
●呼吸器外科	
(部長兼務)	井 上 征 雄
●救急科	
主任部長	井 上 征 雄

職名	氏 名
部長	岩 永 充 人
部長	田 口 健 蔵
●小児科	
主任部長	天 本 正 乃
主任部長	神 蘭 淳 司
部長	今 村 徳 夫
部長	石 橋 紳 作
部長	山 根 浩 昌
部長	金 奉 吉
部長	松 島 卓 哉
部長	富 田 芳 江
部長	富 田 一 郎
部長	八 坂 龍 広
副部長	志 村 紀 彰
副部長	山 本 剛 士
副部長	竹 井 寛 和
副部長	後 藤 保
副部長	岡 畠 祥 憲
レジデント	南 川 将 吾
レジデント	竹 井 真 理
レジデント	三 浦 義 文
レジデント	長 嶺 伸 治
レジデント	増 井 美 苗
レジデント	内 海 奈 穂
レジデント	小 林 加 奈
レジデント	村 上 珠 葉
レジデント	苔 口 知 樹
レジデント	中 野 慎 也
●形成外科	
主任部長	田 崎 幸 博
部長	福 井 季代子
部長	李 龍 二
●脳神経外科	
主任部長	越 智 章
部長	野 田 満
部長	氏 福 健 太

職名	氏 名
●皮膚科	
主任部長	藤 野 雅 世
●泌尿器科	
主任部長	森 下 直 由
●産婦人科	
	王 志 洪
●耳鼻咽喉科	
主任部長	麻 生 裕 明
●放射線科	
主任部長	神 崎 修 一
部長	今 福 義 博
部長	今 村 紹 美
●麻酔科	
主任部長	金 色 正 広
部長	石 田 昌 一
●歯科	
主任部長	岡 上 明 正
●精神科	
主任部長	白 石 康 子
●薬剤科	
部長	長 井 恵 子
副部長	山 下 正 義
薬剤担当係長	坂 本 佳 子
薬剤担当係長	橋 口 靖
薬剤担当係長	末 吉 宏 成
主任	田 崎 奈緒子
主任	原 田 桂 作
主任	米 倉 紀 子
薬剤師	山 本 朗 子
薬剤師	福 永 竜 一
薬剤師	中 村 祥 子
薬剤師	姫 野 英 二
薬剤師	宮 野 佳 子
薬剤師	宗 吉 泉
薬剤師	毛 利 由 佳
薬剤師	久保地 倫 子

平成 25 年 12 月 31 日現在

職員名簿

職名	氏 名
●臨床検査科	
総技師長	宮 本 征 美
技師長	中 村 尚 子
臨床検査担当係長	松 本 誠 也
臨床検査担当係長	久 野 淳 二
主任	松 山 郁 子
主任	太 田 秀 一
主任	渡 邊 和 枝
主任	島 浩 司
主任	荒 木 猛
臨床検査技師	恵 良 美由紀
臨床検査技師	長 田 昌 美
臨床検査技師	吉 田 裕見子
臨床検査技師	三 嶋 里 恵
臨床検査技師	新 山 のぞみ
臨床検査技師	實 藤 清 美
臨床検査技師	栗 田 恵 利
臨床検査技師	近 藤 嗣 通
臨床検査技師	津留崎 舞
●放射線科	
総技師長	許 斐 稔
技師長	山 下 三 樹
技師長	高 森 泰 行
放射線担当係長	清 水 艶 鳴
放射線担当係長	谷 口 和 博
主任	大 庭 正 章
主任	大 隅 政 治
主任	島 田 章 弘
主任	辰 本 直 久
主任	中 山 敏 文
主任	萩 野 和 寿
診療放射線技師	入 江 佳 世
診療放射線技師	満 園 裕 樹
診療放射線技師	森 山 有 美
診療放射線技師	佐 竹 美智子
診療放射線技師	亀 井 良 子

職名	氏 名
診療放射線技師	九 町 章 博
診療放射線技師	宗 吉 佑 樹
診療放射線技師	入 部 勝 博
●整形外科	
理学療法士長	井 上 裕 子
主任	和 才 千世子
理学療法士	須 崎 省 二
理学療法士	砂 山 明 生
作業療法士	武 田 優 子
●眼科	
視能訓練士	大 西 祥 子
●看護科	
看護部長	山 本 智 美
総看護師長	崎 田 幾 子
総看護師長	肉 丸 綾 子
副総看護師長	林 和 子
副総看護師長	高 原 文 子
副総看護師長	兼 田 朋 子
副総看護師長 (事務取扱)	阿比留 悦 子
副総看護師長 (兼務)	古 川 恵 子
看護師	三 井 あゆみ
○外来	
看護師長	原 田 かをる
主任	磨 田 かおる
主任	木 崎 早 苗
主任	久 家 憲 子
看護師	三 好 博 子
看護師	松 永 直 美
看護師	川 原 恵美子
看護師	佐々木 知 子
看護師	小 椋 裕 美
看護師	田 中 美 子
看護師	吉 田 愛
看護師	藤 井 あ い
看護師	村 田 寿 美
看護師	足 立 奈緒子

職名	氏 名
看護師	伊 東 知佐子
看護師	松 本 由 紀
○救急部	
看護師長	木 村 律 子
看護師長	池 田 かおる
看護師長	植 村 安 子
看護師長	西 田 ゆかり
看護師長	永 井 文 恵
看護師長	塩 田 美 樹
看護師長	橋 本 真 美
看護師長	村 田 光 代
看護師長	佐 藤 奈々絵
看護師長	松 嶋 久美子
看護師長	梶 原 多 恵
看護師長	中 川 祐 子
主任	吉 武 知 美
看護師	岩 下 律 子
看護師	寺 地 亜 希
看護師	江 藤 扶 紀
看護師	安 部 環
看護師	井 上 里 美
看護師	入 江 弓 子
看護師	渡 辺 恭 子
看護師	飯 森 美由紀
看護師	安 成 康 介
看護師	小 野 早央里
看護師	古 賀 隆 太
看護師	本 山 由 佳
看護師	山 田 友 行
○手術室	
看護師長	隈 部 美由紀
主任	能 丸 敏 子
主任	佐 藤 旬 子
看護師	小 玉 久 美
看護師	江 崎 亜 以
看護師	木 下 美 和

平成 25 年 12 月 31 日現在

職名	氏 名	職名	氏 名	職名	氏 名
看護師	鞭 馬 友 美	看護師	土 岐 美 穂	看護師	吉 田 智 絵
看護師	郷 田 ありさ	看護師	佐名木 里 英	看護師	松 原 由 起
看護師	越 智 千 佳	看護師	石 本 晶	看護師	石 川 紗 愛
看護師	中 村 佳 代	看護師	深 田 智 美	看護師	山 田 友 美
看護師	杉 本 佳 菜	看護師	山 下 亮	看護師	石 川 祐 子
看護師	田 中 愛 実	看護師	渡 邊 紘 子	看護師	森 重 優 真
看護師	吉 竹 重 乃	看護師	内 田 宏 美	看護師	田 中 陽 子
看護師	石 橋 夕起子	看護師	木 原 朋 香	看護師	徳 永 結
○中央材料室				○東 4 階病棟	
中央材料室担当係長	吉 竹 洋 子	看護師	深 田 華 子	看護師長	井 生 恭 子
○西 3 階病棟		看護師	阿 部 麻奈美	主任	森 永 加代子
看護師長	高 田 久 子	看護師	山 本 優 子	主任	藤 波 志生子
主任	林 久 恵	看護師	園 田 法 子	主任	松 本 敏 江
主任	伊 村 ときえ	看護師	川 本 江 美	主任	原 京 子
主任	中川路 敬 子	看護師	馬 場 美帆子	主任	橋 本 優 子
主任	小 舟 美 穂	○西 4 階病棟		看護師	梶 原 小百合
看護師	山 田 千 咲	看護師長	杉 田 奈都子	看護師	長 田 弘 子
看護師	松 田 ユ リ	主任	池 田 由美子	看護師	原 田 知代美
看護師	塩 田 輝 美	主任	野 上 久美子	看護師	金 屋 美千代
看護師	宗 育 子	主任	今 村 久里美	看護師	武 谷 貴代美
看護師	福 永 聡	主任	田 端 明 子	看護師	志 賀 玲 花
看護師	山之内 妙 子	看護師	友 松 むつみ	看護師	岩 村 智 子
看護師	島 村 美 紀	看護師	島 崎 智 江	看護師	秋 吉 美 紀
看護師	野 村 美映子	看護師	中 村 由美子	看護師	安 永 まゆみ
看護師	丸 野 梨 紗	看護師	岡 村 志 保	看護師	川 原 千恵美
看護師	川 原 奈津美	看護師	山 崎 悦 子	看護師	藤 嶋 寛 子
看護師	萩 原 明 佳	看護師	稲 垣 久仁子	看護師	荊 尾 景 子
○集中治療室 (ICU)		看護師	上 野 真由美	看護師	木 下 章 子
看護師長	小 林 和 枝	看護師	坂 本 順 子	看護師	小 野 久美子
主任	川 崎 久美子	看護師	飯 田 圭 子	看護師	本 汐 莉
主任	高 森 雅 子	看護師	須 藤 乃 子	看護師	永 島 裕 美
主任	三 渕 浩 子	看護師	山 下 美 代	看護師	井 田 加 代
主任	井 筒 隆 博	看護師	古 田 恵 美	看護師	杉久保 富 子
看護師	梶 田 明 美	看護師	上 野 聡 子	看護師	後 藤 未 有
看護師	尾 垣 美 江	看護師	光 吉 久美子	看護師	平 野 由 樹
看護師	森 永 久 美	看護師	崎 山 由香理	看護師	齋 藤 明 子
看護師		看護師	工合田 千 世	看護師	

平成 25 年 12 月 31 日現在

職員名簿

職名	氏 名
○西5階病棟	
看護師長	大塚 由美子
主任	花見 待子
主任	池田 みはる
主任	井上 裕美
主任	北村 都子
主任	山田 洋子
看護師	船原 美津子
看護師	栗田 寿美代
看護師	吉田 晶子
看護師	村井 澄江
看護師	矢野 美佑紀
看護師	岡本 裕美
看護師	柳 順也
看護師	中川 正男
看護師	上岡 由美
看護師	青木 悦子
○東5階病棟	
看護師長	岡崎 優子
主任	川南 幸子
主任	山口 敦子
主任	北村 安妙
看護師	白石 玉枝
看護師	加藤 由華
看護師	金 瑛華
看護師	山本 晶子
看護師	中山 佳那
看護師	高田 幸恵
看護師	鶴田 麻衣
看護師	小西 久代
看護師	大山 元子
看護師	尾上 沙也香
看護師	吉田 喜美
看護師	中村 一貴
看護師	花田 有実
看護師	行實 香代子

職名	氏 名
看護師	岩本 紗季
看護師	佐々木 和子
看護師	中村 有里
看護師	盛 みづえ
○西6階病棟	
看護師長	高澤 浩美
主任	松野 京子
主任	藤川 唯智子
主任	植田 啓子
主任	桑野 雅恵
主任	岡村 生久乃
看護師	太田 美代子
看護師	永松 真由美
看護師	内山 睦美
看護師	行比 知子
看護師	白井 愛
看護師	上村 亜希子
看護師	藤田 佳奈
看護師	岡本 美沙
看護師	戸簾 妙子
看護師	松田 昌子
看護師	大浦 実咲
看護師	篠原 吉宏
看護師	高尾 公子
○東6階病棟	
看護師長	米澤 美穂子
主任	徳永 裕美
主任	半田 和枝
主任	織田 真由美
主任	勝元 美佳
看護師	山下 仁美
看護師	河本 久美子
看護師	谷石 香津代
看護師	奥本 美由紀
看護師	田島 かおり
看護師	小谷 玲子

職名	氏 名
看護師	林内 久美子
看護師	中村 久美子
看護師	土田 光代
看護師	川崎 美代子
看護師	伊澤 奈緒
看護師	久保崎 沙和
看護師	角田 直也
看護師	三島 照枝
看護師	松岡 フミ
看護師	長倉 寿江
看護師	前田 恵
看護師	古川 美穂
看護師	藤本 瑞希
看護師	村上 環
●事務局	
事務局長	井手口 崇
○管理課	
管理課長(事務取扱)	井手口 崇
庶務係長	石本 弘一
庶務係員	友岡 大雄
庶務係員	横田 真一郎
庶務係員	黒田 泰志
庶務係員	堀池 寿彦
庶務係員	蓑田 圭祐
栄養管理係長	梅木 加寿子
管理栄養士	石坂 綾子
臨床工学技士	伊香 元裕
臨床工学技士	倉田 匠
○経営企画課	
経営企画課長	岩田 光正
地域医療連携推進担当課長	阿比留 悦子
企画係長	諸熊 武史
医療情報システム担当係長	樋口 聡
企画係主任	原 泉
企画係員	高橋 直也
企画係員	百武 洋介

平成25年12月31日現在

職名	氏 名
医事係長	池 田 稔
未収金対策担当係長	近 藤 實
医事係員	藤 井 圭 吾
医事係員	安 樂 一 樹
医事係員	岩 下 健一郎
医事係員	西 原 慎一郎

職名	氏 名
----	-----

職名	氏 名
----	-----

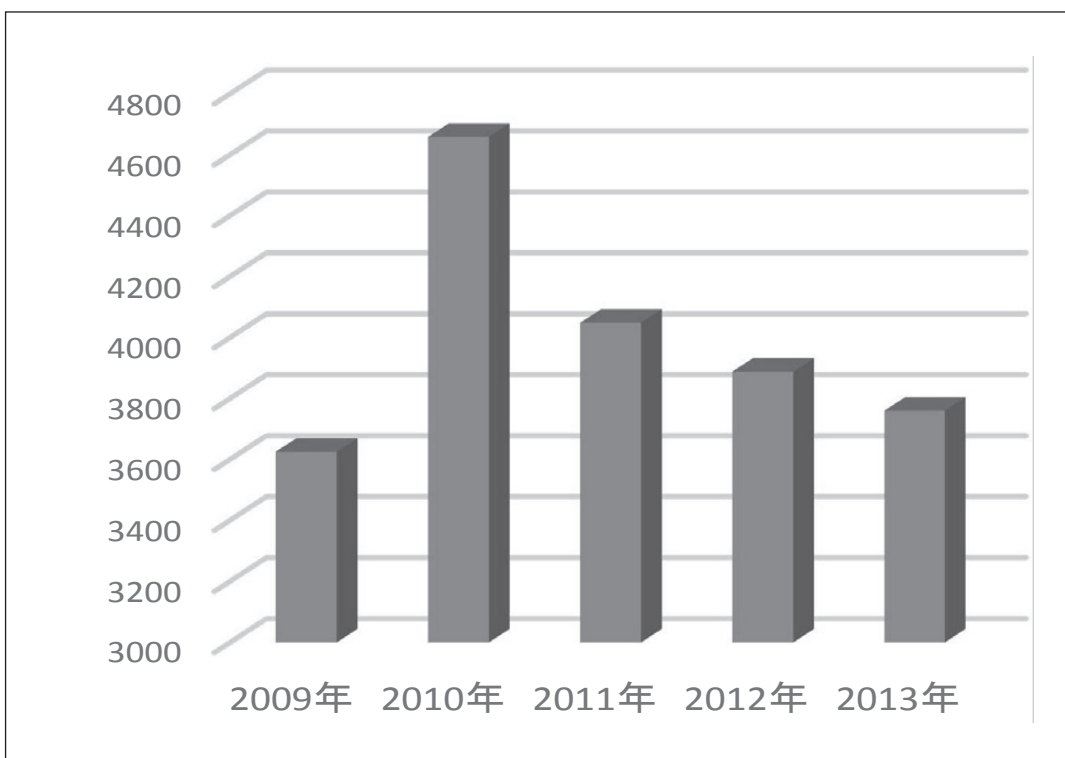
平成 25 年 12 月 31 日現在

2

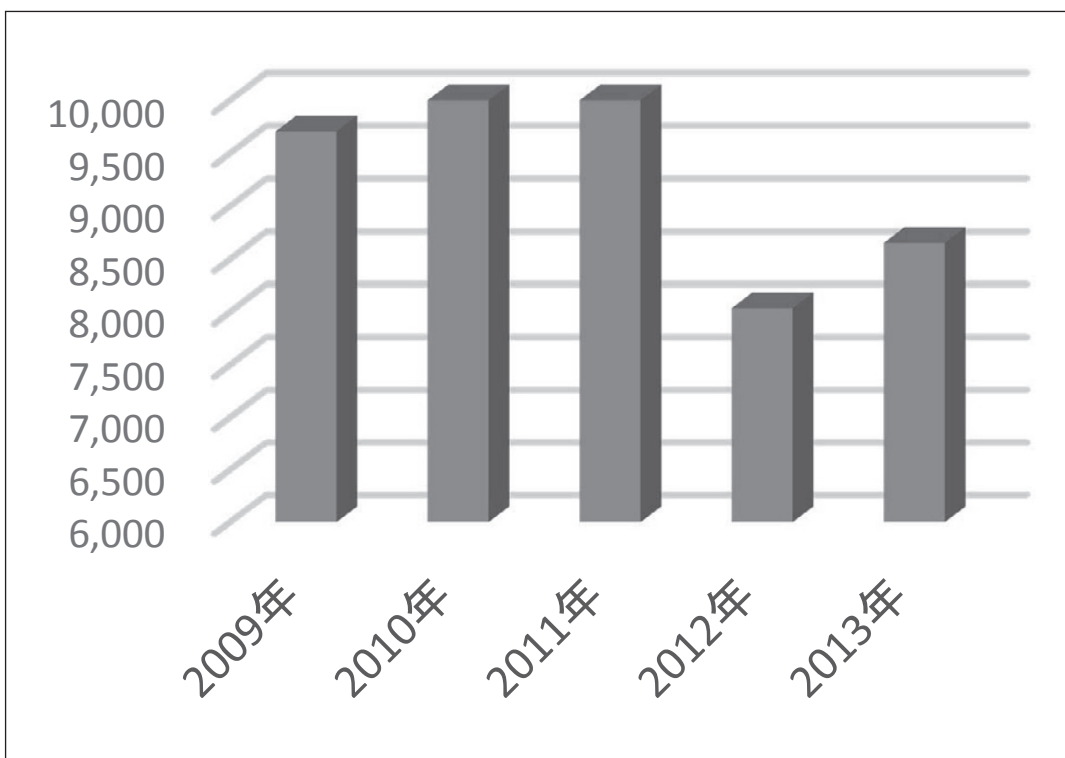
医療分析

全体的統計

●救急車搬入数



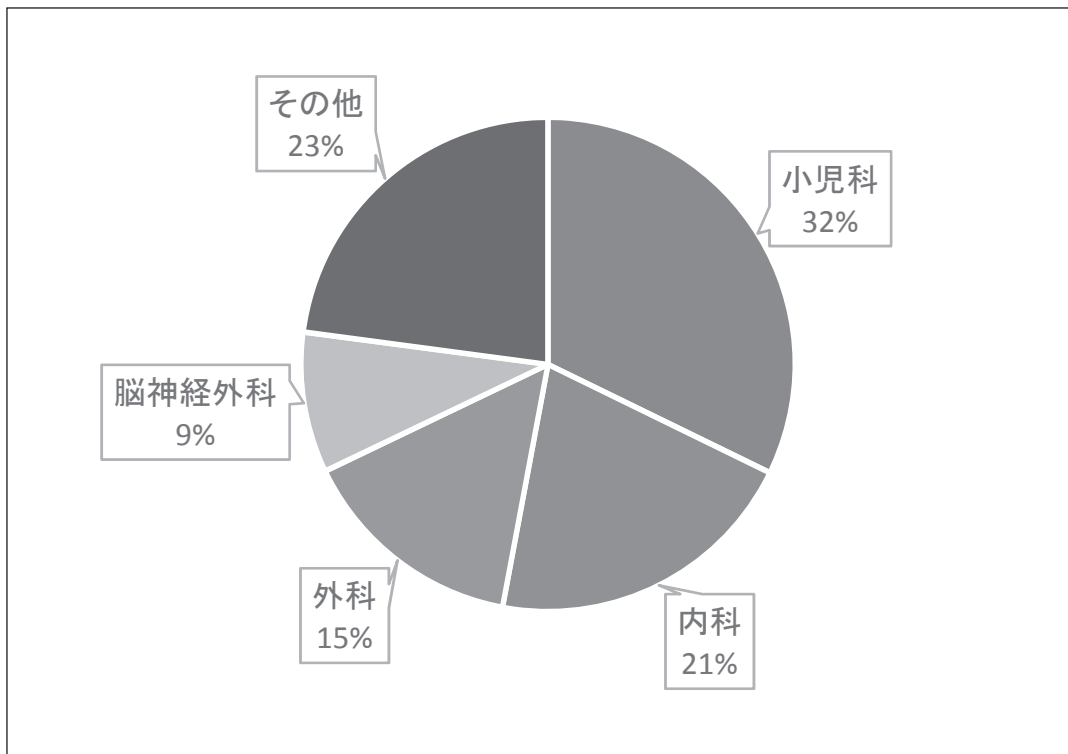
●過去5年間の救命救急センター患者数



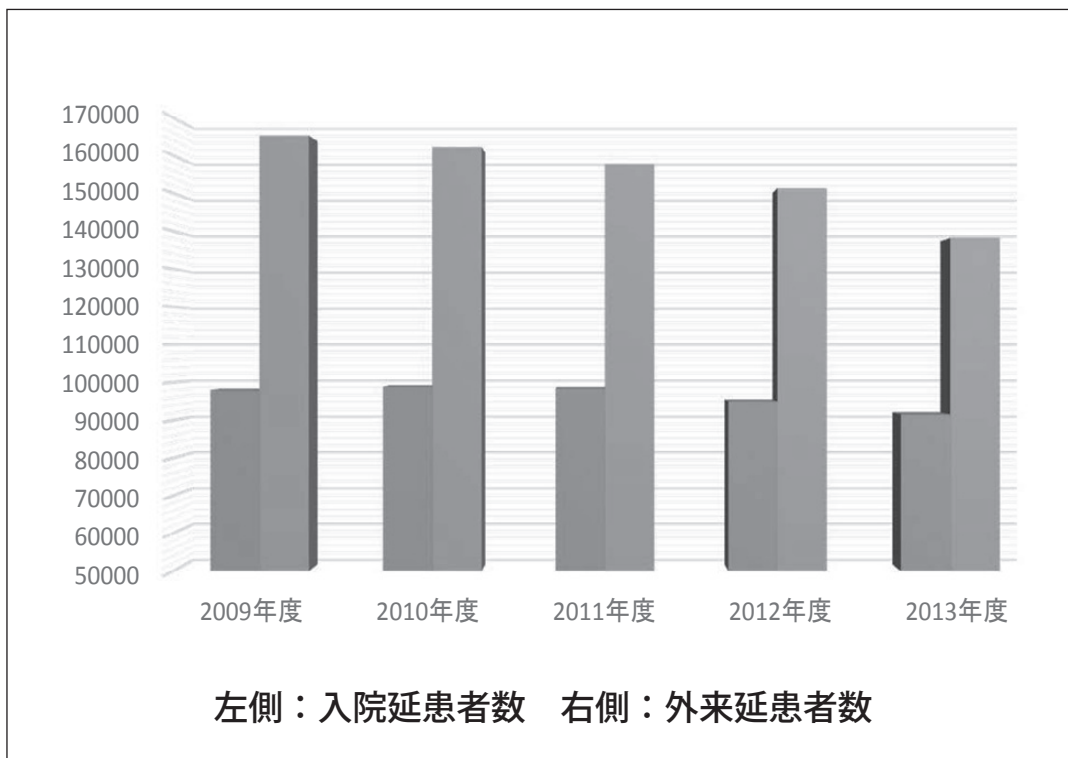


全体的統計

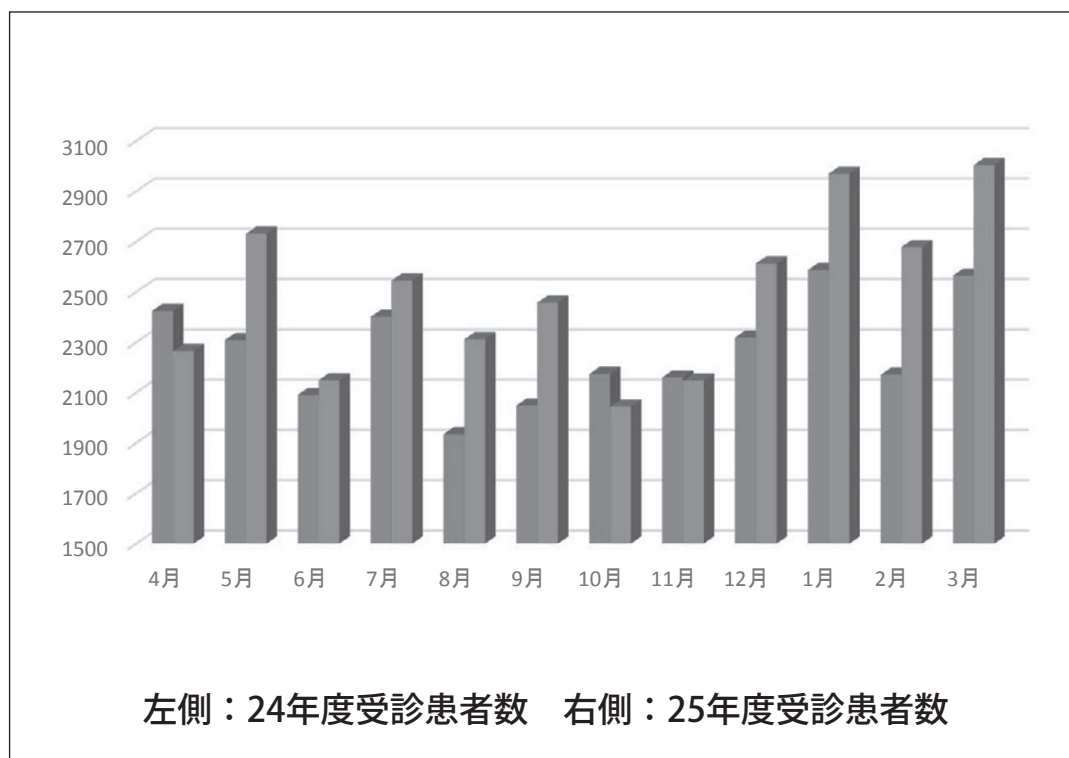
●2013年救命救急センター患者受診科内訳



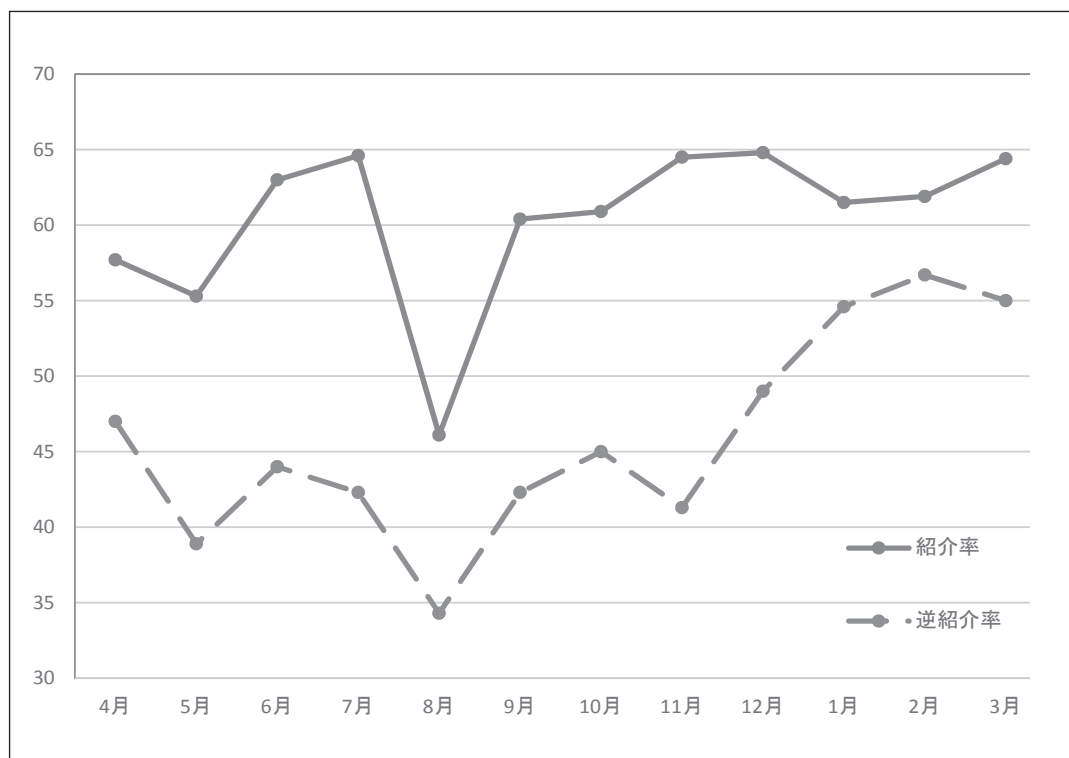
●過去5年間の延患者数



●小児救急センター受診患者数



●平成25年度紹介率・逆紹介率の推移



3

クローズアップ

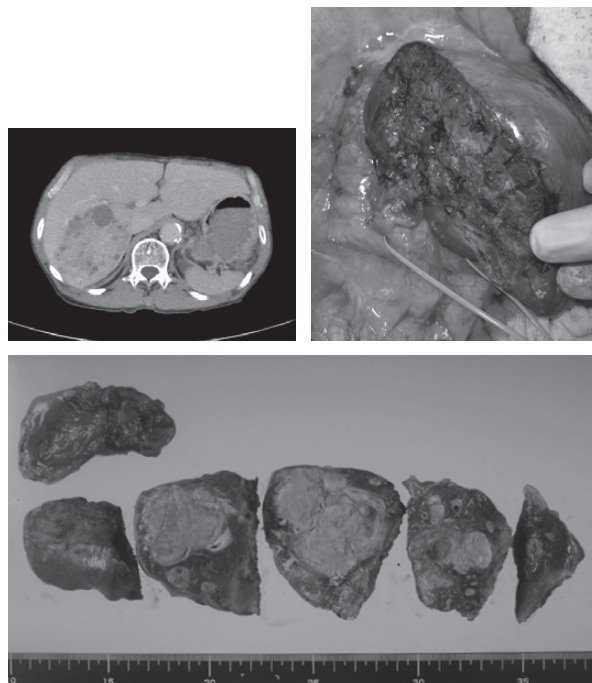
消化器・肝臓病センター

消化器・肝臓病センター センター長 岡本 好司

消化器・肝臓病センターは、2011年11月に岡本がセンター長として産業医科大学から赴任すると同時に、消化器・肝臓病を総合的に、専門的に、かつ先進的に医療を行なうために開設されました。2013年は、少しずつ軌道に乗り、症例数が増加してきました。癌化学療法の件数も増え、外来癌化学療法センターも新規に開設できました。

具体的には、消化器内視鏡症例（上・下部消化管、ERCP：内視鏡的逆行性胆道膵管造影、等）数の増加、内視鏡的処置（ポリペクトミー、EMR：内視鏡的粘膜切除術、ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術、EST：内視鏡的乳頭括約筋切開術等、ERBD：内視鏡的逆行性胆管ドレナージ、ENBD：内視鏡的経鼻胆管ドレナージ、胆道ステント留置術等）も症例数が増加しています。手術数も肝切除術や胃切除術、大腸切除術等が開腹下でも腹腔鏡下でも施行数を増やしています。CTやMRの検査件数の増加や、腹部血管造影さらには外傷や出血、肝腫瘍等に対する塞栓術の件数も着実に伸びて来ています。

2014年には、新規に消化器内科の先生が着任予定であり、超音波検査のエキスパートの消化器内科医師の増員も予定されていますので、益々の発展を目指して、底上げを図っていきたいと考えています。（写真は、巨大な肝細胞癌症例に、放射線科の先生と協力して門脈塞栓術後に安全に肝拡大右葉切除術を行った症例。左上：CT（右葉の巨大な肝癌）、右上：切除後の術中写真、下：切除標本）



岡本好司 MD, PhD

北九州市立八幡病院 統括部長

消化器・肝臓病センター センター長

佐賀大学 医学部

救急医学講座 客員教授、臨床教授

産業医科大学 医学部

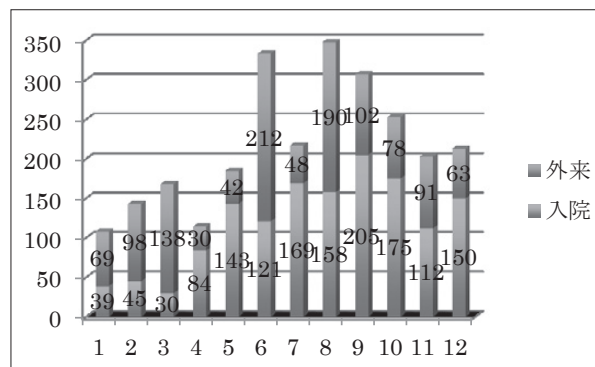
第1外科学講座 臨床教授

心大血管リハビリテーション

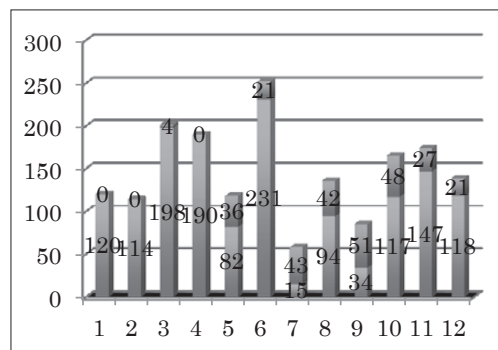
心大血管リハビリテーション 田中 正哉

2013年は、2012年と比較するとリハビリ施行単位数は飛躍的に伸びている；1,730→2,577。理由として急性心筋梗塞症例数や大動脈解離症例数は大きく変化なく、リハビリ施行単位数も大きく増えていないが、慢性心不全症例に対するリハビリ施行症例数が増えたことが大きいと思われる。これまで急性心不全で入院してもリハビリを導入することなく退院になることが多かったが、心不全が改善した後にできる限りリハビリを導入する様に循環器の主治医に意識させた結果、慢性心不全のリハビリ導入症例が増加した。また新規導入された方々に運動療法の効果を説明し理解させることが、リハビリに対する意欲を向上させることに繋がり、外来リハビリの症例数および単位数増加に寄与している。2014年は、これまでなかった理学療法士の協力が得られるようになる予定であり、ベッドサイドのリハビリを強化していきたい。

2013年 心大血管リハビリテーション件数



2012年 心大血管リハビリテーション件数



病院総合医療情報システム（電子カルテシステム）の選定導入について

太崎 博美

をいかに作っていくかが、次の本院に課せられた大きな課題と考えています。

重要な病院機能として電子カルテの導入は、八幡病院にとって長い間最緊急課題でした。導入が本格的に手をつけられたのは、平成23年秋の経営企画課の病院局への折衝開始、病院局の決断からでした。実際、八幡病院の中でも既に県内の200床以上の病院の中で、紙カルテのみの運用は当院だけという切迫感が語られるようになっていました。また、純粹に古い紙カルテシステムで遅れているということに加えて、厚生労働省の医療構想の中での本院の位置づけ（評価基準の提出）は、電子カルテ（DPC）なしでは、考えられない（評価の対象になり得ません）という他要因もありました。平成23年12月に電子カルテシステム委員会が発足し、勉強会やデモによる院内への浸透がはじまりました。

平成24年春から部門ヒヤリング、システム構成検討を経て平成25年初めに、麻生情報システムズが、支援業者として選定されました。院内に複数の準備委員会を作り、仕様書作成の話し合いを行いました。作成された仕様書に対して応札した3社から10月に“東芝のHappy Actis”が、選定されました。その後は、院内の多くの職員に参加して貰う18のワーキンググループによって具体的な運用と仕様の擦り合わせが行われています。一つのワーキンググループの中で別々の職種が協力し合ったり、異なる考え方であることが分かったりし、議論白熱しています。これまで、院内で見ることが出来なかった“面白い”ディスカッションの場になっています。最終的には、きちんとした結論が出る場所も“面白い”所です。同じシステムを導入している他の病院を見学に行ったりしながら、議論を重ねて来ました。予算的な窮屈さがある中で、部門別システム導入も十分には出来ない状況ですが、委員の方々には感謝しています。

電子カルテは、本質的には、八幡病院が目指してきた医療を継続し発展させるためには必須のものです。一方、毎年返済・維持に2億円の負債を背負うことになります。これからは、電子カルテという武器により、この負債をものとしめないような強靱な財政体質

4

診療科部門紹介

一年間の概要

[スタッフ]

内科は常勤医6名です。

そのほか、非常勤応援医7名による専門外来（糖尿病外来、呼吸器外来、膠原病外来、消化器外来）もおこなっています。

[外来]

外来は3～4名/日の外来担当医により各種専門外来・一般内科外来をおこなっています。救急患者さんに対しては、救急対应当番医（循環器内科と混合で）がおり、できる限りの救急患者受け入れをおこなっています。

外来患者数（延べ人数）は約1,000～1,200名/月で、昨年一年間で13,293名でした。救急車搬入件数は、内科と循環器内科併せて昨年一年間で1,007件でした。いずれも昨年を下回っており、課題が残りました。

[入院]

常勤医6名により受け持ち分担をしています。救急で入院になった患者さんについては、速やかにそれぞれの専門分野医師にコンサルト・引き継ぎがおこなわれています。当院に専門医がいない分野の疾患（腎臓や血液疾患など）もあり、場合によっては他院への転送をせざるを得ないこともあります。

入院実患者数（内科のみ、循環器内科除く）は、昨年一年間で425名でこれも昨年を下回っていました。

[検査]

昨年一年間の内視鏡検査は、上部消化管425例、下部消化管195例、気管支鏡61例といずれも昨年以上回る件数でした。

今後の方向性

内科常勤医数も安定し、循環器内科を合わせると当直などの負担は以前よりかなり軽減しています。総回診やカンファレンスなども内科・循環器内科合同でおこなっており協力しながら診療にあたっています。院内の雰囲気は明るく相談しやすい環境で、当院の強みではないかと思っています。

また平成26年4月より常勤医として糖尿病専門医が1名スタッフに加わる予定で、これからは糖尿病治療・教育も充実が期待されます。

外来・入院患者数が減少している点につきましては真摯に受け止め、患者さんや近隣の先生方の信頼を得られるように努力したいと思います。病診連携にも今まで以上に力を入れたいと考えております。

今後も地域住民の皆様の要望に応えるべく、内科スタッフ一同努力してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

■2013年度の診療実績

循環器科は平成4年にスタッフ3名でスタートし、平成9年から5名に増えて緊急PCIを開始しました。2013年度は7名+非常勤1名、そして2014年度には常勤8名となりました。

これまでカテーテル治療ができる術者の数が限られ、時に急性心筋梗塞への対応が難しく近隣の先生方にご不便をおかけしていました。術者が増えたことで、緊急症例の待機に余裕が生まれました。また通常の検査中であっても、もう一つある汎用撮影装置で同時に治療する事態も増えています。

八幡病院循環器科は、24時間365日、緊急対応可能です。お困りの症例がありましたら、いつでもご連絡下さい。

治療実績	2012 年度	2013 年度
冠動脈カテーテル検査 (診断のみ)	236	212
冠動脈カテーテル治療 () は緊急症例	136 (35)	118 (40)
ペースメーカー植込み () は新規	22 (14)	25 (17)
カテーテルアブレーション	3	1
末梢動脈カテーテル治療	20	52
腎動脈ステント治療	12	17
静脈系カテーテル治療	9	16
心筋生検	2	4

■各疾患の傾向

1) 心不全

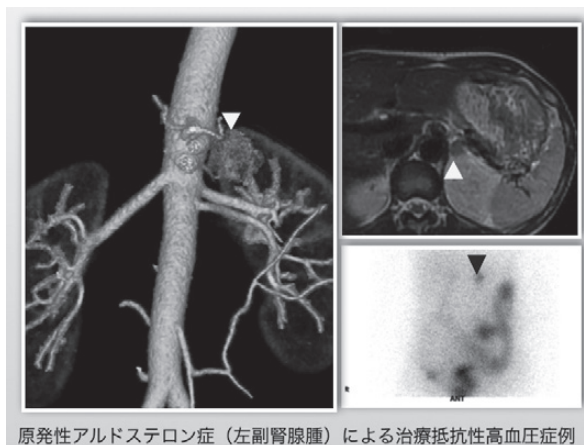
心疾患が長期化・進行すると、最終的には慢性心不全に至ります。北九州は全国でも高齢化が進んでおり、今後心不全患者は増加するでしょう。平成14年の当院の調査では、1年間に心不全増悪で入院した患者は約150人程度（年齢74歳、1/4は独居、1/4は二人世帯）で、高齢者で生活サポートが脆弱な背景が読み取れます。平成25年度になると心不全入院は200件を超え、療養サポートの問題でリピーター化している症例も多く見られます。

心不全の原因の多くは高血圧性心疾患や心房細

動等の非虚血性心疾患であり、心臓リハビリや薬物療法に加え、地域連携や在宅医療を含めた診療体制が重要になります。

2) 高血圧症

成人外来疾患で最も多くを占める高血圧は、脳心血管病の重要な危険因子です。当院では、初診高血圧や治療に難渋した高血圧症例に対し、積極的にスクリーニングを行い、その背景に別の疾患が隠れていないかを探るようにしています。多くは慢性腎臓病や腎動脈狭窄症ですが、去年は3例の原発性アルドステロン症を発見し、うち2例は当院外科で腹腔鏡的副腎腫瘍摘出術を行ないました。二次性高血圧に対し、診断から治療までを一貫して行なえる体制ができています。



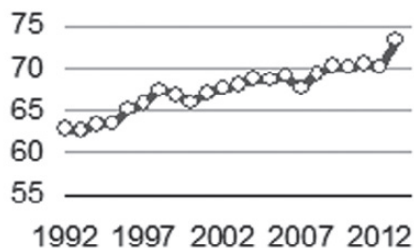
原発性アルドステロン症（左副腎腺腫）による治療抵抗性高血圧症例

3) 冠動脈疾患

冠動脈疾患に対するカテーテル治療は、新しい治療器具や治療手技の発展で、以前では治療が困難だった複雑な病変も治療できるようになりました。

一方で高齢化が進み、80歳を超える患者さんも珍しくありません。この15年で当院でカテーテル検査・治療を受けた症例の平均年齢を調べてみると、実に7歳も高齢化が進んでいました。この状況では、カテーテル治療自体の侵襲性も問題になります。当院では、早くからより低侵襲なカテーテル治療をめざして、低濃度造影剤の使用や、より細いカテーテルによる治療を行なってきました。現在、国内のカテーテ

全力テ症例の平均年齢



ル治療では、内径2mmのサイズが頻用されていますが、当院では過半数で、内径1.7mm以下で治療を行っています。治療手技には工夫が必要ですが、合併症の軽減には有効です。

2013年度の冠動脈PCIは118件と、例年より少なかったですが、急性心筋梗塞や不安定狭心症に対する緊急PCI件数は例年と同様でした。これまではPCIができる術者が限られていたので、緊急症例の受け入れにご不便をかけていました。2013年以降はPCI可能な術者が5名に増え、これまで以上に緊急症例への対応が可能になりました。

4) 不整脈疾患

2013年度の徐脈性不整脈に対するペースメーカー植えこみ術は、全体で25例と、例年と同じ傾向でした。最近、MRI検査が可能なペースメーカーが利用できるようになりました。この装置は、従来品に比べて少し大きいのが難点ですが、頭部、胸部、腹部、下肢など、ほとんどのMRI検査が可能です。ただし、このペースメーカーでMRI検査を行なうためには、対応するスタッフ（放射線科、循環器科など）が一定の講習を受け、対応マニュアルを整備した上で、その施設ごとに認可を受ける必要があります。

当院は、メドトロニック社とセントジュード社のMRI対応ペースメーカー使用患者でMRI検査が可能です。実際に、2013年度では、3件のMRI検査を行いました。今後、改良が進むようなので期待しています。

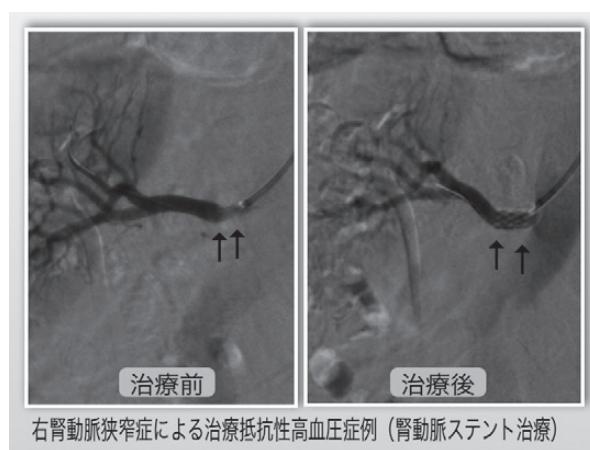
5) 末梢動脈疾患

末梢動脈が狭窄・閉塞する疾患は、高齢化により増加しています。この疾患の治療は、薬物治療や運

動療法が基本となりますが、一定期間でも間欠性跛行が改善しない場合や、すでに皮膚潰瘍や壊死を呈している症例では、外科的治療も考慮した上で積極的にカテーテル治療を行なっています。

2013年度は、3例の両側腸骨動脈閉塞（Leriche症候群）を含む26例の間欠性跛行症例（腸骨動脈7例、浅大腿動脈19例）に対してカテーテル治療を行いました。また8例の重症下肢虚血症例（浅大腿動脈閉塞2例、膝下動脈閉塞6例）では、6例が成功し、潰瘍や壊疽の改善につなげることができました。この他、症状を有する鎖骨下動脈閉塞1例、上腸間膜動脈狭窄1例にもカテーテル治療を行い成功しました。

今後、この領域は症例が増えると予想されるので、さらなる技術向上に努めたいと思います。



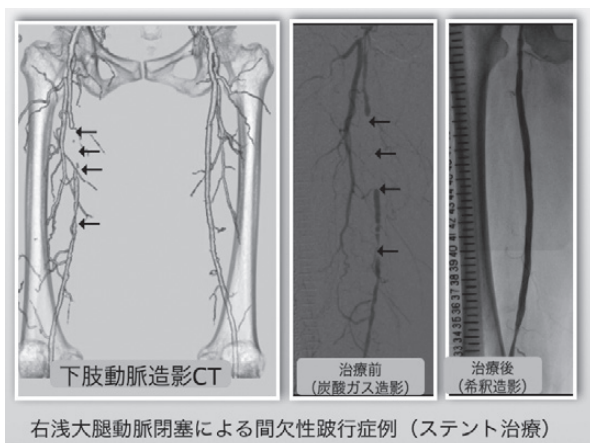
6) 腎動脈狭窄症

腎動脈に高度狭窄があると、腎臓への血流を維持するために血圧を上昇させる反応が起こります。これが長期になると、治療に難渋する高血圧や腎機能障害、心不全の原因につながります。当院はこの疾患に早くから注目し、対象となりそうな症例に積極的に腎動脈エコーでスクリーニングを行なっています。これまでに通算150例を超える症例を治療し、その経験は多くの学会や研究会で報告してきました。ステント治療後の経過は良好で、再狭窄は5%前後でした。

2013年度は17例の腎動脈狭窄症に対してステント治療を行いました。最近の傾向として、治療対象になる腎動脈狭窄症の背景に、心不全を繰り返す症例が多いことがあります。

7) 深部静脈血栓症／肺塞栓

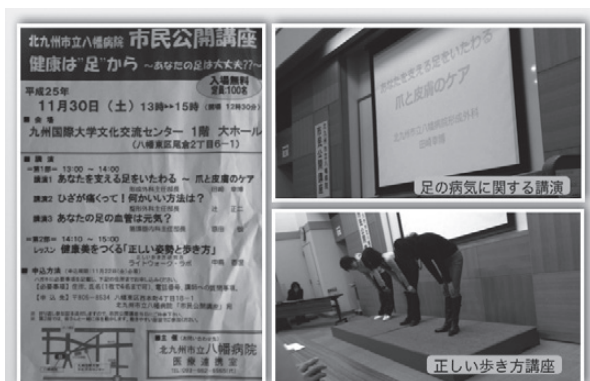
最近、静脈系疾患もカテーテルで治療できる事例が増えています。下肢静脈血栓症では、3例でカテーテルによる血栓除去や血栓溶解を試み、血栓が大量の事例では肺塞栓を防ぐために7例で下大静脈フィルター留置を行ないました。左下肢の慢性的浮腫の原因である腸骨静脈圧排症候群に対しては、3例でステント治療を行ないました。重症の肺塞栓症例では、1例で肺動脈内の血栓溶解や破砕吸引を行っています。



8) 心筋症、心筋炎

ウイルス感染が原因となる激症心筋炎は重症心不全となる比較的古い疾患ですが、非常に死亡率が高く治療に難渋する場合があります。当院では毎年数件の症例を経験しており、最近4年間では5例経験して3例が回復、2例を失いました。2013年度は1例の激症心筋炎に遭遇しましたが、ショック状態が続き回復不可能でした。

心筋に異常をきたす心筋症は、その原因によって



2013年11月30日 北九州市立八幡病院市民公開講座 健康は「足」から



2013年5月11日 八幡エコー塾

疾患の予後や治療方針が大きく変わります。この原因検索は時に困難な場合があります、心室にカテーテルを挿入して心筋の一部を鉗子で採取する心筋生検は、時に有用な情報を与えてくれます。

2013年度は4例に心筋生検を行ないました。

9) その他

急性冠症候群や慢性心不全、末梢動脈疾患患者に対し、適度な運動を行なうことは予後の改善に繋がります。当院では、数年前より心臓リハビリテーションを導入し、入院中の心血管疾患に対してリハビリを行なってきました。最近では、一部の外来患者に対して、外来心臓リハビリテーションも開始しました。運動療法を継続できている患者さんの満足度は高く、経過も良好です。

■学会・研究会・講演会

2013年度も多くの学会や研究会で当院の経験を報告しました。また末梢血管治療、腎動脈治療を中心に、各地での講演会活動も行ないました。今後も学術活動、啓蒙活動に力を入れたいと思います。

内容	件数
論文	1 件
講演	29 件
学会・研究会	28 件
著書	1 件
座長・司会	16 件

■市民講座

昨年11月、八幡東区にて、「足の健康」をテーマとした市民講座を行ないました。整形外科が関節の病気、形成外科が爪の病気、循環器科は血管の病気の話を取り上げ、講演を行ないました。また会の後半では、インストラクターによる正しい歩き方講座を行

なっていました。多くの参加があり、大変好評でしたので、今後もこの活動を継続していきます。

■血管エコーハンズオンセミナー（八幡エコー塾）

超音波検査は、低コストで全く侵襲がない診断方法です。私達は、以前よりこの分野での強化を行ってきました。最近では、頸動脈や腎動脈、腹部大動脈、下肢動脈、下肢静脈を超音波で診断する血管エコー検査を活用しています。この検査法はまだ普及が十分ではないため、他の施設からの見学も増えてきました。昨年、血管エコー初心者を対象としたセミナーを企画したところ、70名を超える参加があり、大変好評でした。本年は、検査装置が追加され、対応できる技師も増えたので、また企画したいと考えています。

■循環器スタッフ（2014年）

役職	氏名	卒業	得意分野
副院長	太崎 博美	S56年 九州大学	高血圧、高脂血症、心不全
主任 部長	原田 敬	S61年 長崎大学	高血圧、心不全、冠動脈インターベンション、末梢動脈インターベンション、不整脈治療、心血管エコー検査
部長	田中 正哉	H2年 産業医大	心不全、冠動脈インターベンション、心臓リハビリテーション
部長	酒井 孝裕	H6年 徳島大学	冠動脈インターベンション、末梢動脈インターベンション、不整脈治療
部長	小住 清志	H8年 産業医大	心不全、高脂血症、高血圧、冠動脈インターベンション、心臓リハビリテーション
部長	佐貫 仁宣	H14年 長崎大学	冠動脈インターベンション、末梢動脈インターベンション
副部長	屏 壮史	H22年 産業医大	循環器全般
	岩垣 端礼	H23年 産業医大	循環器全般
	中園 和利	H23年 産業医大	循環器全般

小児救急センターの歩みと展望

北九州市立八幡病院小児救急センターの歩みは、約30年前から市川光太郎現病院長を初めとした延べ250名を超える同僚や先輩方により脈々と流れ築かれた小児救急医療における*Spirit & Experience based Medicine*（精神と経験に基づく医療）の歩みそのものだったと換言ができます。現役で日常の小児救急医療・医学に従事する私たちにとって多様化する課題に直面したときの何よりの大きな支えとなっています。

本稿では、小児救急センターの臨床・研究・教育の現状と新病院における小児救急センターの構想に向けた将来の展望をご紹介させていただき、皆様方の今後も変わることのないご指導とご助言を頂きたいと考えています。

【臨床】

豊富な臨床症例に恵まれていることです。近隣の総合病院小児科・久留米大学小児科・産業医科大学小児科の先生ならびに北九州地区・遠賀中間・筑豊地区の多くの諸先輩方と院内の外科（小児外科）・形成外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科の諸外科系診療科の先生方に支えられていることの証に他なりません。

2008年に病棟を再編いたしました。西4階病棟48病床（うち個室8室）東4階病棟46病床（うち個室9室）ICU8病床（他科と併用）の計最大102病床を小児救急センター病棟として稼働するにいたしました。診療所や近隣の総合病院からの救急搬送や紹介患者を断る事例は皆無となりました。2013年、時間外受診を含む外来年間患者受診者数は52,000名にのぼり、救急搬送は約900件、最近数年間入院者数は平均3,800名に達しています。外傷を含めた全ての子どもの対応が可能となっています。

【トリアージと急変対応システム】

このような受診者数・入院者数の増加は、必然的に効率的・効果的な医療すなわち安全で質の高い

医療を求められるようになりました。臨床面でのシステム導入による改革の一つが、2006年に全国に先駆けて小児救急トリアージ制度を導入しています。救急外来という限られた時間内に要求されるトリアージの実際には、意識的な「語りの医療*Narrative Based Medicine (NBM)*」の態度が不可欠となります。虐待に代表されるマルトリートメント症候群や育児困難が潜在する家庭機能不全などの子どもを取り巻く複雑な社会的・経済的背景を瞬時に察知し配慮することが出来る能力を緊急度評価と同時にシステムに包括し、小児救急医療に求められる社会的ニーズに備えています。

2011年からは、医療安全の推進の側面から全ての入院患者に対し、「小児早期警告スコアリング・システム」を導入いたしました。看護師・医師間で共有し、院内急変を予測し、未然に対処できるように日常のフィジカルアセスメントと病態評価をスコア化した急変対応システムです。院内・外に開かれた小児集中治療と管理が可能となるように整備いたしました。

現在トリアージシステムやERにも「小児早期警告スコアリング・システム」を導入し、フィジカルアセスメントの標準化を目指しています。

【臨床研究】

臨床研究とは豊富な症例からエビデンスを見いだす作業であると考えています。素朴な疑問に立ち止まり、リサーチ・マインドを持ち続ける若き医師が新しいエビデンスを作り出す機運を尊重しています。この雰囲気作りは、スタッフ全員による毎日の早朝カンファレンスと365毎日全員で実施される総合ラウンド回診、毎週の抄読会・症例検討会により繰り返し伝えられ、個々の発展的で地道な作業を可能にしています。最近五年間は、日本小児科学会、日本小児救急医学会・日本救急医学会・日本臨床救急医学会を中心に年間平均約70の臨床研究を継続的に発表および論文で結果を残すことができています。

小児救急看護領域でも、2013年当センターを支える看護師の中から3名の日本看護協会小児救急認定看護師が誕生しました。800時間を超える「小児救

急看護」に特化した講義・実習を修了し、厳しい認定試験に合格したエキスパート看護師です。院内・外教育のリーダーとしての存在意義は大きく、既に前述のトリアージや育児不安への対応などを数量化した看護研究が実践されています。

【教育】

教育面では臨床研修グループを3つに分け、7-15年目の小児科学会専門医が臨床面で指導にあたっています。小児救急診療の基本となる外観・意識や呼吸・循環の評価とバイタルサインに基づいた病態生理の評価を迅速にでき、簡潔に伝える能力の修得を目標としています。また小児の二次心肺蘇生教育(PALS)も院内で定期的に正式開催できるようになりました。

このような初期診療の重要性をテーマに病院外でも教育する機会も得られています。2007年以降8年間北九州市保健福祉局の協力で主催した「小児救急ワークショップ 小児救急トリアージ」「小児早期警告スコアリング・システム」は、全国の小児救急に関わる看護師・救命士総勢延べ400名の参加のもとに、活発な意見交換と議論が展開されました。小児救急に関する本邦初の参加型ワークショップとなり、日本小児救急医学会教育研修委員会主催「教育セミナー」においても私たちの経験を伝承しています。

2013年現在、新規後期研修医6名を含む22名の医師が勤務しています。出身大学や郷土の違いから全国各地の方言が飛び交っています。外来や病棟では、小児救急専門看護師を中心に看護師・保育士・心理士を含む小児救急チームが形成されました。「チームのために何ができるか?」を考える力を継続していける土台が完成したといえます。

【将来の展望】

2018年の八幡病院移転と新病院計画が来年いよいよ具体化していきます。新小児救急センターでは、①小児専門集中治療室(PICU) ②ドクターカーやヘリによる小児搬送医療の充実 ③リハビリテーション・療育機能センター ④臨床研究センター機能 ⑤小児血液腫瘍疾患・小児神経疾患さらなる専門的診断治療を提供できるように目標を掲げていま

す。

理念として掲げる「来院する全ての子どもの健康と安全を守る質の高い救急医療と継続的な総合医療」の変わらぬ提供を本稿の読者にお約束します。

【理念】

来院する全ての子どもたちの状態を
すみやかに評価し、緊急性 に応じた
質の高い診療を目指します。

次代を担う子どもたちの成育のために
ご家族への支援とともに、
暖かい総合医療を
継続的に提供いたします。

YAHTA.PED ~ Our Concept & Pride ~

*We promise to provide a high quality of care
to every child who comes to our hospital.
We will promptly assess and triage the children
based on their clinical status.*

*The future of the next generation rests on our
children's shoulders.*

*We want to provide continuity of care
by assisting their growth, and by supporting
their family.*

*Together with the families,
we want to lead a path to safety and peace.*

" Thank you for being with us. "
*A simple word of gratitude and a single smile
from a child and a family
makes us proud.*

【外来診療案内】

小児救急センターの外来診療室は現在第2夜間休日急患センター棟内に移転しています。診察室5つと児童精神・心理室1つの6つのブースを有し、ベッドによる観察室8つと処置室4つのベッドで外来部門が稼

働いています。移転により24時間365日同じブースで診療体制を組むことができました。休日・夜間ともスタッフが常に3人勤務し、救急部看護師とともに小児ERとして外傷や重篤小児の受け入れを可能としました。一般外来の診察表をお示しいたします。

緊急連絡電話番号：093-662-6565

外科・呼吸器外科

外科主任部長 木戸川 秀生

現在、外科・呼吸器外科は伊藤副院長を筆頭に3名の主任部長（岡本好司、木戸川秀生、井上征雄）さらに3名の部長（山吉隆友、野口純也、榊屋隆太）6年目の久永 真、4年目の松本 彩の9名で診療にあたっている。当直は毎日の救命センター外科当直に毎週火曜日のコムシティ第二急患センター準夜を担当している。

人事異動：2013年3月末で馬場雅之、渋谷亜矢子が退任し4月1日より久永 真、松本 彩が着任した。

手術：2013年の全手術件数は363件（全身麻酔344例、局所麻酔17例、腰椎麻酔1例）緊急手術は121例で全体の33.3%を占めていた。鏡視下手術（胸腔鏡下手術・腹腔鏡下手術）の割合は全手術数の67.2%と半数以上が鏡視下手術であった。2013年3月から榊屋隆太医師が小児外科における女児の腹腔鏡下ヘルニア根治術（LPEC）を導入し1年間で15例施行した。

外来移転：以前の外科外来手狭になってきた折、小児科外来が小児救急センターへ移転することとなったため、それに伴い2013年5月より外科外来を旧小児科外来へ移転した。それに伴い従来の3診を4診へ増やすことができた。

業績：2013年1年間で論文発表29件、学会発表38件であった。3月の腹部救急医学会総会では岡本、木戸川、馬場の3人でシンポジウム2題、パネルディスカッション1題、ワークショップ1題を発表した。専門医関係では野口純也が肝臓外科専門医を山吉隆友が外傷学会専門医を取得した。

今後の展望：2014年4月からは小児外科が2名体制となる。また呼吸器外科主任部長が1名増員となる。一方相対的に若い医師が少なくなっており研修医を含めた若手医師の補充が今後の課題である。



整形外科は6名の医師が診療に当たっています。3名が日本整形外科学会専門医の資格を持っており、病院自体も日本整形外科学会の研修指定病院となっています。

骨折などの外傷に対する手術が主で、手術後のなるべく早い時期からのリハビリテーションを実施しています。

2013年は309例の手術（内固定具抜去を含めて）を行い、ほとんどが麻酔科管理で行われ、上肢の骨折121例（鎖骨19例、肩2例、上腕9例、肘31例、前腕21例、手関節部36例、手指3例）、下肢の骨折192例（大腿骨64例、膝関節部33例、下腿34例、足関節40例、足趾17例）、骨盤骨折4例でした。そのうち多発骨折は14例、小児の骨折は70例でした。救命救急センターを併設していることから、重症の骨折症例が多く、また小児救急センターを併設していることから、小児の骨折症例が多いことが特徴と言えます。一次から三次救急までの整形外科患者の診療を担当しており、外傷に対しても小児骨折の基本はギプスなどの保存療法です。しかし、成人では最近の手術方法、手術機器の進歩はめざましく、治療成績が良いと判断される例には積極的に手術を行っています。開放骨折や脱臼、小児の骨折など、緊急性の高い手術は、救急科、麻酔科、手術部、小児科の協力のもと、即日行っています。

2013年の学会活動としては、北九州整形外傷研究会、福岡整形外科外傷研究会、西日本整形・災害外科学会で発表をしました。また、北九州リハビリテーション研究会等にも積極的に参加をしています。

今後の方向性としては、外傷治療を含めた救急医療の充実、急性期リハビリテーションの充実を目指しております。

スタッフ

2013年4月より1年間限定ながら常勤医3名から4名に増員した。

それでも常勤医は充足していないが、非常勤医の診療応援を仰ぎ、脳神経外科専門スタッフ（待機、呼び出しでなく）院内常駐による24時間脳神経救急対応を維持している。

脳卒中ホットライン導入

通常の救急受け入れに加えて、2013年7月より脳卒中ホットラインを導入した。救急隊へのオンライン指導と、スムーズな搬入受け入れを目的としているため、ホットラインは救急隊に告知している。通常の搬入依頼に比べて件数は少ないものの、半年間で19件コールがあった。

脳卒中は19例のうち7例で、脳梗塞4例、脳出血3例であった。他の12例は、てんかん3例、良性発作性頭位めまい2例、頭痛2例、一過性全健忘1例、頸椎症1例、低血糖1例、脳炎1例、外傷1例であった。脳梗塞4例中、4例とも重症ではあったが、急性期血行再建適応例ではなかった。

脳出血3例中、2例は脳幹出血、1例は小脳出血であった。

脳卒中以外のコールの比率は高いが、19件中15件は脳神経外科入院を要しており、一定の役割は果たしていると思われる。

問題点をあげるならば、コールの件数が少ないことに尽きる。症状が軽いと脳卒中ホットラインへのコールを逡巡する傾向があり、救急隊への啓蒙を常時行っている。通常搬入依頼に占める脳卒中ホットライン件数の増加が急性期血行再建適応例等の搬入時間短縮に役立てると考えている。

症例紹介

脳卒中の外科治療に加え、脳血管内治療も行っている。くも膜下出血を発症した脳動脈瘤症例（Fig. 1）と脳梗塞を発症した内頸動脈狭窄症例（Fig. 2）を提示する。

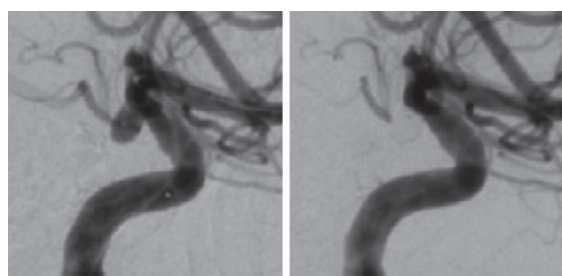
また、頭部・脳疾患だけでなく、脊椎疾患の治療も

行っている。

頸椎過伸展で受傷したハングマン骨折症例（Fig. 3）を提示する。

今後も脳神経救急を中心に地域医療に貢献しつつ、脳神経外科全般の研鑽に努めたい。

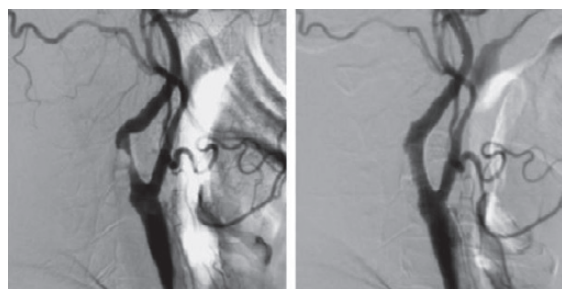
Fig. 1



脳動脈瘤

コイル塞栓術後

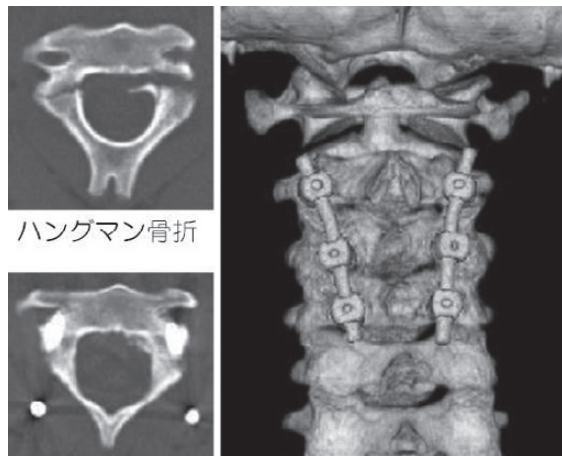
Fig. 2



内頸動脈狭窄症

ステント留置術後

Fig. 3



ハングマン骨折

骨癒合後

後方固定術後

常勤3名

うち日本形成外科学会専門医が1名から2013年4月より2名となった。

小児科の後期研修医に2週間ずつの形成外科研修を行った。

2013年の手術件数

I. 外傷	608
熱傷	14
顔面軟部組織損傷	406
顔面骨折	27
頭部・頸部・体幹の外傷	6
上肢の外傷	131
下肢の外傷	24
II. 先天異常	129
唇裂・口蓋裂	81
頭蓋・顎・顔面の先天異常	26
四肢の先天異常	12
体幹（その他）の先天異常	10
III. 腫瘍	185
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	168
悪性腫瘍	16
腫瘍切除後の組織欠損	1
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	10
V. 難治性潰瘍	16
VI. 炎症・変性疾患	30

最近の話題

●口唇裂手術

表層の微細な構造や筋肉の走行を考慮し、より正常に近い立体感が得られる手術方法を行っており、日本口蓋裂学会学術集会や日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会などで報告し、中央での手術ビデオセッションの講演依頼や日本形成外科学会のシンポジストに選ばれることになるなど、全国的にも当院の方法が知られるようになった。

●レーザー治療

これまでのCO2レーザーに加えて、新たにQスイッチルビーレーザーが導入され、茶色あるいは青色のアザの治療が可能となった。

太田母斑、扁平母斑、異所性蒙古斑、外傷性色素沈着など、保険適応になっている症例に対して、治療を開始している。

●小児救急外傷

小児科後期研修医への形成外科領域の研修を行い、また時間外のコンサルテーションを工夫するなど、より連携を深くし、迅速な対応ができるようになった。

●ボトックス治療

新たに重症の原発性腋窩多汗症もボトックス治療が保険適応になったため、腋窩の発汗については、重度の腋窩多汗症に対してはこのボトックス治療を行い、腋臭症（わきが）に対しては手術を行なうこととなった。



1. 1年間の現状

外来診療は、2013年2月1日より医師1名による1診体制（看護師2名）になった。外来患者数は若干減ったが膀胱鏡や前立腺生検などの検査や定期的尿道カテーテル交換などの処置において支障はなかった。

泌尿器科の入院患者数と手術件数も減少した。予定手術のうち経尿道的手術はTUR-Bt4件、TUR-P2件であった。緊急手術として、外科紹介の胃癌と直腸癌の腎後性腎不全症例の2例に腎瘻を造設、骨盤骨折に伴う後部尿道損傷（ICU）と、頭部外傷で前立腺癌全摘術後の尿道カテーテル挿入困難（ER）の各1例に膀胱瘻を造設した（いずれも時間外）。また尿管結石による腎盂破裂（1例）と、内科紹介の膿腎症／結石性腎盂腎炎や腎後性腎不全陥った3例に対し、緊急で経尿道的尿管ステント留置を行った。

小児科の予定手術としては、膀胱尿管逆流症に対する尿管膀胱吻合（Cohen）が例年並みの7件あったが腎盂形成は全くなかった。他の予定手術として停留精巣固定が6件（3件は両側）、陰嚢水腫手術が4件、精巣捻転手術が1件あった。また夜間に精巣捻転手術を1件行った。なお、小児手術件数は20件であったが、その全てを小児科医と2人で施行した。

2. 今後について

2014年も1人診療科の予定である。

1. 精神科診療内容について

当院精神科は外来とリエゾンを柱として診療を行っています。リエゾンとは、患者さんに身体科と精神科の両面から治療をしていくことです。

午前中は外来患者さんの診察にあたり、午後は身体科主治医から依頼のあった入院患者さんの往診に行くというのが基本的なやりかたです。

2. 外来診療について

2013年の年間外来患者数は3,271人でそのうち新患は172人でした。

新患の疾患分類をICD-10分類でみると主な疾患は
F4： 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 55人

F3： 気分障害 36人

F0： 器質性精神障害 20人

F2： 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害 11人

などで、精神疾患を認めない人も19人いました。

3. リエゾンについて

精神科紹介となった入院患者さんののべ人数は511人でした。紹介元として整形外科、内科、外科で8割を占めていますが、共通して多いのはせん妄、夜間不穏対応です。とくに整形外科の骨折患者さんの割合が多くなっています。

4. 自殺未遂者支援事業について

北九州市が平成25年9月に開始した「北九州いのちとこころの支援事業（自殺未遂者支援事業）」に協力しています。当院救急センターに搬送された自殺未遂者を当科に紹介してもらい支援センターにつなぐことで他職種スタッフと協力し退院後も再企図のないよう支援していくものです。ご本人の同意が必要なので搬送された全員というわけにはいかず、現在3人の人が支援を受けています。

5. 今後の方向性について

診療内容の充実に加え、メンタルケアが重要視さ

れつつ現在、講演会や相談などを通し地域との連携を深めたいと思います。

救急科の現状と今後の展望

6年前に救急科ができ、救急科専門医をもった専属の医師がそれぞれの専門性を活かしながら、救急診療にあたっています。

現時点での救急科のおもな役割は、1. 救命救急センター搬送患者のトリアージ・診療、2. 救急科研修医への指導教育、3. 北九州市消防局ワークステーション救急隊への指導、4. 救急救命士の病院再研修指導、5. ドクターカーをはじめとした病院前診療、6. 災害派遣医療チーム (DMAT) としての災害訓練、7. 市内の災害研修会の講師など、となっています。

上記の救急科の業務内容を細かく説明していくと、

1. 当救命救急センターは、外科、脳神経外科、内科、小児科の4名が常時当直しています。このため、救急科医師は、重症症例については、上記当直医と協力、連携して、救急搬送患者に対する診療を行います。搬送多数の場合、救急外来のトリアージナースとともにトリアージを行っています。
2. 前期研修医の先生には、救急科研修3ヶ月を必修としております。まず、平日時間内に救命救急センターに搬送される内科、外科系を中心とした患者の初療を、救命救急センター担当医の指導助言のもとに一緒に行っています。
3. 病院前医療、メディカルコントロールを熟知した救急科医師による北九州市消防局ワークステーションの高度救急隊への指導を行っています。また、心肺停止症例のみならず、すべての救急事案において救急車にて実際、同乗出動し、現場で直接指導助言を行うとともに、みずからも救急現場での活動を通してよりプレホスピタルへの理解を深めています。心肺停止患者においては、認定救命士と共に現場にて、器具を用いた気道確保、静脈路確保、薬剤投与など速やかな救命処置も行い、現場での蘇生処置を行っています。現在までに、700以上症例近く同乗し現場に出動しています。
4. 当救命救急センターは救命士の病院再研修、救命救急九州研修所の病院実習、就業前実習、薬剤認定救命士の病院実習など常時受け入れており、その数は年間に70名以上にのぼります。こうした研修において、救急部看護師とともに医師、看護科、関係部署へ連絡、調整を行い、より充実した実習が行えるように活動しております。また、最近では救急救命士の病院再研修に力をいれており、救急外来、病棟、検査科、放射線科、手術室での見学、実習ほかに、ワークステーション高度救急隊と共に、心電図モニター講習や、BLS (一次救命処置) やシナリオシミュレーションなど、より質の高い研修を目指しています。
5. 患者搬送機能をもった当院ドクターカーとワークステーションの救急車に乗り、年間200件程度の病院前診療を行っています。
6. 災害拠点病院である当救命センターは、すでに3チームが日本DMAT、福岡DMATの研修を受けています。北九州市医師会、北九州市消防局など関係機関と日頃より連携し、顔の見える関係を築くと共に、有事に備えて積極的に市や県の災害訓練に参加しています。

当部門の診療放射線技師は、「病院基本理念」「放射線技術部門基本理念」に従って365日休むことなく、患者様にやさしく高度な検査を迅速に提供しています。

スタッフは、正規職員18名・臨時職員1名の19名で、変則2交代勤務にて放射線業務に携わっています。主な検査内容は、一般撮影・透視・血管造影・心臓血管造影・CT・MR・RI検査などがあります。

平成25年3月に5番撮影装置と救急撮影装置の更新を行い、フラットパネルディスプレイを導入しました。これにより撮影画像を瞬時に表示でき、撮影検査を迅速に行えるようになりました。

また、MR検査においては、VSRAD：早期アルツハイマー型認知症診断システムを導入しました。従来行われていたRI検査と合わせて、VSRADを診断に役立てていただけると期待しています。

業務実績

平成25年1月から12月までの各検査項目の患者数は、以下のとおりです。

	一般撮影	CT	MR	造影透視	DSA	心カテ	RI	骨塩	コピー
1月	2,652	738	181	96	16	45	20	5	61
2月	2,497	674	188	90	6	37	17	6	56
3月	2,738	761	219	76	14	36	17	2	74
4月	2,758	614	233	89	17	38	14	5	90
5月	2,751	687	212	121	4	34	28	3	71
6月	2,073	589	231	100	3	38	24	0	76
7月	2,125	629	210	116	19	34	24	0	76
8月	2,472	566	181	91	8	38	15	0	62
9月	2,293	554	173	83	10	31	17	1	68
10月	2,199	634	211	90	16	42	26	2	85
11月	2,175	546	183	90	13	32	20	1	75
12月	2,217	674	205	83	10	31	8	1	92
合計	28,950	7,666	2,427	1,125	136	436	230	26	886

3年間の比較（検査人数）

	一般撮影	CT	MR	造影透視	DSA	心カテ	RI	骨塩	コピー
平成23年	35,874	8,360	2,549	888	117	491	284	69	730
平成24年	32,715	8,223	2,557	1,070	131	447	232	60	745
平成25年	28,950	7,666	2,427	1,125	136	436	230	26	886

現在、放射線技術部門には十数台の高額な画像診断装置がありますが、十分に活用されていない装置もあります。特にRI検査の件数は、10年間で半減しています。

放射線画像診断装置は、装置本体だけでなく毎年の保守・管理の費用も高額でありますので、装置を有効かつ効率よく利用し増収につなげていただけることを期待しております。

展望および課題

平成25年の電子カルテ導入に伴い、全てのモダリティにてフィルムレス化を行います。また、平成29年度の新病院開設において、検査をスムーズに行うため検査室の集約を行い装置及び器具の効率の良い利用を行いたと考えています。

画像診断装置は、年々高性能化しており、これを使用する技師も装置を十分使いこなす為のレベルアップを図る必要があります。しかし、日勤帯の人員不足や変則2交代勤務のため一貫した研修が行えない状態であり、対応を考慮する必要があります。

機器構成

西棟

一般撮影装置	3台
TV装置	3台
CT装置 (64列)	1台
血管造影装置	1台
パントモ撮影装置	1台

東棟

心カテ装置	1台
RI装置	1台
MR装置	1台

北棟

救急撮影装置	1台
CT装置 (16列)	1台

その他

ポータブル装置	3台
---------	----

1. 概況

当科は臨床検査技師数19名で検査業務を行っている。変則2交代勤務体制で日勤・夜勤を行い通常業務から救急搬送患者対応まで24時間体制である。

2. 現状

2013年は、全自動血液凝固測定装置、糖尿病検査システムも更新され安定した検査ができている。

血清フェリチン、無機リンの院内測定を実施した。また、薬物濃度測定を生化学自動分析装置（汎用機）で行う事により毎日測定が可能となり診療への支援体制強化に努めた。それとともに、汎用機で測定する事により試薬のコストダウンも行った。

生理検査部門では循環器医師の指導のもと腎・血管エコーの習得に努めルーチン化を目指している。FMD検査（非侵襲的血管内皮機能評価の検査）をルーチン化し血管内皮の病態把握の手助けを行っている。

チーム医療への参加も積極的に行っている。感染対策に於いては、八幡東部地区地域連携の中心的役割を担う病院として積極的にカンファレンスや他病院のラウンドにも参加している。また院内のICT活動、NST活動にも積極的に参加し資料作りなど中心的役割をはたしている。

医療安全の面においてもリスクマネジメント部会の中心的役割をはたしワーキンググループの一員としても積極的に協力している。

また現在は電子カルテ導入に向けて検体・細菌WG、輸血WG、病理WG、生理WG、放射線・内視鏡WG、チーム医療WG、外来導線WG、入退院導線WG、診療文書WG、クリニカルパスWGなどのWGに参加し使いやすい電子カルテの導入を目指している。

3. 今後の方向性

臨床検査システムのバージョンアップを26年3月21、22、23日で行う。

電子カルテ導入に伴い看護科の業務軽減目的で

血沈検査、微生物抗原迅速キット検査（8項目）を検査科で行う。

4病院の時代に医療センターで行うと決めた検査集約体制の見直しも今後の課題である。

全自動化学発光免疫測定装置を導入し感染症、甲状腺機能、腫瘍マーカーの院内測定を行い結果報告までの時間短縮を実現し患者サービスに寄与する。

電子カルテ導入、新病院建設に向けて少しでも良い電子カルテ、新病院となるように職員一丸となって取り組んで行きたい。

薬剤科 2013年とこれから

当院薬剤師は、医療チームの一員として薬学的視点に立ち、医薬品の有効性・安全性を確保することに全力で取り組んでいます。

薬剤師が担当している病棟では、入院患者様の持参薬調査、処方薬歴の管理、薬の説明・注意事項の指導や相互作用・副作用の管理などを行っています。

退院時は、退院後の外来受診時に診察室や調剤薬局の窓口で役立つよう、入院中の医薬品情報（医薬品名や服用量など）をお薬手帳に記載しています。

外来化学療法では、化学療法のレジメン管理や抗がん剤の無菌的調整を行い、患者様への説明や副作用についての相談対応を行っています。

救急病院であることから、医薬品に関することは時を選ばず、24時間切れ目のない業務に従事しながら、日進月歩の医療に対応するため、各人が自己研鑽に努めています。

今後は、電子カルテ導入や新病院建設を機会により良いシステムを構築し、全ての入院患者様の医薬品情報を把握し、より安全で効果的な薬物治療を提供できるよう「病棟薬剤業務」の開始に向け努力してまいります。

1979年、理学療法士1名が整形外科採用となり、当院のリハビリテーション業務が開始されました。ニーズの増大に伴い少しずつスタッフの増員がなされ、2010年より作業療法士も採用されました。

現在では、理学療法士4名作業療法士2名で、患者さんの一日も早い社会復帰を目指し日々奮闘しています。

施設基準は、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）・脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）となっています。

現状

整形外科、脳神経外科を中心に、各科からの依頼となっています。（図参照）

外来患者には月に一度のカンファレンスを行い、整形外科と脳神経外科の病棟では週に一度のカンファレンスを行なっています。他職種と連携をとりあって治療にあたっています。

現在施設基準で脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）でないのは、スタッフが少ないためであり、取得には理学療法士5名以上、作業療法士3名以上、言語聴覚士も含め合計10名以上のスタッフ常勤が条件となります。

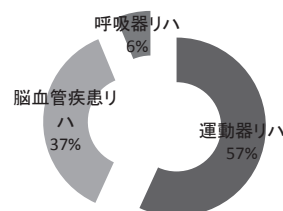
今後の方向性

- ・ 早急な言語聴覚士の採用が必要です。摂食嚥下訓練や言語訓練の需要は大きいと考えます。
- ・ 当院の規模であれば、リハの必要な患者は多く潜在していると思われます。理学療法士・作業療法士の増員を図り、脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）を取得できるようにしていきたいと考えています。
- ・ 整形外科、脳神経外科、形成外科からは直接、その他の科からは整形外科を通しての依頼となっていました。2013年5月より内科・循環器内科からも直接指示となりました。各科からの直接指示を受けることを検討しています。（内科・循環器内科からの患者数は2012年75名から、2013年135名へ

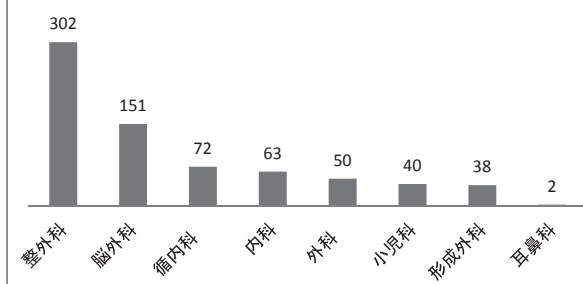
増加しました）

- ・ 心大血管リハをはじめ、外科周術期のリハや呼吸器リハ、また急性期小児リハなどに積極的に関わっていきたいと考えています。そのためにも、一層の知識習得が必要だと思います。

2013年診療報酬単位別割合



2013年診療科別患者数



3学会呼吸療法認定士 和才 千世子
砂山 明生

2013年の課題の1つは、3月に実施した救急病棟の病床数変更とそれに伴う一般病棟再編である。安全な看護の提供を第一に、再編に向け新たに受け入れる診療科の疾患・治療・看護について知識・技術を修得する目的で研修会を開催し準備を進めた。その成果もあり全職員の協力のもと大きな問題もなく新体制に移行することができた。

4月には、新規採用看護師13名（このうち新卒看護師7名）を迎え、また看護師長も半数が新しい顔ぶれでスタートした。

目標を「看護業務を改善し働きやすい職場環境を確保する」「経営を意識し有効な病床利用を行う」「安全・安心な入院環境の提供を行う」とし、取り組みを進めた。

看護業務の改善については、現状の課題を把握するために、各部署と師長室との意見交換会を行い職員から意見の聞き取りを行った。同時に「超過勤務に関するアンケート調査」を実施した。職員との意見交換の中で毎日のように超過勤務をせざるをえない状況に「疲れている」という声が多く聞かれた。また、救急病院という特殊性もあり部署間で忙しさに格差が見られることや超過勤務が日勤帯に集中していることも問題としてあがった。

対策として、部署間応援（リリーフ）体制実施手順を作成し、10月1日から運用を開始した。自主的に応援を申し出ってくれる回数も徐々に増えてきている。

今後も評価・改善を加え、少しでも組織力をアップし安全・安心の看護サービスの提供に繋げるとともに、看護職員のWLBを推進していきたい。

経営を意識した病床利用については、電子カルテ導入や新病院建設を控えた八幡病院にとって最重要課題であり、スムーズな入院患者受入れ、退院調整への積極的な関わり、接遇改善など取り組みを進めている。

また、質の高い看護ケア実践やチーム医療を推進していくために認定看護師の育成や活用についても力を入れている。5月には「救急看護認定看護師」が1名増え、5分野8名の認定看護師が、院内活動だけでなく学会発表や外部講師などでも活躍している。

八幡病院が今後とも地域医療に貢献し市民から選ばれる病院として生き残っていくためには、古き良きものは残しつつ時代の要請に対応できるよう変化していくことが必要である。今が非常に重要な時期であることを再認識し、職員一丸となって看護力の強化や業務改善を進めていくことが今後の課題である。



事務局（管理課）庶務係

管理課庶務係長 石本 弘一

当院の事務局は管理課と経営企画課の2課に計4つの係りが置かれており、その中で管理課庶務係は病院全体の庶務・調整業務や庁舎管理業務、職員の労務管理・福利厚生業務、諸物品の購入などの多種多様な業務を担当しています。総勢8名の小さな所帯ですが、病院内の「縁の下の力持ち」となるべく日々努力をしています。

さて、平成25年（2013年）は5月に新北九州市立八幡病院基本構想が策定され、新病院建設に向けて大きな一歩を踏み出すことになりました。今後基本計画、基本設計、実施設計、建設と進めていくこととなりますが、現在は地域の基幹病院として必要となる病院機能について、いろいろな視点から病院内外での活発な議論が進められているところです。

それと同時に、庶務係では現病院の施設や機能を維持しながら、問題なく新病院開院を迎えるための取り組みを積極的に進める1年となりました。

当院は昭和53年の現病院建設から35年以上が経過しており、途中で大規模改修を行っていますが経年による劣化が目立つようになってきました。地域の医療機関として患者の皆様の療養環境はしっかりと守っていくという目標の下、昨年からは病院機能の根幹である非常用電源や火災報知・非常放送装置、診察室・手術室・病棟の空調などの改修を進めてきたところです。今年は手術室や外来の冷暖房装置の整備・更新、非常用発電装置の心臓部の改修、非常用放送設備の全面更新などの施設改修を病院が24時間稼働している中ではありましたが無事行うことができました。これにより、新病院開院までの病院の根幹機能の維持に一定の目途をつけたところです。古い施設ではありますが、安心して患者の皆様が病院で過ごしていただけるように今後も引き続き施設の維持補修を進めていく予定です。

また、平成25年は当院の消防計画を全面的に改正し、『地震発生（防災）⇒火災発生（防火）』を想定した大規模な訓練を実施いたしました。

訓練では、災害時の初動対応や災害対策チームの活動、火災時の自衛消防組織の活動を実際に行う手順で実施し、非常時の対応手順の再確認を行いました。

訓練終了後には、消防署による消火器、屋内消火栓の使い方、避難時の防火扉の操作対応や避難時の心構え等の講習があり、職員一同、防火・防災に関する知識及び意識を高めることができました。

救命救急センターを擁する病院として、非常時の対応には常に万全を期して、今後もしっかり取り組んでいきたいと思っています。

事務局（管理課）栄養管理係

管理課栄養管理係長 梅木 加寿子

医療の一環として、入院患者全員に栄養管理を行い、安全でおいしい食事を提供すること、入院や外来患者の栄養指導が主な業務です。

食事提供業務は一部委託しており、献立作成、全体的な栄養管理が病院、食材の発注、調理、盛り付け、配膳等は委託会社が担っています。

職員は、病院側が管理栄養士3名、会社側が管理栄養士1名栄養士6名、調理師8名、調理員12名（パート含む）で構成されています。

食事の提供

患者さん一人ひとりの病態や、年齢性別等に合わせた食事を提供する他、食欲のない患者さんには、個別に聞き取りを行い、主食の種類や量の変更、栄養補助食品を追加するなど、きめ細かな対応を心掛けています。

また、お正月や、ひなまつりなどの行事食や、季節の食材を使用したメニューを織り込み、一般食の常食・粥食等では、朝、夕に選択メニューを取り入れるなど、食事が楽しみとなるように工夫しています。

年2回、嗜好調査を行い、食事内容の向上に役立っています。

小児では食物アレルギーを持つ患者も多く、個別の献立を作成し、細心の注意を払って調理や盛り付けを行っています。

25年度は、選択食や個別献立の提供がより正確に、スムーズに行えるように、栄養システムの更新を行いました。



栄養管理計画書の作成

入院患者全員の栄養管理計画書を、医師、看護師等と共に作成し、栄養管理を行うとともに、病室を訪問して、治療食についての説明や、アレルギー内容、喫食状況の確認等を行っています。

栄養指導

外来や入院患者対象の個別栄養指導は随時行っています。

教室関係は、糖尿病教室（月1回）や糖尿病食事会（年2回）、骨粗鬆症予防教室（年2回）の集団栄養指導とアレルギー予防教室（年2回）の個別相談を行っています。

チーム医療

NST活動では、事務局的な役割を果たし、毎週の勉強会、月1回の運営委員会、ラウンド等の準備、参加を行っています。また、内科回診、褥瘡ラウンドにも参加し、チーム医療の中で、栄養に関する相談を受けたり、提案を行ったりしています。

医療安全やICT活動も、委員として積極的に活動しています。

糖尿病患者会（みどりの会）

事務局として患者さんと共に、毎月の機関誌「さかえ」の発送や、糖尿病栄養教室、食事会などの行事を企画し、実行しています。また、毎年、北九州市全体で行うウォークラリーに参加しています。

25年度の糖尿病栄養教室では「糖尿病治療薬についての最近の話題」と題して、坂本薬剤科副部長の講演を行い、患者さんに新しい薬への理解を深めていただきました。

次年度は、電子カルテ導入により事務作業の効率化を行い、患者さんに接する機会を増やし、多職種との連携を図りながら、医療サービスの向上に努力していきたいと思っています。

＜2013年患者統計＞

項 目	
入院延患者数	93,081人
外来延患者数	135,795人
（うち第2夜間・休日急患センター）	（6,204人）
（うち救命救急センター）	（48,629人）
紹 介 率（平成25年度）	59.9%
逆紹介率（平成25年度）	45.4%
在院日数（平成25年度）	12.2日

＜第2夜間・休日急患センターの移転＞

八幡病院に併設されていた第2夜間・休日急患センター（以下「第2急患センター」という。）が、平成25年5月7日から八幡西区黒崎のコムシティ内に移転となった。

移転後の第2急患センターとの連携については、円滑な患者受け入れができるよう、受け入れ手順の策定や院内専用電話の設置、当院の当直表の提供など連携体制を構築した。

また、第2急患移転後にウォークインで当院に直接来られた患者や電話相談などについては、原則、第2急患センターやテレフォンセンターを案内しているが、看護師等により患者の容態を確認し、第2急患センターでは対応できないCT等の必要のある患者やオペ後フォロー中など当院かかりつけ患者については、引き続き当院で受け入れている。

今後とも、第2急患センターとの連携を図り、迅速な診察・処置が必要な患者を受け入れ、救命救急病院としての責務を果たしていきたい。

＜リストバンドの導入＞

医療情報委員会において、患者誤認防止など医療安全の観点から審議を重ね、平成25年5月27日からリストバンドを導入した。入院患者や手術がある患者などにリストバンドの装着をお願いし、重症患者や麻酔下の患者など、口頭による本人確認が困難な場合などでも本人確認が可能となった。



5

業績集



2013年 八幡病院業績集

内科

学会・研究会

- 1 A型インフルエンザに伴い急性壊死性脳症を発症した成人の一例
古野 郁太郎、末永 章人、吉田 有吾、栗屋 幸一、上野 啓通
第301回 日本内科学会九州地方会 5月26日 長崎市
- 2 強直性脊椎骨増殖症に伴う気管閉塞により発症した陰圧性肺胞出血の1例
伊藤 光佑、立和田 隆、吉田 有吾、栗屋 幸一
第71回 日本呼吸器学・日本結核病学会九州支部 秋季学術講演会 10月12日 福岡市

座長・司会

- 1 吉田 有吾
呼吸器駆け込み寺の会 5月16日 北九州市

講演

- 1 その喘鳴ホントに気管支喘息？
吉田 有吾
呼吸器駆け込み寺の会 5月16日 北九州市

循環器内科

論文

- 1 腎動脈スクリーニングのための腎動脈エコー理論
原田 敬
The VERDICT 10月号；3-3：2013
- 2 Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy by lung adenocarcinoma
Ikutatsu Furuno, Seiya Tanaka, Hiromichi Ueno, Hisaharu Ooe, Yugo Yoshida, Takashi Harada, Yukikazu Awaya, Hiromi Tasaki
Journal of Case Reports, Vol. 3, No. 2, July-Dec 2013
- 3 The Correlation between Post-Procedural Plasma Fractalkine and Lipid Plaque Volume in Target Lesion after Coronary Stent Implantation
Seiya Tanaka, Yoshitaka Muraoka, Yuki Tsuda, Shinjo Sonoda, Masahiro Okazaki, Yutaka Otsuji
J Clin Exp Cardiol 2013, 4:2

学会・研究会

- 1 大腿動脈高位穿刺による合併症を予防しえた一例
屏 壮史、上野 啓通、高橋 正雄、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第55回 北九州循環器懇談会 2月1日 北九州市

2	症例提示 高橋 正雄 八幡PADカンファレンス	2月1日	北九州市
3	症例提示 上野 啓通 八幡PADカンファレンス	2月13日	北九州市
4	意識障害で来院したA型インフルエンザの一例 古野 郁太郎 第31回 八幡循環器カンファレンス	3月7日	北九州市
5	慢性呼吸不全急性増悪にて救急搬送となった一例 (1) 上野 啓通 第31回 八幡循環器カンファレンス	3月7日	北九州市
6	慢性呼吸不全急性増悪にて救急搬送となった一例 (2) 上野 啓通 第31回 八幡循環器カンファレンス	3月7日	北九州市
7	よろず相談コーナー 上野 啓通 第31回 八幡循環器カンファレンス	3月7日	北九州市
8	インピーダンスカルジオグラフィーを用いて血行動態をモニターしつつ治療を行なった虚血性心疾患の一例 古野 郁太郎、上野 啓道、屏 壮史、高橋 正雄、今村 香奈子、小住 乃理子、小住 清志、田中 正哉、 原田 敬、太崎 博美 玄海心不全カンファレンス	3月8日	北九州市
9	症例提示 原田 敬 八幡シネカンファレンス	4月22日	北九州市
10	八幡ECHO塾 春季特別講座 経過報告 原田 敬 ひびき灘心血管エコー倶楽部	6月5日	北九州市
11	北九州CPCRセミナー 症例提示 原田 敬 北九州CPCRセミナー	6月11日	北九州市
12	エコーガイドEVTの秘密 原田 敬、岩垣 端礼、屏 壮史、高橋 正雄、長谷川 潤、小住 乃理子、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美 Slender Club Japan Workshop in HIgashikani	6月22日	可児市
13	エコーガイドEVTの秘密 原田 敬、岩垣 端礼、屏 壮史、高橋 正雄、長谷川 潤、小住 乃理子、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美 八幡PADカンファレンス	6月27日	北九州市
14	インピーダンスカルジオグラフィーを用いて血行動態をモニターしつつ治療を行なった虚血性心疾患の一例 古野 郁太郎、岩垣 端礼、屏 壮史、高橋 正雄、今村 香奈子、小住 乃理子、小住 清志、田中 正哉、 原田 敬、太崎 博美 第114回 日本循環器学会九州地方会	6月29日	福岡市

-
- 15 浅大腿動脈ステント治療後の新規病変を血管内視鏡で観察しえた閉塞性動脈硬化症の一例
高橋 正雄、岩垣 端礼、屏 壮史、長谷川 潤、小住 乃理子、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第114回 日本循環器学会九州地方会 6月29日 福岡市
- 16 浅大腿動脈ステント再閉塞に対し血栓破碎デバイスを用いて再治療を行なった一例
屏 壮史、岩垣 端礼、高橋 正雄、長谷川 潤、小住 乃理子、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第114回 日本循環器学会九州地方会 6月29日 福岡市
- 17 pressure wireおよびIVUSを用いた腎動脈狭窄の重症度評価の検討
岩垣 端礼、屏 壮史、高橋 正雄、長谷川 潤、小住 乃理子、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第114回 日本循環器学会九州地方会 6月29日 福岡市
- 18 症例提示
屏 壮史
第32回 八幡循環器カンファレンス 7月11日 北九州市
- 19 よろず相談コーナー
岩垣 端礼
第32回 八幡循環器カンファレンス 7月11日 北九州市
- 20 偽腔に迷入したガイドワイヤーを体外からの金属針穿刺で真腔に誘導する方法 (Poorman's OUTBACK法)
にてre-entryに成功したSFA-CTOの一例
原田 敬、岩垣 端礼、屏 壮史、高橋 正雄、長谷川 潤、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
第20回 日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会 8月31日 久留米市
- 21 肩関節脱臼後の圧迫固定により発生した右上腕～鎖骨下静脈血栓に対し、血管内治療 が奏功した一例
岩垣 端礼、屏 壮史、高橋 正雄、長谷川 潤、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第20回 日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会 8月31日 久留米市
- 22 Cypher StentのLate Stent Malapositionが原因と思われるSTEMIの一例
岩垣 端礼、屏 壮史、高橋 正雄、長谷川 潤、小住 乃理子、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第56回 北九州循環器懇談会 10月4日 北九州市
- 23 炭酸ガス造影を用いたSFA-CTOへのEVTの一例
原田 敬
八幡PADカンファレンス 10月23日 北九州市
- 24 脊椎損傷合併Leriche症候群によるCLIにEVTを行なった一例
高橋 正雄
八幡PADカンファレンス 10月23日 北九州市
- 25 症例提示
岩垣 端礼
第33回八幡循環器カンファレンス 11月7日 北九州市
- 26 よろず相談コーナー
岩垣 端礼
第33回 八幡循環器カンファレンス 11月7日 北九州市
- 27 Cypher StentのLate Stent Malapositionが原因と思われるSTEMIの一例
岩垣 端礼、屏 壮史、高橋 正雄、長谷川 潤、小住 乃理子、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第115回 日本循環器学会九州地方会 12月7日 佐賀市
-

-
- 28 脊椎損傷合併Leriche症候群によるCLIにEVTを行なった一例
高橋 正雄、岩垣 端礼、屏 壮史、長谷川 潤、小住 乃理子、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第115回 日本循環器学会九州地方会 12月7日 佐賀市

座長・司会

- 1 原田 敬
EVTライブデモンストレーション5 JET 2013 2月16日 大阪市
 - 2 原田 敬
症例検討
第31回 八幡循環器カンファレンス 3月7日 北九州市
 - 3 原田 敬
LIVE Demonsrtarion 4 Slender Club Japan Live Demonstration in Kobe 4月6日 神戸市
 - 4 原田 敬
Peripheral Video Live Demonstration 2 Slender Club Japan Live Demonstraion in Kobe
4月7日 神戸市
 - 5 原田 敬
症例検討
八幡シネカンファレンス 4月22日 北九州市
 - 6 原田 敬
症例検討
八幡PADカンファレンス 6月27日 北九州市
 - 7 原田 敬
末梢血管 (2)
第114回 日本循環器学会九州地方会 6月29日 福岡市
 - 8 原田 敬
症例検討
第32回 八幡循環器カンファレンス 7月11日 北九州市
 - 9 原田 敬
コーヒーブレイクセミナー
第19回 CVIT九州・沖縄地方会 8月31日 久留米市
 - 10 原田 敬
Peripheral Theater Live (English session) Complex Cardiovascular Therapeutics 2013 (CCT2013)
10月17日 神戸市
 - 11 原田 敬
Peripheral Live Theater (English Session) Complex Cardiovascular Therapeutics 2013 (CCT2013)
10月17日 神戸市
 - 12 原田 敬
EVT Morning Session Complex Cardiovascular Therapeutics 2013 (CCT2013) 10月18日 神戸市
 - 13 原田 敬
Case Competition (English Session) Complex Cardiovascular Therapeutics 2013 (CCT2013)
10月19日 神戸市
-

-
- | | | |
|----|---|-------------|
| 14 | 原田 敬
症例検討
八幡PADカンファレンス | 10月23日 北九州市 |
| 15 | 原田 敬
症例検討
第33回 八幡循環器カンファレンス | 11月7日 北九州市 |
| 16 | 原田 敬
経験から学ぶ最適な血管内治療（大動脈・腎動脈）
第6回 九州 Joint Endovascular Theapeutics (QJET) | 11月23日 福岡市 |

講演

- | | | |
|---|---|------------|
| 1 | JETコアラボ教育セッション 血管エコービデオライブ：
臨床研究／治験を踏まえて「腎動脈エコー測定の実際」
原田 敬
Japan Endvascular Therapeutics (JET) 2013 | 2月17日 大阪市 |
| 2 | 動脈硬化診療に頸動脈エコーを活かす
原田 敬
Im TEP 門司 | 2月18日 北九州市 |
| 3 | 腎動脈エコーのピットフォール 弱点を知って精度をあげよう
原田 敬
済生会福岡総合病院院内講演会 | 3月5日 福岡市 |
| 4 | 動脈硬化リスク評価のための頸動脈エコー
原田 敬
第31回 八幡循環器カンファレンス | 3月7日 北九州市 |
| 5 | 難治性高血圧／慢性腎臓病における腎動脈エコーの意義
原田 敬
長崎エコーハンズオンセミナー | 3月19日 長崎市 |
| 6 | 治療抵抗性高血圧／慢性腎臓病における腎動脈エコーの意義
原田 敬
別府循環器セミナー | 3月22日 別府市 |
| 7 | Periphreal Video Live Demonstration: Transradial Renal Artery Stenting - Should we treat this lesion?
Takashi Harada Slender Club Japan 2013 Live Demonstration and Annual Meeting in KOBE | 4月7日 神戸市 |
| 8 | 腎動脈狭窄症の診断と治療 TIPS & TRICKS
原田 敬
徳山中央病院院内講演会 | 4月12日 徳山市 |
| 9 | 日常診療に活かす血管エコー 頸動脈／腎動脈／下肢動脈
原田 敬
長崎保険医協会医家研究会 | 4月19日 長崎市 |
-

10	動脈硬化診療に頸動脈エコーを活かす 原田 敬 Im TEP八幡	5月13日	北九州市
11	不整脈の診断と治療 非専門医のための心電図活用法 原田 敬 福岡県保険医協会北九臨床研究会	5月14日	北九州市
12	難治性高血圧、慢性腎臓病、なんとなく診てませんか？ 原田 敬 第9回 桜台循環器カンファレンス	5月31日	相模原市
13	実践！ ECHO塾 原田 敬 諫早記念病院院内講演会	6月1日	諫早市
14	Functional Evaluation of Renal Artery Stenosis - Renal Duplex Ultrasound vs FFR 原田 敬 東海大学医学会	7月4日	伊勢原市
15	冠動脈CTについて 小住 清志 第32回 八幡循環器カンファレンス	7月11日	北九州市
16	Current concept of screening, indication and treatment for renal artery stenosis 原田 敬 CVIT2013, Educational Session4	7月12日	神戸市
17	腎動脈狭窄と腎動脈エコーの基本と実際～腎交感神経アブレーション時代に備えて 原田 敬 金沢循環器病院 EVT Workshop	7月20日	金沢市
18	腎動脈狭窄症における腎動脈【エコーの意義】 原田 敬 第52回 宮崎インターベンション研究会	8月2日	宮崎市
19	心血管エコー10のTIPS～明日から役立つ小ネタ集 原田 敬 恵み野病院院内講演会	9月5日	恵庭市
20	当院Advisa MRI植込み患者に対するMRI検査の経験 原田 敬 条件付きMRI対応ペースメーカー講演会	9月13日	大分市
21	腎動脈エコーによる高血圧スクリーニング 原田 敬 治療抵抗性高血圧セミナー	9月27日	福岡市
22	EVTと血管エコーと私 原田 敬 第15回 北関東PTA研究会	9月28日	大宮市

-
- 23 Session II: 心領域 循環器医によるPADマネジメント
原田 敬
第4回 北九州ATISサミット 11月15日 北九州市
- 24 Advisa MRI植込み患者に対するMRI検査の経験
原田 敬
北九州デバイスカンファレンス 11月18日 北九州市
- 25 末梢血管治療におけるPressure Wireの可能性
原田 敬
QJET 11月23日 福岡市
- 26 頸動脈エコーを動脈硬化診療に活かす
原田 敬
別府循環器セミナー 11月25日 別府市
- 27 あなたの足の血管は大丈夫？
原田 敬
第1回 北九州市立八幡病院 市民公開講座 11月30日 北九州市
- 28 Expanding Role and Limited Efficacy of Vascular Ultrasound
Takashi Harada
BEST 2013 12月7日 大阪市
- 29 橈骨動脈スパズムと対処法
小住 清志
第20回 鎌倉ライブデモンストレーション 12月21日 横浜市

著書

- 1 解剖がわかれば走査がわかる 決定版 超音波検査テクニックマスター ～腹部・下肢編～
原田 敬
Vascular Lab 増刊号 メディカ出版 2013

その他

- 1 原田 敬
第1回 八幡ECHO塾 5月11日 北九州市

整形外科

論文

- 1 小児橈骨頸部骨折の治療経験
黒木 一央、野口 雅夫、辻 正二、乗松 崇裕、黒木 綾子
整形外科と災害外科 62 (1) :72-74:2013

学会・研究会

- 1 上腕骨骨幹部粉碎骨折に対して2期的に手術を行った1症例
太田 真悟
第47回 福岡整形外科外傷研究会 4月6日 福岡市
- 2 軽微な外傷にて下腿コンパートメント症候群を来した2症例
渡邊 航之助、田中 尚洋、上戸 康平、萩原 弘、辻 正二、野口 雅夫
第126回 西日本整形・災害外科学会 10月10日 宇部市
- 3 Double platingで加療した脛骨高原骨折の2症例
上戸 康平
第48回 福岡整形外科外傷研究会 10月26日 福岡市
- 4 大腿骨骨幹部粉碎骨折 (AO 32-C3) の治療経験
辻 正二、田中 尚洋、渡邊 航之助、上戸 康平、萩原 弘、野口 雅夫
第18回 北九州整形外傷研究会 11月20日 北九州市

座長・司会

- 1 野口 雅夫
第36回 北九州骨・関節セミナー 4月9日 北九州市
- 2 野口 雅夫
鎖骨
第125回 西日本整形・災害外科学会 6月9日 久留米市
- 3 野口 雅夫
第247回 北九州整形外科医会 8月23日 北九州市
- 4 野口 雅夫
第77回 北整会レントゲンカンファランス 10月30日 北九州市
- 5 野口 雅夫
下腿
第126回 西日本整形・災害外科学会 11月10日 宇部市

講演

- 1 ひざが痛くって!何かいい方法は?
辻 正二
北九州市立八幡病院市民公開講座 11月30日 北九州市

その他

- 1 野口 雅夫
(講義)運動器外傷のポイント(長崎大学医学部5年生) 4月3日 長崎市

外科・呼吸器外科

論文

- 1 残胃に発生した早期胃未分化癌の1例
濱田 聖暁、伊藤 重彦、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、坂田 則行
日本臨床外科学会雑誌 745:1261-1264:2013
- 2 穿孔性・膿瘍形成性虫垂炎術後に予防的ドレーンは必要か？
木戸川 秀生、岡本 好司、松本 彩、久永 真、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、伊藤 重彦
日本外科感染症学会雑誌 104:395-399:2013
- 3 保存的に治療した腹腔動脈閉塞にともなう後下脛十二指腸動脈瘤破裂の1例
木戸川 秀生、岡本 好司、山吉 隆友、野口 純也
日本消化器病学会雑誌 110:1831-1837:2013
- 4 内視鏡下における脾臓摘出術のコツと問題点
岡本 好司、木戸川 秀生、野口 純也、山吉 隆友、馬場 雅之、渋谷 亜矢子、榊屋 隆太、小西 勇輝、井上 征雄、伊藤 重彦
Medical Photonics 12:30-33:2013
- 5 Cholangitis Cholecystitis Bundle
岡本 好司、高田 忠敬、吉田 雅博、真弓 俊彦、三浦 文彦
日腹部救急医学会誌 33:591-596:2013
- 6 急性胆管炎に伴う敗血症性DICの病態と治療
岡本 好司、日暮 愛一郎
胆と膵 3412:1219-1226:2013
- 7 TG13 management bundles for acute cholangitis and cholecystitis.
Okamoto K, Takada T, Strasberg SM, Solomkin JS, Pitt HA, Garden OJ, B chler MW, Yoshida M, Miura F, Kimura Y, Higuchi R, Yamashita Y, Mayumi T, Gomi H, Kusachi S, Kiriyaama S, Yokoe M, Lau W-Y, Kim M-H
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 20:55-59:2013
- 8 TG13 guidelines for diagnosis and severity grading of acute cholangitis (with videos) .
Kiriyaama S, Takada T, Strasberg SM, Solomkin JS, Mayumi T, Pitt HA, Gouma DJ, Garden OJ, B chler MW, Yokoe M, Kimura Y, Tsuyuguchi T, Itoi T, Yoshida M, Miura F, Yamashita Y, Okamoto K, Gabata T, Hata J, Higuchi R, Windsor JA, Bornman PC, Fan ST, Singh H, de Santibanes E, Gomi H, Kusachi S, Murata A, Chen XP, Jagannath P, Lee S, Padbury R, Chen MF, Dervenis C, Chan AC, Supe AN, Liao KH, Kim MH, Kim SW.
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 201:24-34:2013
- 9 TG13 diagnostic criteria and severity grading of acute cholecystitis (with videos) .
Yokoe M, Takada T, Strasberg SM, Solomkin JS, Mayumi T, Gomi H, Pitt HA, Garden OJ, Kiriyaama S, Hata J, Gabata T, Yoshida M, Miura F, Okamoto K, Tsuyuguchi T, Itoi T, Yamashita Y, Dervenis C, Chan AC, Lau WY, Supe AN, Belli G, Hilvano SC, Liao KH, Kim MH, Kim SW, Ker CG.
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 201:35-46:2013

-
- 10 TG13 flowchart for the management of acute cholangitis and cholecystitis.
Miura F, Takada T, Strasberg SM, Solomkin JS, Pitt HA, Gouma DJ, Garden OJ, B chler MW, Yoshida M, Mayumi T, Okamoto K, Gomi H, Kusachi S, Kiriyaama S, Yokoe M, Kimura Y, Higuchi R, Yamashita Y, Windsor JA, Tsuyuguchi T, Gabata T, Itoi T, Hata J, Liau KH.
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 201 ; 47–54 : 2013
 - 11 TG13 indications and techniques for gallbladder drainage in acute cholecystitis (with videos) .
Tsuyuguchi T, Itoi T, Takada T, Strasberg SM, Pitt HA, Kim MH, Supe AN, Mayumi T, Yoshida M, Miura F, Gomi H, Kimura Y, Higuchi R, Okamoto K, Yamashita Y, Gabata T, Hata J, Kusachi S.
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 201 ; 81–88 : 2013
 - 12 TG13 miscellaneous etiology of cholangitis and cholecystitis.
Higuchi R, Takada T, Strasberg SM, Pitt HA, Gouma DJ, Garden OJ, B chler MW, Windsor JA, Mayumi T, Yoshida M, Miura F, Kimura Y, Okamoto K, Gabata T, Hata J, Gomi H, Supe AN, Jagannath P, Singh H, Kim MH, Hilvano SC, Ker CG, Kim SW.
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 201 ; 97–105 : 2013
 - 13 TG13 : Updated Tokyo Guidelines for the management of acute cholangitis and cholecystitis.
Takada T, Strasberg SM, Solomkin JS, Pitt HA, Gomi H, Yoshida M, Mayumi T, Miura F, Gouma DJ, Garden OJ, B chler MW, Kiriyaama S, Yokoe M, Kimura Y, Tsuyuguchi T, Itoi T, Gabata T, Higuchi R, Okamoto K, Hata J, Murata A, Kusachi S, Windsor JA, Supe AN, Lee S, Chen XP, Yamashita Y, Hirata K, Inui K, Sumiyama Y.
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 201 ; 1–7 : 2013
 - 14 Pretreatment of donor islets with the Na⁺/Ca²⁺ exchanger inhibitor improves the efficiency of islet transplantation.
Mera T, T Itoh, S Kita, S Kodama, D Kojima, H. Nishinakamura, K Okamoto, M Ohkura, J Nakai, T Iyoda, T Iwamoto, T Matsuda, A Baba, K Omori, J Ono, H Watarai, M Taniguchi, Y Yasunami.
Am J Transplantation 138 : 2154–2160 : 2013
 - 15 Multivariate Analysis of Factors Influencing Length of Hospitalization and Medical Costs of Cholecystectomy for Acute Cholecystitis in Japan : A National Database Analysis.
Murata A, Okamoto K, Matsuda S, Kuwabara K, Ichimiya Y, Matsuda Y, Kubo T, Fujino Y.
Keio J Med. 623 : 83–94 : 2013
 - 16 A prospective analysis of disseminated intravascular coagulation in patients with infections.
Seki Y, Wada H, Kawasugi K, Okamoto K, Uchiyama T, Kushimoto S, Hatada T, Matsumoto T, Imai H ; Japanese Society of Thrombosis Hemostasis/DIC Subcommittee.
Intern Med. 5217 : 1893–1898 : 2013
 - 17 Time trend of medical economic outcomes of endoscopic submucosal dissection for gastric cancer in Japan : a national database analysis.
Murata A, Okamoto K, Muramatsu K, Matsuda S.
Gastric Cancer. : Epub ahead of print : 2013
-

-
- 18 A Randomized, Controlled, Multicenter Trial of the Effects of Antithrombin on Disseminated Intravascular Coagulation in Patients With Sepsis.
Gando S, Saitoh D, Ishikura H, Ueyama M, Otomo Y, Oda S, Kushimoto S, Tanjoh K, Mayumi T, Ikeda T, Iba T, Eguchi Y, Okamoto K, Ogura H, Koseki K, Sakamoto Y, Takayama Y, Shirai K, Takasu O, Inoue Y, Mashiko K, Tsubota T, Endo S.
Crit Care. Dec 16;17 (6) :R297. Epub ahead of print : 2013
- 19 Endoscopic submucosal dissection for gastric cancer : the influence of hospital volume on complications and length of stay.
Murata A, Okamoto K, Muramatsu K, Matsuda S.
Surgical Endoscopy : [Epub ahead of print] : 2013
- 20 Thrombomodulin improves the liver injury, coagulopathy, and the mortality in experimental mice heatstroke model.
Kawasaki T, Okamoto K, Kawasaki C, Sata T.
Anesthesia & Analgesia : Epub ahead of print : 2013
- 21 人工股関節置換術後の滑膜嚢腫よりKasabach-Merritt症候群に類似した病態を呈し慢性DICとなった一例
米良 好正、大西 英生、酒井 昭典、内田 宗志、山田 壮亮、岡本 好司
整形・災害外科 5612;1521-1526 : 2013
- 22 急性期DIC診断基準で診断された敗血症性DICに対するアンチトロンビンの効果
丸藤 哲、齋藤 大蔵、石倉 宏恭、上山 昌史、大友 康裕、織田 成人、久志本 成樹、丹正 勝久、真弓 俊彦、池田 寿昭、射場 敏明、江口 豊、岡本 好司、小倉 裕司、小関 一英、阪本 雄一郎、高山 泰広、遠藤 重厚
日救急医学会誌 24;105-115 : 2013
- 23 深在性真菌症治療におけるカンディダ系抗真菌薬の位置付けと今後の展望
竹末 芳生、山岸 由佳、佐々木 淳一、岡本 好司
Pharma Medica 317;102-110 : 2013
- 24 鈍的胸部外傷症例の検討 多発外傷を中心に
山吉 隆友、岡本 好司、井上 征雄、渋谷 亜矢子、馬場 雅之、久永 真、松本 彩、榊屋 隆太、田口 健蔵、野口 純也、木戸川 秀生、伊藤 重彦
日本救命医療学会雑誌 27;9-14 : 2013
- 25 インヒビターのない血友病患者に対する止血治療ガイドライン : 2013年改訂版
藤井 輝久、天野 景裕、渥美 達也、石黒 精、大平 勝美、岡本 好司、勝沼 俊雄、嶋 緑倫、高橋 芳右、松下 正、松本 剛史、森下 英理子
血栓止血誌 246;619-639 : 2013
- 26 精神科患者の緊急度判定プロトコル作成を目的とした救急病院搬送患者の緊急度・重症度と転帰調査
井上征雄
平成24年度 消防庁消防防災科学技術研究推進制度「精神科患者の救急搬送に関する研究」;54-59 : 2013
- 27 精神科患者搬送におけるタブレット型端末 (iPad) を用いた緊急度判定の有用性の検討
木戸川 秀生
平成24年度 消防庁消防防災科学技術研究推進制度「精神科患者の救急搬送に関する研究」;60-68 : 2013
-

学会研究会

- 1 DIC診断基準の項目Prothrombin Time (PT) としてのFibrinogen (Fbg)
岡本 好司、池添 隆之、江口 豊
第7回 日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム 1月12日 東京都
 - 2 最近経験した反省させられる胆汁漏の2例
野口 純也、岡本 好司、山吉 隆友、馬場 雅之、渋谷 亜矢子、榊屋 隆太、井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第34回 九州肝臓外科研究会学術集会 1月12日 福岡市
 - 3 DIC診断基準の項目Prothrombin Time (PT) としてのFibrinogen (Fbg)
岡本 好司、池添 隆之、江口 豊
第7回 日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム 1月12日 東京都
 - 4 播種性血管内凝固症候群に対するリコモデュリンの使用経験
馬場 雅之、岡本 好司、渋谷 亜矢子、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第13回 日本DIC研究会 2月2日 東京都
 - 5 直腸切除術9年目に発症した腹壁内ストーマ穿通の1例
小西 勇輝、渋谷 亜矢子、馬場 雅之、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生、
岡本 好司、伊藤 重彦
第113回 北九州外科研究会 2月15日 北九州市
 - 6 上部消化管穿孔に対する単孔式内視鏡手術（ワークショップ）
馬場 雅之、木戸川 秀生、渋谷 亜矢子、榊屋 隆太、野口 純也、新山 新、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、
伊藤 重彦
第49回 日本腹部救急医学会総会 3月13日 福岡市
 - 7 Management Bundleと今後のガイドライン評価計画（サテライトシンポジウム）
岡本 好司、高田 忠敬、真弓 俊彦、三浦 文彦、吉田 雅博
第49回 日本腹部救急医学会総会 3月13日 福岡市
 - 8 腹部救急疾患に対する内視鏡外科手術の適応と限界（パネルディスカッション）
木戸川 秀生、伊藤 重彦、渋谷 亜矢子、榊屋 隆太、馬場 雅之、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司
第49回 日本腹部救急医学会総会 3月14日 福岡市
 - 9 急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン2013におけるbundleの設定（シンポジウム）
岡本 好司、高田 忠敬、吉田 雅博、真弓 俊彦、三浦 文彦
第49回 日本腹部救急医学会総会 3月14日 福岡市
 - 10 精神科患者の救急搬送に関する研究
伊藤 重彦
平成24年度 消防防災科学技術推進制度研究成果報告会 3月15日 東京都
 - 11 両側異時性気胸手術症例の検討
井上 征雄、伊藤 重彦、山吉 隆友、松本 彩、久永 真、榊屋 隆太、野口 純也、木戸川 秀生、岡本 好司
第30回 日本呼吸器外科学会 5月9日 名古屋市
 - 12 漏出性胆汁性腹膜炎の1小児例
榊屋 隆太、岡本 好司、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、馬場 雅之、渋谷 亜矢子、
伊藤 重彦、南川 将吾、神蘭 淳司、市川 光太郎
第50回 九州小児外科学会 5月10日 宜野湾市
-

-
- 13 S状結腸ストーマ脚穿孔の2例
松本 彩、木戸川 秀生、久永 真、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第50回 九州外科学会 5月10日 宜野湾市
- 14 最近経験したメッシュ感染の1例と当院の感染例の検討
木戸川 秀生、岡本 好司、渋谷 亜矢子、馬場 雅之、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、伊藤 重彦
第11回 日本ヘルニア学会学術集会 5月10日 仙台市
- 15 右膀胱ヘルニアを合併した両側鼠径ヘルニアに対してTAPP法を施行した1例
渋谷 亜矢子、木戸川 秀生、馬場 雅之、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第11回 日本ヘルニア学会学術集会 5月10日 仙台市
- 16 高齢者の転倒による胸部外傷症例の検討
山吉 隆友、岡本 好司、井上 征雄、渋谷 亜矢子、馬場 雅之、榊屋 隆太、野口 純也、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第27回 日本外傷学会 5月24日 久留米市
- 17 当院における鋭的肝損傷症例の検討
木戸川 秀生、伊藤 重彦、渋谷 亜矢子、馬場 雅之、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司
第27回 日本外傷学会 5月24日 久留米市
- 18 抗血栓療法中患者の周術期管理
岡本 好司
第35回 日本血栓止血学会学術集会教育講演3 5月31日 山形市
- 19 腹腔鏡下虫垂切除術 -当院における術式の変遷と現状-
木戸川 秀生、松本 彩、久永 真、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
平成25年度 第一外科同門研究会 6月1日 長崎市
- 20 腹腔鏡下補助下に手術を行った魚骨穿孔の2例
久永 真、伊藤 重彦、松本 彩、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生、岡本 好司
第16回 日本臨床救急医学会総会 7月12日 東京都
- 21 精神科救急における搬送・受入れの問題点と負担軽減のための対策（パネルディスカッション）
伊藤 重彦、ほか 要確認
第16回 日本臨床救急医学会 7月13日 東京都
- 22 鋭的胸部損傷症例の検討
山吉 隆友、岡本 好司、松本 彩、久永 真、榊屋 隆太、田口 健蔵、野口 純也、井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第46回 日本胸部外科学会九州地方会総会 7月26日 福岡市
- 23 腹腔鏡下に観察を行った外傷による気腹症の3例
松本 彩、木戸川 秀生、久永 真、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第114回 北九州外科研究会 8月23日 北九州市
- 24 福岡県における精神科患者の搬送・受入れの現状と関係機関との連携について（ワークショップ）
伊藤 重彦
第32回 福岡救急医学会 9月7日 北九州市
- 25 Tokyo Guidelines 2013 (TG13) 急性胆管炎ガイドラインについて ～自験例からの検討～
野口 純也
第12回 北部福岡臨床救急セミナー 9月17日 北九州市
-

-
- 26 災害拠点病院の取り組み
伊藤 重彦
災害救急医療フォーラム市民公開セミナー 10月12日 北九州市
- 27 精神科救急における搬送および受入れの負担要因の調査および緊急度判定プロトコルの開発と
タブレット型科端末を用いた緊急判定の有用性の研究
伊藤 重彦
第61回 全国消防技術者会議 10月24日 東京都
- 28 日本海裂頭条虫寄生に伴い発症した漏出性胆汁性腹膜炎の1例
榊屋 隆太、岡本 好司、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、伊藤 重彦、南川 将吾、神蘭 淳司、
市川 光太郎
第70回 北九州小児外科研究会 11月1日 北九州市
- 29 鈍的外傷による胆嚢損傷の1例
山吉 隆友、岡本 好司、久永 真、松本 彩、榊屋 隆太、田口 健蔵、野口 純也、井上 征雄、木戸川 秀生、
伊藤 重彦
第5回 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 11月10日 東京都
- 30 残胃未分化癌の2切除例
野口 純也、木戸川 秀生、松本 彩、久永 真、榊屋 隆太、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第24回 北九州がんセミナー 11月11日 北九州市
- 31 虫垂炎を契機に発見された虫垂カルチノイドの1小児例
榊屋 隆太、岡本 好司、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、久永 真、松本 彩、伊藤 重彦、
後藤 保、神蘭 淳司、市川 光太郎
第75回 日本臨床外科学会総会 11月21日 名古屋市
- 32 後腹膜paragangliomaの1手術例
久永 真、岡本 好司、松本 彩、榊屋隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第75回 日本臨床外科学会総会 11月23日 名古屋市
- 33 外科領域DICに対する病態・診断・治療
岡本 好司
第26回 日本外科感染症学会総会 11月25日 神戸市
- 34 腹腔鏡下虫垂切除術の展開 ―当院における術式の変遷と現状―
木戸川 秀生、松本 彩、久永 真、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第26回 日本内視鏡外科学会総会 11月28日 福岡市
- 35 救急医療における単孔式内視鏡手術
松本 彩、木戸川 秀生、久永 真、榊屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第26回 日本内視鏡外科学会総会 11月28日 福岡市
- 36 TG13により設定された急性胆嚢炎診療bundleと急性胆嚢炎の診断・治療
岡本 好司、木戸川 秀生、野口 純也、山吉 隆友、松本 彩、久永 真、榊屋 隆太、田口 建蔵、井上 征雄、
伊藤 重彦
第26回 日本内視鏡外科学会総会 11月28日 福岡市
- 37 ノロウイルス感染性胃腸炎のアウトブレイク対応（パネルディスカッション）
伊藤 重彦
第4回 福岡感染対策研究会 12月4日 福岡市
-

38 当院で経験した非閉塞性腸管虚血症 (NOMI) の検討

久永 真、伊藤 重彦、木戸川 秀生、松本 彩、桝屋隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司

第28回 日本救命医療学会総会・学術集会

9月20日 久留米市

座長・司会

1 岡本好司

DIC部会

第7回 日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム2013

1月12日 東京都

2 伊藤 重彦

特別講演2

第14回 北九州災害救急医療フォーラム

1月28日 北九州市

3 伊藤 重彦

一般演題：静脈栄養

第28回 日本静脈経腸栄養学会

2月21日 金沢市

4 伊藤 重彦

特別講演

第10回 北九州西部地区医療安全研修会

2月25日 北九州市

5 伊藤 重彦

セッション1

MRSA感染症治療セミナー

2月27日 北九州市

6 伊藤 重彦

一般演題：てこずった感染症

平成24年度 北部福岡感染症研究会

3月6日 北九州市

7 岡本好司

特別講演2

第15回 北九州肝癌治療研究会

3月9日 北九州市

8 伊藤 重彦

一般演題：外傷1

第49回 日本腹部救急医学会総会

3月13日 福岡市

9 岡本好司

一般演題：示説46 胆道2

第49回 日本腹部救急医学会総会

3月14日 福岡市

10 伊藤 重彦

講演1：鳥インフルエンザH7N9

平成25年度 院内感染対策講演会

6月17日 北九州市

11 伊藤 重彦

総合司会

北九州内視鏡外科 (KES) セミナー

8月30日 北九州市

12 木戸川 秀生

主題口演1「重症外傷」

第32回 福岡救急医学会

9月7日 北九州市

13	伊藤 重彦 教育講演2 第32回 福岡救急医学会	9月7日	北九州市
14	岡本好司 ランチョンセミナー1 第32回 福岡救急医学会学術集会	9月7日	北九州市
15	伊藤 重彦 総合司会 第12回 北部福岡臨床救急セミナー	9月17日	北九州市
16	岡本好司 特別講演 第12回 北部福岡臨床救急セミナー	9月17日	北九州市
17	伊藤 重彦 特別講演 第11回 西部地区医療安全研修会	9月30日	北九州市
18	伊藤 重彦 総合司会 第1回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー	10月2日	北九州市
19	伊藤 重彦 特別講演 災害救急医療フォーラム 市民公開セミナー	10月12日	北九州市
20	伊藤 重彦 特別講演2 北九州がんセミナー	11月11日	北九州市
21	岡本好司 主題関連セッション 周術期管理におけるチーム医療の現状と展望2 第75回 日本臨床外科学会総会	11月21日	名古屋市
22	岡本好司 一般演題94 胆嚢 症例報告(1) 第26回 日本内視鏡外科学会総会	11月29日	福岡市

講演

1	感染対策防止加算一連携について 伊藤 重彦 第17回 九州化学療法研究会	1月19日	宮崎市
2	敗血症DICの病態と治療 岡本好司 鹿児島リコモジュリンフォーラム	2月8日	鹿児島市
3	敗血症DICの病態と治療 岡本好司 佐世保敗血症治療講演会	3月15日	佐世保市

4	敗血症の病態と診療 岡本好司 第41回 大垣市外科連合会学術講演会	3月23日	大垣市
5	注目すべき細菌、ウイルス感染症 伊藤 重彦 青洲会病院病院院内感染対策研修会	3月25日	福岡市
6	敗血症DICの病態と治療 岡本好司 浜松DIC治療研究会	3月25日	浜松市
7	最近のDIC診断と治療について 岡本好司 山口県臨床検査技師会血液部門講演会	3月30日	山口市
8	VRE感染対策と地域連携 伊藤 重彦 天草地区感染対策学術講演会	4月12日	天草市
9	中高年女性の注意すべき疾患について 岡本好司 八幡西婦人セミナー	5月10日	北九州市
10	メディカルコントロール体制からみた救急ワークステーションの位置づけ 伊藤 重彦 ひらつかER救急事例検討会	7月12日	平塚市
11	標準予防策 伊藤 重彦 平成25年度 感染症対策指導者養成研修会	7月20日	北九州市
12	プロトコルの策定とオンラインメディカルコントロール 伊藤 重彦 厚生労働省医政局 平成25年度 病院前救護体制における指導医等研修	9月4日	福岡市
13	プロトコルの策定とオンラインメディカルコントロール 伊藤 重彦 厚生労働省医政局 平成25年度 病院前救護体制における指導医等研修	9月4日	神戸市
14	DICの病態・診断・治療 岡本好司 長崎SIRS研究会	9月12日	長崎市
15	DICの病態・診断・治療 岡本好司 八代市郡医師会学術講演会	9月19日	八代市
16	医工連携による医療支援装置の開発 岡本好司 第2回 社会ロボット具現化ワークショップ	9月30日	北九州市

-
- | | | | |
|----|---|--------|------|
| 17 | 院内感染防止のための標準予防策
伊藤 重彦
福精協看護部長会北九州地区研修会 | 10月3日 | 北九州市 |
| 18 | 最近のがん事情
岡本好司
熊西まちづくり協議会健康づくり講座 | 10月4日 | 北九州市 |
| 19 | 病院・診療所における新型インフルエンザ等感染対策
伊藤 重彦
平成25年度 北九州市院内感染対策研修会 | 12月17日 | 北九州市 |

著書

- | | |
|---|--|
| 1 | 周術期感染症
岡本 好司
日経メディカル 100-120 医歯薬出版 2013 |
| 2 | 血栓止血関連検査 25 術前止血検査
岡本 好司
臨床に直結する血栓止血学 朝倉英策編 95-96 中外医学社 2013 |
| 3 | 血小板数低下をとまなう血栓性疾患 10 外科領域のDIC
岡本 好司
臨床に直結する血栓止血学 朝倉英策編 221-226 中外医学社 2013 |

その他

- | | | |
|---|--|----------------------|
| 1 | 伊藤 重彦
総務省消防庁委託研究「精神科患者の救急搬送に関する研究（主任研究者 伊藤重彦）」
平成25年度 消防庁消防防災科学技術推進制度 総括分担研究報告書 | 2013年2月 |
| 2 | 伊藤 重彦
毎日新聞座談会「患者塾」
1月26日、2月16日、3月23日、4月20日、6月22日、7月27日、8月24日（遠賀中間医師会館）、
5月25日、10月5日（小倉井筒屋）、10月12日（八幡医師会館）、11月4日（産業医科大学）、12月7日（津田医院） | |
| 3 | 伊藤 重彦
取材記事
・地域感染対策のための連携 MEDICAL PARTNERING 63:1-6, 2013.
・地域あげてウイルス抑制 毎日新聞 地域版
・北九州地域の救急医療体制 朝日新聞西部本社版夕刊 | 1月18日 1月29日
5月25日 |
| 4 | 伊藤 重彦
「腹部救急疾患の診断と治療」産業医科大学 外科学講義 | 1月25日 北九州市 |
| 5 | 岡本好司
Editorial Board就任:Journal of Critical Care Medicine, Hindawi Publishing Corporation | 2月1日 USA |
-

6	岡本好司 日本血栓止血学会 インヒビターのない血友病患者の急性出血、処置・手術における 凝固因子補充療法ガイドライン作成委員会 委員就任	2月1日	東京都
7	伊藤 重彦 講師 北九州市医師会災害時医療救護訓練研修会	2月9日	北九州市
8	伊藤 重彦 平成24年度 総務省消防庁 緊急度判定体系実証検証事業 ワーキンググループ構成員として 第2回会議	2月22日	東京都
9	岡本好司 ラジオNIKKEI (日経)『感染症TODAY』出演	2月27日	東京都
10	伊藤 重彦 講師 福岡県医師会災害時医療救護訓練研修会	3月2日	福岡市
11	井上 征雄 JPTEC北九州インストラクター	3月9日	北九州市
12	岡本好司 第49回 日本腹部救急医学会総会議事録署名人 指名	3月13日	福岡市
13	伊藤 重彦 講師 平成24年度 福岡県主催DMAT隊員養成研修	3月24日	福岡市
14	伊藤 重彦 講師 福岡県DMATならびに災害拠点病院における災害時医療救護訓練	3月24日	福岡市
15	岡本好司 日本血栓止血学会学術標準化委員会 DIC検討部会 部会長	4月1日	東京都
16	伊藤 重彦 厚生労働省 救急医療等あり方に関する検討会 参考人として 第3回会議	4月25日	東京都
17	伊藤 重彦 厚生労働省 救急医療等あり方に関する検討会 参考人として 第4回会議	5月29日	東京都
18	伊藤 重彦 厚生労働省 救急医療等あり方に関する検討会 参考人として 第6回会議	7月17日	東京都
19	伊藤 重彦 平成25年度 総務省消防庁 緊急度判定体系 作業部会構成員として 第1回会議	8月6日	東京都
20	伊藤 重彦 平成25年度 総務省消防庁 緊急度判定体系 救急現場プロトコル作成班会議構成員として 第1回会議	8月16日	東京都

21	伊藤 重彦 講師 福岡県主催DMAT隊員養成研修	9月21日	福岡市
22	木戸川 秀生 JATEC徳島インストラクター	9月22日	徳島市
23	伊藤 重彦 平成25年度 総務省消防庁 緊急度判定体系 救急現場プロトコル作成班会議構成員として 第2回会議	9月24日	東京都
24	岡本好司 佐賀大学医学部講義	9月25日	佐賀市
25	伊藤 重彦 「周術期感染症」産業医科大学 微生物学講義	10月30日	北九州市
26	伊藤 重彦 平成25年度 総務省消防庁 緊急度判定体系 救急現場プロトコル作成班会議構成員として 第3回会議	11月1日	東京都
27	伊藤 重彦 「腹部救急疾患の診断と治療」九州歯科大 外科学講義	11月5日	北九州市
28	伊藤 重彦 講師 福岡県主催DMAT隊員養成研修	11月5日	北九州市
29	伊藤 重彦 救急救命九州研修所 講義	12月11日	北九州市
30	伊藤 重彦 救急救命九州研修所 講義	12月18日	北九州市

救急科

学会研究会

1	当院における医師現場出動の現状と課題 井上 征雄、伊藤 重彦、松島 卓哉、岩永 充人 第7回 病院前救急診療研究会 学術集会	1月11日	大阪府
2	アナフィラキシーショック 田口 健蔵 第70回 北九州CPCRセミナー	6月11日	北九州市
3	医師同乗指導による現場での救急隊への評価表による指導 井上 征雄、伊藤 重彦、田口 健蔵、岩永 充人、松島 卓哉、後藤 保、板山 隆志、正代 荘一 第16回 日本臨床救急医学会	7月12日	東京都
4	当院における医師現場出動の現状 井上 征雄、伊藤 重彦、田口 健蔵、松島 卓哉、岩永 充人 第41回 日本救急医学会総会	10月23日	東京都

座長・司会

- | | | |
|---|---|-----------|
| 1 | 井上 征雄
ポスターセッション「新しい取り組み」
第32回 福岡救急医学会 | 9月7日 北九州市 |
| 2 | 田口健蔵
災害・救急 ポスター
第32回 福岡救急医学会 | 9月7日 北九州市 |

講演

- | | | |
|---|---------------------------------------|-----------|
| 1 | 救急医療最前線
田口 健蔵
北九州市立年長者研修大学校 講演会 | 8月7日 北九州市 |
|---|---------------------------------------|-----------|

その他

- | | | |
|----|-------------------------------------|------------|
| 1 | 井上 征雄
北九州市医師会災害研修会 講師 | 2月9日 北九州市 |
| 2 | 井上 征雄
MCLS福岡 インストラクター | 3月16日 福岡市 |
| 3 | 井上 征雄
福岡県医師会災害研修会 講師 | 3月23日 福岡市 |
| 4 | 田口 健蔵
JATEC岐阜コース 講師 5/25-26 | 5月25日 岐阜市 |
| 5 | 田口 健蔵
第64回 DMAT隊員養成研修 講師 5/29-31 | 5月29日 神戸市 |
| 6 | 田口 健蔵
平成25年度 福岡県総合防災訓練 | 6月2日 大牟田市 |
| 7 | 田口 健蔵
第65回 DMAT隊員養成研修 講師 6/19-21 | 6月19日 神戸市 |
| 8 | 田口 健蔵
熊本MCLSコース 講師 6/22-23 | 6月22日 熊本市 |
| 9 | 井上 征雄
MCLS熊本 インストラクター | 6月22日 熊本市 |
| 10 | 田口 健蔵
第71回 DMAT隊員養成研修 講師 7/9-11 | 7月9日 東京都 |
| 11 | 田口 健蔵
JATEC福岡コース 講師 8/24-25 | 8月24日 福岡市 |
| 12 | 田口 健蔵
第67回 DMAT隊員養成研修 講師 9/11-13 | 9月11日 神戸市 |
| 13 | 田口 健蔵
九州労災病院プライマリーケア研修会 講師 | 9月25日 北九州市 |

14	田口 健蔵 救急救命九州研修所 シミュレーション 講師	10月7日	北九州市
15	田口 健蔵 第68回 DMAT隊員養成研修 講師 10/9-10	10月9日	神戸市
16	田口 健蔵 平成25年度 北九州市特殊災害訓練	10月11日	北九州市
17	井上 征雄 MCLS飯塚インストラクター	10月14日	飯塚市
18	田口 健蔵 九州労災病院プライマリーケア研修会 講師	10月16日	北九州市
19	田口 健蔵 平成25年度 北九州空港航空機事故対応部分訓練	10月17日	北九州市
20	井上 征雄 福岡メディカルラリー 講師	10月26日	福岡市
21	田口 健蔵 八幡医師会災害医療研修会 講師 11/5-6	11月5日	北九州市
22	田口 健蔵 JATEC山形コース 講師 11/9-10	11月9日	山形市
23	田口 健蔵 救急救命九州研修所 シミュレーション 講師	11月12日	北九州市
24	田口 健蔵 第69回 DMAT隊員養成研修 講師 11/13-15	11月13日	神戸市
25	田口 健蔵 平成25年度 DMAT九州ブロック実働訓練 11/26-28	11月26日	沖縄県
26	田口 健蔵 救急救命九州研修所 シミュレーション 講師	12月3日	北九州市
27	田口 健蔵 九州労災病院プライマリーケア研修会 講師	12月18日	北九州市

小児科

論文

- 特集「大人とこんなに違った小児救急の常識」序文
市川 光太郎
Emergency Care 26:11; - :2013
- 小児救急疾患アトラス「Winslow孔ヘルニア」
市川 光太郎
Emergency Care 26:87-86:2013
- 特集「大人とこんなに違った小児救急の常識」小児救急患者のアセスメント～PALSに基づくアプローチ～
松島 卓哉
Emergency Care 26:29-24:2013

-
- 4 特集「大人とこんなに違った小児救急の常識」処置時の援助とホームケア指導
梶原 多恵
Emergency Care 26;38-30:2013
 - 5 小児救急疾患アトラス「ランゲルハンス細胞組織球症」
市川 光太郎
Emergency Care 26;289-288:2013
 - 6 大量磁石誤飲症例
市川 光太郎、後藤 保、津田 文史朗
小児救急医学会会員専用HP Case corner; - :2013
 - 7 小児救急疾患アトラス「細菌性気管支炎」
市川 光太郎
Emergency Care 26;492-490:2013
 - 8 小児死亡原因調査について～予防できる子どもの死亡を減らすために～
市川 光太郎
日本小児科医会会報 45;126-123:2013
 - 9 小児救急疾患アトラス「頸椎椎間板石灰化症」
市川 光太郎
Emergency Care 26;704-702:2013
 - 10 一週一話：子ども院内虐待対応組織の運用
市川 光太郎
日本医事新報 4656;57-56:2013
 - 11 特集：基本から見直す部位別打撲・骨折
「腹部（腰部を含む）打撲・骨折（お腹や腰を打った・物が当たった・ぶつけたとき）」
市川 光太郎
健康教室 第754集（9月号）：23-21:2013
 - 12 小児救急疾患アトラス「咽後腫瘍」
市川 光太郎
Emergency Care 26;902-903, 26;903-902:2013
 - 13 リレー随想「小児救急はWonderingな世界！ぜひ、体験して欲しい！」
市川 光太郎
小児科臨床 66;1881-1878:2013
 - 14 座談会「渡辺 久子・山本 恒雄・宮本 慎也・山田 不二子・市川 光太郎・西澤 哲：子ども虐待と通告」
市川 光太郎
子どもの虐待とネグレスト 15 (2) ;154-137:2013
 - 15 トレンドビュー；児童虐待？に遭遇したら
市川 光太郎
日経メディカル 10;28-26:2013
 - 16 小児救急疾患アトラス「もやもや病」
市川 光太郎
Emergency Care 26;1117-1116:2013
-

-
- 17 Apparent life threatening events (ALTE) の定義変更
市川 光太郎、戸苅 創、加藤 稲子、中川 聡、岩崎 志穂
日本小児救急医学会雑誌 12; 452-449: 2013
 - 18 SIDS問診、チェックリストの改定と記入要領の策定
市川 光太郎、戸苅 創、加藤 稲子、中川 聡、岩崎 志穂
日本小児救急医学会雑誌 12; 457-453: 2013
 - 19 Case Corner-1「大量磁石誤飲症例」
市川 光太郎、後藤 保、津田 文史朗
日本小児救急医学会雑誌 12; 458-459, 12; 459-458: 2013
 - 20 北九州市における重篤小児の前向き調査
市川 光太郎
日本小児科医学会会報 46 (10) ;158-155: 2013
 - 21 トリアージ・院内急変対応にいかせる! 小児のバイタルサイン 5breaths-10beats法による簡易迅速測定
(No.1) 小児の心拍数・呼吸数の迅速測定法
神蘭 淳司
EMERGENCY CARE 26 (11) ;1066-1060: 2013
 - 22 トリアージ・院内急変対応にいかせる! 小児のバイタルサイン 5breaths-10beats法による簡易迅速測定
(No.2) 小児の心拍数・呼吸数の迅速測定法
神蘭 淳司
EMERGENCY CARE 26 (12) ;1349-6557: 2013
 - 23 特集「大人とこんなに違った小児救急の常識」救急医療現場で虐待をいかに見抜くか
市川 光太郎
Emergency Care 26; 44-36: 2013

学会・研究会

- 1 小児救急医療における高乳酸血症の意義
三浦 義文、神蘭 淳司、後藤 保、小野 友輔、天本 正乃、市川 光太郎
第11回 九州・沖縄小児救急医学研究会 2月2日 北九州市
 - 2 ストップウォッチを用いた迅速心拍数・呼吸数測定の有用性の検討
神蘭 淳司、後藤 保、富田 一郎、天本 正乃、市川 光太郎
第473回 日本小児科学会福岡地方会例会 2月9日 福岡市
 - 3 自由水クリアランス・尿中Clの推移からみた輸液管理の試み
南川 将吾、神蘭 淳司、山本 剛士、小野 佳代、小野 友輔、八坂 龍弘、富田 一郎、金 奉吉、松島 卓哉、
山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第473回 日本小児科学会福岡地方会例会 2月9日 福岡市
 - 4 小児救急医療における高乳酸血症の意義
三浦 義文、神蘭 淳司、後藤 保、小野 友輔、天本 正乃、市川 光太郎
第473回 日本小児科学会福岡地方会例会 2月9日 福岡市
 - 5 小児救急現場で遭遇する児童虐待
市川 光太郎
第8回 岡山小児救急フォーラム特別講演 2月14日 岡山市
-

-
- | | | |
|----|---|------------|
| 6 | インフルエンザA感染後に多臓器不全により死亡した慢性EBV感染症の9才女児例
神菌 淳司
第22回 EBウイルス感染症研究会 | 3月16日 東京都 |
| 7 | 当院で経験した全前脳胞症の姉妹例
竹井 寛和
第356回 小倉小児科医会臨床懇話会 | 3月28日 北九州市 |
| 8 | 乳酸アシドーシスを伴う漏出性胆汁性腹膜炎で発見された日本海裂頭条虫症の1例
南川 将吾、神菌 淳司、山本 剛士、八坂 龍弘、富田 一郎、金 奉吉、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、
天本 正乃、市川 光太郎
第474回 日本小児科学会福岡地方会例会 | 4月13日 福岡市 |
| 9 | シクロスポリンが奏功したステロイド抵抗性特発性好酸球増多症候群（HES）の1例
南川 将吾、神菌 淳司、山本 剛士、小野 佳代、小野 友輔、松島 卓哉、西野 裕、今村 徳夫、天本 正乃、
市川 光太郎
第116回 日本小児科学会学術総会 | 4月19日 広島市 |
| 10 | 小児早期警告スコアリングシステム（2012改訂版）の運用と課題
竹井 寛和、神菌 淳司、金 奉吉、西野 裕、松島 卓哉、山根 浩昌、今村 徳夫、石橋 紳作、天本 正乃、
市川 光太郎
第116回 日本小児科学会学術総会 | 4月19日 広島市 |
| 11 | 小児有熱性けいれん時の初期対応と医師間のばらつきに関する検証
竹井 真理、神菌 淳司、山本 剛士、小野 佳代、松島 卓哉、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第116回 日本小児科学会学術総会 | 4月19日 広島市 |
| 12 | 非典型家族性地中海熱の臨床症状とMEFV 遺伝子exon 1/2変異の意義
志村 紀彰、神菌 淳司、小野 佳代、天本 正乃、市川 光太郎、右田 清志
第116回 日本小児科学会学術総会 | 4月19日 広島市 |
| 13 | 小児科医初療体制による子ども虐待の看過防止「マルトリートメント症候群」の提唱
市川 光太郎
第116回 日本小児科学会学術集会・分野別シンポジウム11「子ども虐待対応院内組織（Child Protection
Team）の設置と運用～子ども虐待への組織的対応体制の充実のために～」 | 4月20日 広島市 |
| 14 | 下気道感染とバイタルサイン
後藤 保、神菌 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第116回 日本小児科学会学術総会 | 4月20日 広島市 |
| 15 | 救急医療からリハビリ、そして在宅医療までの地域連携を目指して
市川 光太郎
第116回 日本小児科学会学術集会・総合シンポジウム7「わが国の小児在宅医療の課題と展望」 | 4月20日 広島市 |
| 16 | 迅速な保護者不安と育児困難感把握を目的とした問診表の開発
神菌 淳司、松島 卓哉、天本 正乃、市川 光太郎
第116回 日本小児科学会学術集会 | 4月20日 広島市 |
| 17 | 救急医療現場で診る児童虐待
市川 光太郎
第16回 千葉県救急医療研究会特別講演 | 4月27日 千葉市 |
-

-
- 18 Growth Spurtと学童期FOPの背部骨化の進行
神蘭 淳司
厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 脊柱靱帯骨化症に関する調査研究
平成25年度 第1回班会議 6月8日 東京都
- 19 小児メッケル憩室穿孔とその臨床像
内海 奈穂、神蘭 淳司、竹井 寛和、後藤 保、志村 紀彰、山本 剛士、八坂 龍広、富田 一郎、金 奉吉、
松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第475回 日本小児科学会福岡地方会例会 6月8日 福岡市
- 20 突発性発疹とバイタルサイン～2005 SIRS基準の信憑性と新規基準の開発～
苔口 知樹、山本 剛士、松島 卓哉、志村 紀彰、富田 一郎、八坂 龍広、金 奉吉、山根 浩昌、石橋 紳作、
今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第475回 日本小児科学会福岡地方会例会 6月8日 福岡市
- 21 家庭看護力向上のための家庭トリアージ概要
市川 光太郎
第24回 日本小児科医会総合フォーラムin大阪 小児救急医療委員会全国協議会 6月9日 大阪市
- 22 穿孔性虫垂炎術後の腹腔内膿瘍の治療管理方針
山本 剛士、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第27回 日本小児救急医学会学術集会 6月14日 宜野湾市
- 23 ストップウォッチを用いた迅速心拍数呼吸数測定法
後藤 保、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第27回 日本小児救急医学会学術集会 6月15日 宜野湾市
- 24 ブタンガス中毒による難治性心室細動の救命例
竹井 寛和、竹井 真理、松島 卓哉、神蘭 淳司、三浦 義文、南川 将吾、後藤 保、志村 紀彰、山本 剛士、
天本 正乃、市川 光太郎
第27回 日本小児救急医学会学術集会 6月15日 宜野湾市
- 25 急性腹症と乳酸アシドーシスで発見された条虫症による漏出性胆汁性腹膜炎
南川 将吾、神蘭 淳司、西野 裕、山本 剛士、小野 佳代、小野 友輔、八坂 龍弘、富田 一郎、金 奉吉、
松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第27回 日本小児救急医学会学術集会 6月15日 宜野湾市
- 26 小児高乳酸血症の特徴と治療バンドル作成の試み
三浦 義文、神蘭 淳司、後藤 保、小野 友輔、天本 正乃、市川 光太郎
第27回 日本小児救急医学会学術集会 6月15日 宜野湾市
- 27 乳幼児薬物誤飲からみた養育環境・マルトリートメント調査の重要性と対策
竹井 寛和、神蘭 淳司、竹井 真理、松島 卓哉、三浦 義文、南川 将吾、後藤 保、志村 紀彰、山本 剛士、
天本 正乃、市川 光太郎
第27回 日本小児救急医学会学術集会 6月15日 宜野湾市
- 28 繰り返す小児期急性痛み発作の鑑別診断～家族性地中海熱遺伝子検査の意義～
志村 紀彰、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第27回 日本小児救急医学会学術集会 6月15日 宜野湾市
-

-
- 29 脳死下臓器移植と虐待の除去
市川 光太郎
第27回 日本小児救急医学会総会 第3回脳死判定セミナー 6月16日 宜野湾市
- 30 ストップウォッチを用いた迅速心拍数・呼吸数測定の有用性の検討
後藤 保、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第36回 八幡小児臨床懇話会 6月27日 北九州市
- 31 急性腹症と乳酸アシドーシスで発見された日本海裂頭条虫症による漏出性胆汁性腹膜炎
南川 将吾、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第36回 八幡小児臨床懇話会 6月27日 北九州市
- 32 突発性発疹とバイタルサイン-2005 SIRS基準の信憑性と新規基準の開発-
苔口 知樹、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第36回 八幡小児臨床懇話会 6月27日 北九州市
- 33 脳出血で発症した脳動静脈奇形の一例
増井 美苗、後藤 保、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第36回 八幡小児臨床懇話会 6月27日 北九州市
- 34 アナフィラキシー
岡島 祥憲、富田 一郎、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第8回 小児救急医療カンファランス 6月28日 飯塚市
- 35 小児救急医療における重篤小児の発生率・特徴とその体制構築策の検討
市川 光太郎
第16回 日本臨床救急医学会総会 7月12日 東京都
- 36 EWSを活用した院内救急対応システムの取り組み
松島 卓哉、竹井 寛和、神蘭 淳司、市川 光太郎
第16回 日本臨床救急医学会学術集会 7月13日 東京都
- 37 当院における百日咳の対応
山本 剛士
第4回 北九州呼吸器感染症研究会 7月23日 北九州市
- 38 EBウイルス感染発熱パターンの理解と臨床的意義 EBV抗体価診断の進め方
小林 加奈、竹井 寛和、神蘭 淳司
第15回 福岡小児感染免疫・血液カンファレンス 7月26日 福岡市
- 39 Growth Spurtと学童期FOPの背部骨化
神蘭 淳司
厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 進行性骨化線維異形成患者会
8月10日 東京都
- 40 小児早期警告スコアリングシステムはICU転棟症例の予後を改善したか？
中野 慎也、神蘭 淳司、松島 卓哉、竹井 寛和、後藤 保、志村 紀彰、山本 剛士、八坂 龍広、岡島 祥憲、
富田 一郎、金 奉吉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第12回 九州・沖縄小児救急医学研究会 8月17日 熊本市
- 41 幼児身体的虐待との鑑別を要した骨形成不全症Ⅰ型の3例
村上 珠菜、神蘭 淳司、岡島 祥憲、竹井 真理、天本 正乃、市川 光太郎
第12回 九州・沖縄小児救急医学会研究会 8月17日 熊本市
-

-
- 42 外来で帰してはいけない子ども達
市川 光太郎
第23回 日本外来小児科学会学術集会・前夜セミナー 8月30日 福岡市
- 43 重篤小児患者調査とChild Death Review の意義
市川 光太郎
茨城小児救急シンポジウム～病院間連携の強化による人材育成のプラットフォームをめざして
ー小児救急中核病院(群)の現状と重篤小児登録制度ー 9月13日 つくば市
- 44 福岡県における虐待拠点病院の意義
市川 光太郎
第243回 築豊小児科医会～県児童虐待拠点病院指定特別講演～ 9月18日 飯塚市
- 45 ブタガス吸引により難治性心室細動をきたした救命例
竹井 寛和
第28回 日本救命医療学会総会・学術集会 9月21日 久留米市
- 46 転倒・転落を受傷機転とした小児の頭蓋内出血・頭蓋骨骨折の臨床的検討
村上 珠菜、松島 卓哉、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第28回 日本救命医療学会総会・学術集会 9月21日 久留米市
- 47 これからの小児救急医療のあり方と方向性
市川 光太郎
第33回 東北・北海道小児科医会連合会総会特別講演 10月5日 札幌市
- 48 急性脳症を合併したEBウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症1才女児例
内海 奈穂、神蘭 淳司、竹井 寛和、後藤 保、志村 紀彰、山本 剛士、八坂 龍広、富田 一郎、金 奉吉、
松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第476回 日本小児科学会福岡地方会例会 10月12日 福岡市
- 49 呼吸不全による小児院内急変事例の検証と課題
中野 慎也、神蘭 淳司、松島 卓哉、竹井 寛和、後藤 保、志村 紀彰、山本 剛士、八坂 龍広、岡島 祥憲、
富田 一郎、金 奉吉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第476回 日本小児科学会福岡地方会例会 10月12日 福岡市
- 50 幼児身体的虐待との鑑別を要した骨形成不全症I型の3例
村上 珠菜、神蘭 淳司、岡島 祥憲、竹井 真理、天本 正乃、市川 光太郎
第476回 日本小児科学会福岡地方会例会 10月12日 福岡市
- 51 2005 SIRS基準の信憑性と新規基準の開発
増井 美苗、神蘭 淳司、小林 加奈、三浦 義文、竹井 寛和、後藤 保、松島 卓哉、市川 光太郎
第41回 日本救急医学会総会・学術集会 10月21日 東京都
- 52 セーフティネットとしての小児救急医療体制のあり方
松島 卓哉、神蘭 淳司、小林 加奈、増井 美苗、三浦 義文、竹井 真理、岡島 祥憲、後藤 保、竹井 寛和、
山本 剛士、市川 光太郎
第41回 日本救急医学会総会・学術集会 10月21日 東京都
- 53 バイタルサイン測定と小児早期警告スコアリングに関する実態調査
小林 加奈、神蘭 淳司、増井 美苗、三浦 義文、竹井 真理、岡島 祥憲、後藤 保、竹井 寛和、山本 剛士、
松島 卓哉、市川 光太郎
第41回 日本救急医学会総会・学術集会 10月21日 東京都
-

-
- 54 小児早期警告スコアリングシステム（2012.10月改訂版）の運用と課題
竹井 寛和、神蘭 淳司、小林 加奈、増井 美苗、三浦 義文、竹井 真理、後藤 保、岡島 祥憲、山本 剛士、
松島 卓哉、市川 光太郎
第41回 日本救急医学会総会・学術集会 10月21日 東京都
- 55 両下肢に電流斑を認めた1例を含む大阪医療センターにおける過去8年間の電撃症の10例
岡島 祥憲
第41回 日本救急医学会総会・学術集会 10月21日 東京都
- 56 救急隊員に対する小児救急講習会の実施と今後の展望
後藤 保、松島 卓哉、神蘭 淳司、市川 光太郎
第41回 日本救急医学会総会・学術集会 10月22日 東京都
- 57 小児期喘鳴における高乳酸血症の意義
三浦 義文、神蘭 淳司、増井 美苗、竹井 寛和、松島 卓哉、市川 光太郎
第41回 日本救急医学会総会・学術集会 10月23日 東京都
- 58 小児救急のピットホール
市川 光太郎
第10回 旭川小児救急医療研究会 11月8日 旭川市
- 59 最近5年間のICU収容症例の検討
中野 慎也、神蘭 淳司、松島 卓哉、竹井 寛和、後藤 保、志村 紀彰、山本 剛士、八坂 龍広、岡島 祥憲、
富田 一郎、金 奉吉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第9回 小児救急医療カンファレンス 11月15日 北九州市
- 60 バイタルサイン測定と小児早期警告スコアリングに関する実態調査
小林 加奈、神蘭 淳司、後藤 保、竹井 寛和、山本 剛士、松島 卓哉、市川 光太郎
第8回 医療の質・安全学会学術集会 11月23日 東京都
- 61 小児早期警告スコアリングシステムはICU転棟症例の予後を改善したか？
中野 慎也、神蘭 淳司、松島 卓哉、竹井 寛和、後藤 保、志村 紀彰、山本 剛士、八坂 龍広、岡島 祥憲、
富田 一郎、金 奉吉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第8回 医療の質・安全学会学術集会 11月23日 東京都
- 62 Growth Spurtと学童期FOPの背部骨化 続報
神蘭 淳司
厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 脊柱靱帯骨化症に関する調査研究
平成25年度 第2回班会議 11月30日 東京都
- 63 3か月未満児におけるワクチン同時接種後発熱の実態と管理指針の提唱
小林 加奈、神蘭 淳司、竹井 寛和、後藤 保、岡島 祥憲、志村 紀彰、山本 剛士、八坂 龍広、富田 一郎、
金 奉吉、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第477回 日本小児科学会福岡地方会例会 12月14日 久留米市
- 64 簡易迅速検査からみた小児の咽頭扁桃炎診療の実態とその課題
南川 将吾、神蘭 淳司、竹井 真理、竹井 寛和、後藤 保、山本 剛士、志村 紀彰、八坂 龍弘、富田 一郎、
金 奉吉、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第477回 日本小児科学会福岡地方会例会 12月14日 久留米市
-

-
- 65 小児期赤血球容積粒度分布幅の基準値作成と異常高値の意義
増井 美苗、後藤 保、神蘭 淳司、岡島 祥憲、竹井 寛和、志村 紀彰、山本 剛士、八坂 龍広、富田 一郎、
金 奉吉、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第477回 日本小児科学会福岡地方会例会 12月14日 久留米市

座長・司会

- 1 市川 光太郎
「耐性菌感染症に対する治療の常識と非常識」
平成24年 第5回北部福岡感染症研究会 1月16日 北九州市
 - 2 松島 卓哉
電解質異常
第11回 九州・沖縄小児救急医学研究会 2月2日 北九州市
 - 3 神蘭 淳司
北九州市消防局・小児病院前講習会 2月8日 北九州市
 - 4 神蘭 淳司
北九州市消防局・小児病院前講習会 2月15日 北九州市
 - 5 市川 光太郎
福井聖子先生特別講演
平成24年度 福岡県#8000研修会 2月16日 福岡市
 - 6 神蘭 淳司
北九州市消防局・小児病院前講習会 2月22日 北九州市
 - 7 市川 光太郎
小児救急市民公開フォーラム（第1部 何が問題か？）
日本小児科学会小児医療委員会 4月6日 土浦市
 - 8 神蘭 淳司
救急神経
第116回 日本小児科学会学術集会 4月19日 広島市
 - 9 市川 光太郎
小児医療における多職種のかかわり（救急医療領域）
第116回 日本小児科学会学術集会 多職種シンポジウム1 4月21日 広島市
 - 10 市川 光太郎
「小児救急：診療所からの二次救急さらに三次へと命をつなぐ」
第24回 日本小児医会総会フォーラム・サテライトミーティングⅠ 6月8日 大阪市
 - 11 松島 卓哉
アレルギー／中毒、脳神経外科
第27回 日本小児救急医学会学術集会 6月14日 宜野湾市
 - 12 神蘭 淳司
フィジカルアセスメント
第27回 日本小児救急医学会総会 6月15日 宜野湾市
-

13	市川 光太郎 特別講演2「海の覇者、サメの実像～その食と性～」 第27回 日本小児救急医学総会	6月15日	宜野湾市
14	神薗 淳司 第3回 Triage & EWS研究会	6月15日	宜野湾市
15	後藤 保 第8回 小児救急カンファレンス	6月28日	飯塚市
16	神薗 淳司 第15回 福岡小児免疫カンファレンス	7月26日	福岡市
17	神薗 淳司 第11回 九州沖縄小児救急医学研究会	8月17日	熊本市
18	神薗 淳司 ワークショップ「小児早期警告スコアリングシステムによる急変対応システム 小児フィジカルアセスメントの再考 どう評価しどう伝えますか？」 第8回 小児救急医療ワークショップ in 北九州	8月25日	北九州市
19	松島 卓哉 搬送受け入れ 第32回 福岡救急医学会	9月7日	北九州市
20	市川 光太郎 第32回 福岡救急医学会主催 北九州国際会議場	9月7日	北九州市
21	市川 光太郎 教育講演3「医療現場から見た児童虐待：発見と対策」 第60回 日本小児保健協会学術集会	9月27日	東京都
22	市川 光太郎 「命を守る救急医療の現場から」 第7回 県民公開医療シンポジウム	9月28日	北九州市
23	神薗 淳司 小児外科 第476回 日本小児科学会福岡地方会例会	10月12日	福岡市
24	神薗 淳司 パネルディスカッション座長「ERにおける小児診療の現状と課題」 第41回 日本救急医学会学術総会	10月22日	東京都
25	市川 光太郎 小児救急のTips 第41回 日本救急医学会総会・学術集会	10月22日	東京都
26	市川 光太郎 病気・事故から守ろう！ 平成25年度 日本小児科学会小児救急市民フォーラム	11月3日	静岡市
27	竹井 寛和 第9回 小児救急カンファレンス	11月15日	北九州市

-
- 28 神蘭 淳司
主催ワークショップ「小児早期警告スコアリングシステムと患者安全 どう評価しどう伝えますか？」
第4回 日本小児救急医学会 教育セミナー 12月7日 神戸市

講演

- 1 小児救急疾患・突然死・児童虐待
市川 光太郎
産業医科大学医学部3年生講義 1月8日 北九州市
 - 2 救命士国家試験対策～小児救急～
市川 光太郎
公務員ビジネス専門学校特別講義 1月17日 福岡市
 - 3 小児救急のピットホール
市川 光太郎
第12回 松江臨床研修ネットワーク学術講演会 1月26日 松江市
 - 4 教育現場で児童虐待にどう向き合えばよいか？
市川 光太郎
平成24年度 遠賀郡中間学校保健会「研修会」 1月30日 中間市
 - 5 子ども虐待について
市川 光太郎
子ども健康・鹿児島ファイザー講演会 2月9日 鹿児島市
 - 6 小児救急疾患の特徴と児童虐待への対応
市川 光太郎
平成24年度 日本看護協会神戸研修センター小児救急看護研修会 2月20日 神戸市
 - 7 小児救急現場で遭遇する児童虐待
市川 光太郎
福岡保険医協会「北九臨床研究会」講演会 2月21日 北九州市
 - 8 誰にでもできる正確な子どものバイタルサイン測定法
神蘭 淳司
第77回 北九州西部地区育児支援研究会 2月28日 水巻町
 - 9 乳幼児の虐待～AHT (SBS) と体重増加不良について
市川 光太郎
福岡市子ども総合センター研修会 3月7日 福岡市
 - 10 小児の頭頸部救急疾患
市川 光太郎
平成24年度 下関医師会救急研修事業特別講演 3月9日 下関市
 - 11 小児救急のあれこれ
市川 光太郎
昭和大学横浜北部病院こどもセンター小児救急医療研修会 3月15日 横浜市
 - 12 小児救急で求められる「判断」「処置」「対応」のスキル
市川 光太郎
日総研・小児救急看護研修東京大会 3月16日 東京都
-

13	救急現場で遭遇する吸気性喘鳴と呼吸器感染症 市川 光太郎 第34回 むつごろう会	3月19日	大牟田市
14	小児救急トリアージ学のススめ SIRS・外傷から育児不安・マルトリートメントまで 神薗 淳司 大分市小児夜間急患センター開院1周年記念講演会	3月23日	大分市
15	北九州市における小児救急医療ネットワークの構築 市川 光太郎 平成25年 第1回日本臨床救急医学会地域医療検討委員会	3月26日	東京都
16	北九州市における児童虐待 市川 光太郎 平成25年度 北九州市医師会・児童虐待防止に関する研修会	4月11日	北九州市
17	小児SIRとプロカルシトニン 神薗 淳司 第116回 日本小児科学会学術集会教育講演	4月22日	広島市
18	小児救急医療の問題点と課題 市川 光太郎 平成25年 厚労省医政局救急医療のあり方検討会・第3回会議	4月25日	東京都
19	小児救急疾患の特徴と児童虐待 市川 光太郎 消防大学 平成25年度 第75期生講義	5月14日	三鷹市
20	救急現場で遭遇する子ども虐待 市川 光太郎 大阪府済生会千里病院・児童虐待防止に関する研修会	5月15日	大阪市
21	小児院内急変対応システムの整備 ～Triage & Early Warning System～ 神薗 淳司 第6回 宮崎県小児フォーラム	5月17日	宮崎市
22	小児救急で求められる「判断」「処置」「対応」のスキル 市川 光太郎 日総研・小児救急看護研修福岡大会	5月18日	福岡市
23	誰にでもできる正確な子どものバイタルサイン測定法 神薗 淳司 HAPPY「こどもの病歴と身体所見のワークショップ」	5月25日	大阪市
24	小児の突然死と児童虐待 市川 光太郎 愛媛大学医学部4年生小児科学特別講義	5月28日	松山市
25	日本社会と児童虐待 市川 光太郎 福岡女学院看護大学「建学の理念」講義	6月11日	福岡市

26	子どもの心と身体 市川 光太郎 平成25年度 遠賀・中間地区私立幼稚園PTA大会	6月25日	中間市
27	小児救急現場で遭遇する児童虐待 市川 光太郎 産業医科大学第2内科同門会講演	7月6日	北九州市
28	小児の中毒性疾患 市川 光太郎 久留米大学医学部3年生特別講演	7月9日	久留米市
29	小児救急と児童虐待 市川 光太郎 第13回 久留米市医師会精神科医会学術講演会	7月9日	久留米市
30	小児救急医療～突然死と児童虐待～ 市川 光太郎 久留米大学看護学部小児科特別講演	7月9日	久留米市
31	小児救急・突然死・児童虐待 市川 光太郎 久留米大学医学部4年生特別講義	7月16日	久留米市
32	児童虐待にどう向き合えばよいか 市川 光太郎 中間市はばたけ子ども・ネットワーク専門研修会	7月17日	中間市
33	目の前で人が倒れた時、あなたにできること 三浦 義文 北九州市立療育センター院内講習会	7月17日	北九州市
34	子どもの病気・心とからだの発達 市川 光太郎 ほっとふれあいセンター研修会	7月23日	北九州 市
35	児童虐待対応における医療機関の役割 市川 光太郎 愛知県健康福祉部児童家庭課・院内児童虐待対応体制整備研修「児童虐待ネットワーク研修会」	7月30日	名古屋市
36	医療的ケアを必要とする児童生徒の基礎疾患 富田 一郎 特別講演	8月2日	北九州市
37	こどものけがと病気について 山本 剛士 八幡東区前田市民センター市民向け講座	9月12日	北九州市
38	小児の突然死・子ども虐待 市川 光太郎 筑波大学医学部3年生特別講義	9月13日	つくば市

39	小児救急医療の実際 ～Wondering Pediatric Emergency～ 市川 光太郎 北里大学医学部3年生小児科講義	10月8日	相模原市
40	小児頭頸部気急疾患 市川 光太郎 平成25年度 小児科学北里医学会	10月8日	相模原市
41	小児院内急変対応システムの整備 Triage& EWS system 神薊 淳司 鳥取県立中央病院院内講演会	10月11日	鳥取市
42	小児救急 後藤 保 第34回 島根救友会	10月15日	浜田市
43	小児救急における児童虐待対応 市川 光太郎 第27回 梅屋小児症例検討会	10月17日	京都市
44	児童・幼児虐待 市川 光太郎 平成25年度 延岡こども健康フォーラム	10月19日	延岡市
45	児童虐待～死亡事例に学ぶ～ 市川 光太郎 平成25年度 大阪府内保健師児童虐待予防研修会	10月24日	大阪市
46	小児救急医療と患者安全Here, There and Everywhere 神薊 淳司 第75回 鹿児島小児臨床懇話会	11月8日	鹿児島市
47	救急外来で帰せない子ども達 市川 光太郎 鳥取県東部医師会小児科医会学術講演会	11月20日	鳥取市
48	腹痛のあれこれ 松島 卓哉 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス	11月25日	北九州市
49	小児救急現場で遭遇する児童虐待 市川 光太郎 西南大学保健福祉学部看護学科特別講演会	11月28日	北九州市
50	医療機関の役割～小児救急医療の現場～ 市川 光太郎 平成25年 東京都第4回専門研修（児童虐待対応）講習会	12月5日	東京都
51	小児救急疾患とその特徴 市川 光太郎 九州救急救命士養成所講義	12月10日	北九州市

-
- 52 小児救急現場で遭遇する児童虐待の種類とその特徴
市川 光太郎
九州救急救命士養成所講義 12月17日 北九州市
- 53 小児救急現場で遭遇する児童虐待～医療機関に求められる対応～
市川 光太郎
石川県 平成25年度医療分野におけるネットワーク会議研修会 12月18日 能登市

著書

- 1 児童虐待への対応 (1) 医療の側から、シリーズ生命論理学編集委員会編
市川 光太郎
シリーズ生命論理学「周産期・新生児・小児医療」初版 170-187 丸善出版 2012
 - 2 学校伝染病、田中哲郎監修
市川 光太郎
子育て支援における保健相談マニュアル 2-15 第3版 日本小児医事出版社 2013
 - 3 虐待の予防と支援、田中哲郎監修
市川 光太郎
子育て支援における保健相談マニュアル 318-327 第3版 日本小児医事出版社 2013
 - 4 救急を要する傷病、子どもの事故、豊原清臣、中尾弘、松本壽通監修
市川 光太郎
開業医の外来小児科学 改訂6版 882-892 南山堂 2013
 - 5 薬物の誤飲および中毒、豊原清臣、中尾弘、松本壽通監修
市川 光太郎
開業医の外来小児科学 改訂6版 893-904 南山堂 2013
 - 6 頭部外傷、豊原清臣、中尾弘、松本壽通監修
市川 光太郎
開業医の外来小児科学 改訂6版 905-913 南山堂 2013
 - 7 開業医に必要な救急の実際、豊原清臣、中尾弘、松本壽通監修
市川 光太郎
開業医の外来小児科学 改訂6版 921-929 南山堂 2013
 - 8 連載「小児救命救急センター24時」「目が充血して手足がパンパンに！川崎病」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.231 183 風韻社 2013
 - 9 連載「小児救命救急センター24時」「副鼻腔炎」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.232 192 風韻社 2013
 - 10 連載「小児救命救急センター24時」「ウイルス性髄膜炎」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.233 165 風韻社 2013
 - 11 連載「小児救命救急センター24時」「RSウイルス感染症」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.234 210 風韻社 2013
-

-
- 12 連載「小児救命救急センター24時」「乳幼児ゆさぶられ症候群」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.235 208 風讀社 2013
- 13 連載「小児救命救急センター24時」「薬の誤飲」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.236 195 風讀社 2013
- 14 連載「小児救命救急センター24時」「百日ぜき」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.237 185 風讀社 2013
- 15 連載「小児救命救急センター24時」「外反扁平足」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.238 181 風讀社 2013
- 16 連載「小児救命救急センター24時」「マイコプラズマ肺炎」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.239 195 風讀社 2013
- 17 連載「小児救命救急センター24時」「ぜんそく性(様)気管支炎」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.240 211 風讀社 2013
- 18 連載「小児救命救急センター24時」「ロタウイルス胃腸炎」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.241 221 風讀社 2013
- 19 連載「小児救命救急センター24時」「マルトリートメント」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.242 207 風讀社 2013
- 20 単著
市川 光太郎
小児救急診療イニシャルステップ～Wondering Pediatric Emergencyを体験するために～ 初版
中外医学社 2013
- 21 噛みつき傷の処置Q&A 八木義雄監修、北九州保育士会編著
市川 光太郎
自我の芽生えとかみつき 初版 蒼丘書林 2013
- 22 災害時に求められる小児救急医療
市川 光太郎
東日本大震災－小児科医の足跡－ 114－121 日本小児科医会 2013
- 23 小児の熱傷・小児虐待と熱傷 田中裕編著
市川 光太郎
熱傷治療マニュアル改訂2版 332－337 中外医学社 2013
-

-
- 24 刊行によせて、日本小児科学会・日本小児救急医学会監修、日本小児科学会小児医療委員会救急テキストWG 梅原 実、渡部 誠一、桜井 淑男、日本小児救急医学会教育・研修委員会 村田 祐二、有吉 孝一、浮山 越史編集
市川 光太郎
小児救急医療の理論と実践 pⅢ 初版 編集室なるにあ 2013
- 25 我が国の小児救急医療の問題点と今後の展望、日本小児科学会・日本小児救急医学会監修、日本小児科学会小児医療委員会救急テキストWG 梅原 実、渡部 誠一、桜井 淑男、日本小児救急医学会教育・研修委員会 村田 祐二、有吉 孝一、浮山 越史編集
市川 光太郎
小児救急医療の理論と実践 1-6 初版 編集室なるにあ 2013
- 26 小児救急患者のアセスメント PALSに基づくアプローチ
松島 卓哉
エマージェンシー・ケア 24-29 メディカ出版 2013
- 27 蘇生や治療の中止の決断
天本 正乃
小児科研修ノート 改訂第2版 診断と治療社 2013
- 28 特集：小児の治療指針 誤飲・中毒
天本 正乃
小児科診療増刊号（77巻増刊号） 診断と治療社 2013

その他

- 1 市川 光太郎
福岡市子ども総合相談センター
・頭蓋内出血症例の医学的意見書作成 1月7日 福岡市
- 2 後藤 保
救急隊員のための小児救急講習会
北九州市消防訓練研修センター [PBLS] 担当 2月8日 北九州市
- 3 松島 卓哉
救急隊員のための小児救急講習会
北九州市消防訓練研修センター
「小児の初期評価法」担当 2月8日 北九州市
- 4 志村 紀彰
救急隊員のための小児救急講習会
北九州市消防訓練研修センター
「頭部外傷」担当 2月8日 北九州市
- 5 後藤 保
救急隊員のための小児救急講習会
北九州市消防訓練研修センター
「PBLS」担当 2月15日 北九州市
-

-
- | | | |
|----|---|----------------|
| 6 | 松島 卓哉
救急隊員のための小児救急講習会
北九州市消防訓練研修センター
「小児の初期評価法」担当 | 2月15日 北九州市 |
| 7 | 志村 紀彰
救急隊員のための小児救急講習会
北九州市消防訓練研修センター
「頭部外傷」担当 | 2月15日 北九州市 |
| 8 | 後藤 保
救急隊員のための小児救急講習会
北九州市消防訓練研修センター
「PBLs」担当 | 2月22日 北九州市 |
| 9 | 松島 卓哉
救急隊員のための小児救急講習会
北九州市消防訓練研修センター
「小児の初期評価法」担当 | 2月22日 北九州市 |
| 10 | 山本 剛士
救急隊員のための小児救急講習会
北九州市消防訓練研修センター
「頭部外傷」担当 | 2月22日 北九州市 |
| 11 | 市川 光太郎
児童虐待刑事裁判・小倉地方裁判所証人喚問 | 3月19日 北九州市 |
| 12 | 市川 光太郎
日本子ども虐待防止学会・学術雑誌「子どもの虐待とネグレクト」座談会「市川 光太郎・渡辺久子・西澤哲・
山本恒雄・宮本信也・山田不二子：虐待の通報はしなくて良いか？」 | 4月27日 東京都 |
| 13 | 市川 光太郎
福岡市子ども総合相談センター
・性的虐待症例の医学的意見書作成 | 6月7日 福岡市 |
| 14 | 市川 光太郎
脳死の子からの臓器提供コメント | 6月15日 朝日新聞 全国版 |
| 15 | 市川 光太郎
医療ルネサンス「子の脳死 難しい虐待判定」コメント | 6月25日 読売新聞 全国版 |
| 16 | 市川 光太郎
乳幼児死体遺棄事件・乳幼児突然死症候群&熱性けいれんについて | 6月28日 北九州市 |
| 17 | 松島 卓哉
AHA PALSインストラクター | 7月6日 北九州市 |
| 18 | 松島 卓哉
AHA PALSインストラクター | 7月7日 北九州市 |
| 19 | 市川 光太郎
第8回 小児救急医療ワークショップ in 北九州 九州医事新報 第591号 3号 | 8月20日 九州医事新報社 |
-

20	山本 剛士 第8回 小児救急医療ワークショップ in 北九州 講師	8月24日	北九州市
21	山本 剛士 第8回 小児救急医療ワークショップ in 北九州 講師	8月25日	北九州市
22	市川 光太郎 小児救急の現状と課題 西日本新聞・福岡県医師会 救急の日特集	9月8日	西日本新聞
23	市川 光太郎 救急とアレルギー KBCラジオ 「アレルギー談話室」	9月8日	KBCラジオ
24	市川 光太郎 乳幼児ゆさぶられ症候群鑑定書作成	9月20日	福岡県警糸島警察署
25	松島 卓哉 AHA PALSインストラクター	9月28日	北九州市
26	松島 卓哉 AHA PALSインストラクター	9月29日	北九州市
27	後藤 保 PEWSS講習会 鳥取県立中央病院	10月11日	鳥取市
28	松島 卓哉 AHA BLSインストラクター	10月12日	北九州市
29	市川 光太郎 乳幼児ゆさぶられ症候群鑑定書作成	10月17日	鹿児島県警西鹿児島警察署
30	市川 光太郎 多発骨折の4か月児の虐待診断	11月13日	福岡県田川児童相談所
31	松島 卓哉 AHA BLSインストラクター	11月19日	北九州市
32	市川 光太郎 4歳児絞扼性イレウス死亡事例意見書作成 (鳥取・高橋弁護士)	12月6日	
33	山本 剛士 日本小児救急医学会 第4回 神戸ルミナリエ・教育セミナー 講師	12月7日	神戸市
34	後藤 保 日本小児救急医学会 第4回 神戸ルミナリエ・教育セミナー 講師	12月7日	神戸市
35	松島 卓哉 日本小児救急医学会 第4回 神戸ルミナリエ・教育セミナー 講師	12月7日	神戸市
36	竹井 寛和 日本小児救急医学会 第4回 神戸ルミナリエ・教育セミナー 講師	12月7日	神戸市
37	松島 卓哉 AHA PALSインストラクター	12月14日	北九州市

形成外科

論文

- 1 帰省時の祖父母宅で起こる小児熱傷の検討
増田 佳奈、田崎 幸博、槇野 祥生、奈良崎 保男
熱傷 39 (3) :150-155:2013

学会研究会

- 1 2カ所の渦巻状乳輪縁切開により乳線摘出と乳輪縮小を行う女性化乳房手術
田崎 幸博、北川 恵理、李 龍二
第56回 日本形成外科学会学術集会 4月3日 東京都
- 2 片側口唇裂手術ビデオ供覧
田崎 幸博、福井 季代子、李 龍二
第95回 長崎形成外科懇話会 5月18日 長崎市
- 3 片側口唇裂手術で対称性を得るための実施面での工夫とその効果
田崎 幸博
第37回 日本口蓋裂学会学術集会 5月30日 佐賀市
- 4 片側口唇裂手術における人中部口輪筋二層分割と補足する筋層の処理
田崎 幸博、福井 季代子、李 龍二
第31回 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 10月24日 名古屋市
- 5 口唇裂二次修正手術における人中部口輪筋二層分割の有用性
田崎 幸博、福井 季代子、李 龍二
第93回 九州沖縄形成外科学会 11月16日 飯塚市

講演

- 1 手術ビデオセッション「小三角弁法」を基本とし「曲面の取り込みと筋層の分離牽引」を加えた口唇形成術
田崎 幸博
田崎 幸博
SHARE IV 5月25日 東京都
- 2 あなたを支える足をいたわる 爪と皮膚のケア
田崎 幸博
北九州市立八幡病院 市民公開講座 11月30日 北九州市

皮膚科

学会研究会

- | | | | |
|---|--------------------|--------|------|
| 1 | 診断のつきにくい症例 (1) | | |
| | 藤野 雅世 | | |
| | 平成25年 第1回 北九州皮膚懇話会 | 4月30日 | 北九州市 |
| 2 | 診断のつきにくい症例 (2) | | |
| | 藤野 雅世 | | |
| | 平成25年 第2回 北九州皮膚懇話会 | 6月23日 | 北九州市 |
| 3 | 診断のつきにくい症例 (3) | | |
| | 藤野 雅世 | | |
| | 平成25年 第3回 北九州皮膚懇話会 | 6月27日 | 北九州市 |
| 4 | 診断のつきにくい症例 (4) | | |
| | 藤野 雅世 | | |
| | 平成25年 第4回 北九州皮膚懇話会 | 7月29日 | 北九州市 |
| 5 | 診断のつきにくい症例 (5) | | |
| | 藤野 雅世 | | |
| | 平成25年 第5回 北九州皮膚懇話会 | 7月29日 | 北九州市 |
| 6 | 診断のつきにくい症例 (6) | | |
| | 藤野 雅世 | | |
| | 平成25年 第6回 北九州皮膚懇話会 | 9月25日 | 北九州市 |
| 7 | 診断のつきにくい症例 (7) | | |
| | 藤野 雅世 | | |
| | 平成25年 第7回 北九州皮膚懇話会 | 9月30日 | 北九州市 |
| 8 | 診断のつきにくい症例 (8) | | |
| | 藤野 雅世 | | |
| | 平成25年 第8回 北九州皮膚懇話会 | 10月27日 | 北九州市 |
| 9 | 診断のつきにくい症例 (9) | | |
| | 藤野 雅世 | | |
| | 平成25年 第9回 北九州皮膚懇話会 | 11月27日 | 北九州市 |

麻酔科

その他

- | | | | |
|---|------------------------|----------|-----------|
| 1 | 金色 正広 | | |
| | AHA-ACLSプロバイダーコース | 2月16、17日 | 九州大学病院 |
| 2 | 金色 正広 | | |
| | AHA- BLSヘルスケアプロバイダーコース | 3月16日 | 北九州市立八幡病院 |
| 3 | 金色 正広 | | |
| | AHA- BLSヘルスケアプロバイダーコース | 3月17日 | 北九州市立八幡病院 |

4	金色 正広 AHA- PALSプロバイダーコース	5月18、19日	北九州市立八幡病院
5	金色 正広 日本救急医学会 ICLSコース	6月7日	北九州市立八幡病院
6	金色 正広 AHA- PALSプロバイダーコース	6月15、16日	鹿児島県立大島病院
7	金色 正広 日本麻酔科学会主催 AHA-ACLSプロバイダーコース	6月22、23日	九州大学病院
8	金色 正広 日本救急医学会 ICLSコース	7月5日	北九州市立八幡病院
9	金色 正広 AHA- PALSプロバイダーコース	7月6、7日	北九州市立八幡病院
10	金色 正広 日本救急医学会 ICLSコース	7月12日	北九州市立八幡病院
11	金色 正広 AHA-ACLSプロバイダーコース	8月24、25日	九州大学病院
12	金色 正広 AHA- PALSプロバイダーコース	9月28、29日	北九州市立八幡病院
13	金色 正広 AHA- BLSヘルスケアプロバイダーコース	10月19日	北九州市立八幡病院
14	金色 正広 AHA- BLSヘルスケアプロバイダーコース	10月20日	北九州市立八幡病院
15	金色 正広 AHA- PALSプロバイダーコース	10月26、27日	NPO法人日本ACLS協会福岡トレーニングラボ
16	金色 正広 北九州TNT講習会	11月23、24日	製鉄記念八幡病院
17	金色 正広 福岡県医師会ACLS講習会	12月8日	九州医療センター
18	金色 正広 AHA- PALSプロバイダーコース	12月14、15日	北九州市立八幡病院
19	金色 正広 日本麻酔科学会主催 AHA-ACLSプロバイダーコース	12月21、22日	九州大学病院

精神科

講演

1	うつってなに? 白石 康子 生涯学習推進コーディネーター自主企画講座	2月13日	北九州市
---	--	-------	------

脳神経外科

学会・研究会

- 1 気道緊急で発症した広範性特発性骨増殖症の一手術症例
氏福 健太、岩永 充人、野田 満、越智 章
第31回 長崎脳神経外科研究会 12月21日 長崎市

座長・司会

- 1 岩永 充人
ポスター発表4「意識障害・痙攣」
第32回 福岡救急医学会 9月7日 北九州市
- 2 越智 章
一般口演4「脳血管障害」
第32回 福岡救急医学会 9月7日 北九州市

薬剤部門

論文

- 1 病院薬局における騒音レベルの調査
植木 哲也、毛利 由佳、坂本 佳子、俵口 奈穂美、山下 正義、長井 恵子、山田 真貴、中嶋 弥穂子、中嶋 幹郎
日本病院薬剤師会雑誌 49 (10) :1081-1085:2013

学会・研究会

- 1 酸棗仁湯が有効であった特発性過眠症の治験について
福永 竜一
平成25年度 第3回 戸畑漢方研修会 3月21日 北九州市
- 2 がん化学療法施行患者における腎機能低下が薬剤の用量調節及び薬剤費に与える影響－実態調査
末吉 宏成、植木 哲也、山田 真貴、長井 恵子
第56回 日本腎臓学会学術総会 5月11日 東京都
- 3 円形脱毛症の漢方
福永 竜一
平成25年度 第5回 戸畑漢方研修会 5月14日 北九州市
- 4 茯苓飲の応用
福永 竜一
平成25年度 第7回 戸畑漢方研修会 7月17日 北九州市
- 5 「北九州ヤングDMの会」の活動報告
田崎 奈緒子
第1回 日本糖尿病協会 療養指導学術集会 7月27日 京都市
- 6 九州山口地区における病棟薬剤業務の実施状況について
桑村 恒夫、原田 桂作、町田 聖治、井手 飛香、辻本 朗、後藤 渉、赤松 孝
第75回 九州山口薬学大会 9月15日 佐賀市

-
- | | | |
|---|---|-------------|
| 7 | 整形外科病棟における高齢者の腎機能とNSAIDs使用について
山本 朗子、原田 桂作、坂本 佳子、田崎 奈緒子、毛利 由佳、長井 恵子
第75回 九州山口薬学大会 | 9月15日 佐賀市 |
| 8 | 統合失調症に柴胡加竜骨牡蛎湯が有効だった治験例についての検討
福永 竜一
平成25年度 第10回 戸畑漢方研修会 | 10月9日 北九州市 |
| 9 | 消風散と温清飲の慢性湿疹における使い分け
福永 竜一
平成25年度 第3回 戸畑漢方研修会 | 12月11日 北九州市 |

座長・司会

- | | | |
|---|---|-------------|
| 1 | 長井 恵子
虚血性心臓病への新しいアプローチ
洞薬会 8月度学術講演会 | 8月1日 北九州市 |
| 2 | 末吉 宏成
末梢静脈栄養・中心静脈栄養
第68回 北九州栄養薬物研究会 | 10月10日 北九州市 |
| 3 | 山下 正義
病院長講義
福岡県病院薬剤師会新採用薬剤師研修会 | 10月13日 福岡市 |

講演

- | | | |
|---|---|-------------|
| 1 | 内服抗がん剤を含むレジメンと副作用対策・症例検討
原田 桂作
第1回 北九州市立八幡病院薬薬連携勉強会 | 7月25日 北九州市 |
| 2 | 漢方薬・生薬認定薬剤師について
山下 正義
洞薬会 中小病院懇話会 | 11月3日 北九州市 |
| 3 | 漢方薬・生薬認定薬剤師について
山下 正義
洞薬会 中小病院懇話会 | 11月9日 行橋市 |
| 4 | 漢方薬・生薬認定薬剤師について
山下 正義
洞薬会 中小病院懇話会 | 11月11日 北九州市 |
| 5 | 大腸癌のレジメンと副作用対策・症例検討
原田 桂作
第2回 北九州市立八幡病院薬薬連携勉強会 | 11月22日 北九州市 |
-

著書

- 1 北九州市立八幡病院における持参薬調査の実際・病棟活動実例紹介シリーズ (12)
坂本 佳子
福岡県病院薬剤師会会誌 No.185 13-15 福岡県病院薬剤師会 2013

その他

- 1 末吉 宏成
日本腎臓病薬物療法学会誌 第1巻 3号 P209
第6回 日本腎臓病薬物療法学術集会の報告 優秀演題賞「がん化学療法施行患者における腎機能低下時の抗がん剤及び併用薬剤の用量調節の実態調査と薬剤師介入の効果」
- 2 原田 桂作
平成25年度 病院薬局協議会・日本病院薬剤師会学術奨励賞受賞

放射線部門

学会・研究会

- 1 高度石灰化病変に対する小焦点を用いた高分解能CTAの検討
満園 裕樹
第5回 九州CT研究会 5月18日 福岡市
- 2 心臓CT ~iCT-SPの立場から~
入江 佳世
第2回 Brilliance Community in 九州 7月6日 福岡市
- 3 整形外科CT検査に必要な空間分解能の基礎知識
満園 裕樹
第46回 北九州CT勉強会 10月11日 北九州市
- 4 小焦点を用いた高分解能CTAにおける血管内プラーク描出能の基礎的検討
満園 裕樹 入江 佳世 九町 章弘 許 斐稔
第41回 日本放射線技術学会秋季学術大会 10月18日 福岡市
- 5 CT装置トラブルに関する多施設間での事例共有システムの構築と防止および早期復旧のための知見共有について
満園 裕樹 鮎澤 純子 斉藤 律子 小原 佳子 酒井 崇 濱中 浩之
第8回 医療の質・安全学会学術集会 11月23日 東京都
- 6 『パラメータを考える』~下肢CT angio~
満園 裕樹
第3回 Brilliance Community in 九州 12月7日 熊本市

座長・司会

- 1 満園 裕樹
CT技術最前線 RSNA Report2012
第45回 北九州CT勉強会CT 2月12日 北九州市

-
- | | | | |
|---|--|--------|------|
| 2 | 満園 裕樹
第5回 九州CT研究会 | 5月18日 | 福岡市 |
| 3 | 満園 裕樹
第2回 Brilliance Community in 九州 Brilliance ユーザー会 | 7月6日 | 福岡市 |
| 4 | 満園 裕樹
施設検査紹介
第46回 北九州CT勉強会CT | 10月11日 | 北九州市 |

講演

- | | | | |
|---|--|------|-----|
| 1 | CT装置の管理と線量管理の実際
満園 裕樹
第3回 医療放射線セーフティマネジメントセミナー
ナースプラザ福岡 | 2月9日 | 福岡市 |
|---|--|------|-----|

看護部門

学会・研究会

- | | | | |
|---|--|--------|------|
| 1 | 脳卒中の急性期から維持期まで～職種、施設を超えた連携～
波多野 妙
福岡県看護協会第2回北九州5地区支部看護学会 | 2月19日 | 北九州市 |
| 2 | 救急搬送小児の保護者に潜在する育児困難感の把握
梶原 多恵、橋本 真美、三浦 義文、神薊 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第27回 日本小児救急医学会 | 6月14日 | 宜野湾市 |
| 3 | 養育者のこどもへの不適切な関わりと小児救急病棟看護師の役割
今村 久利美、池田 由美子、上野 聡子、石川 紗愛、杉田 奈都子、神薊 淳司、市川 光太郎
第27回 日本小児救急医学会 | 6月15日 | 宜野湾市 |
| 4 | 小児救急外来におけるトリアージの実際と応用 育児困難から外傷まで
梶原 多恵
第23回 日本外来小児科学会 | 9月1日 | 福岡市 |
| 5 | 気管吸引標準化に関する教育的介入の評価
深田 智美、小林 和枝、山下 亮、金 瑛華
第32回 福岡救急医学会 | 9月7日 | 北九州市 |
| 6 | 小児救急トリアージ教育と多職種連携
梶原 多恵
第32回 福岡救急医学会 | 9月7日 | 北九州市 |
| 7 | 看護科災害対策チームの活動と今後の課題
橋本 真美
第15回 日本救急看護学会 | 10月19日 | 福岡市 |
-

座長・司会

- | | | | |
|---|--|--------|------|
| 1 | 高澤 浩美
北九州地区研修会
日本手術学会九州地区北九州分会 | 3月3日 | 北九州市 |
| 2 | 中川 祐子
疥癬対策について
第1回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー | 10月2日 | 北九州市 |
| 3 | 中川 祐子
安全管理
第13回 福岡県看護学会 | 12月14日 | 福岡市 |

講演

- | | | | |
|---|--|---------|------|
| 1 | 子育て勉強会
梶原 多恵、橋本 優子
北九州市立子どもの館 | 毎月第2木曜日 | 北九州市 |
| 2 | 男2代の子育て講座 一目指せソフリエ・パパシエー
梶原 多恵
北九州市立子どもの館 | 2月11日 | 北九州市 |
| 3 | 24時間安心!救急医療
橋本 真美
戸畑区生涯学習センター | 5月16日 | 北九州市 |
| 4 | 小児看護における救命救急技術
梶原 多恵
産業医科大学産業保健学部 | 7月3日 | 北九州市 |
| 5 | 男2代の子育て講座 一目指せソフリエ・パパシエー
梶原 多恵
北九州市立子育て交流プラザ | 10月14日 | 北九州市 |
| 6 | 小児のフィジカルアセスメント
梶原 多恵
福岡県看護協会 ナースプラザ | 11月21日 | 福岡市 |
| 7 | 一般外来での救急患者の看護
井筒 隆博
有吉クリニック | 12月11日 | 北九州市 |
| 8 | 院内感染症対策について
中川 祐子
院内感染対策学術講演 | 4月12日 | 熊本市 |
| 9 | 地域の疑問は地域で解決
中川 祐子
北九州感染対策研究会 | 6月17日 | 北九州市 |

-
- | | | | |
|----|--|--------|------|
| 10 | 疾患別感染対策
中川 祐子
感染症対策指導者養成研修会 | 7月20日 | 北九州市 |
| 11 | 感染を予防するオムツ交換
中川 祐子
感染症対策指導者養成研修 | 7月27日 | 北九州市 |
| 12 | 診療所内における感染防止について
中川 祐子
平成25年度 夜間・休日急患センター講演会 | 10月19日 | 北九州市 |

著書

- | | |
|---|---|
| 1 | 処置時の援助とホームケア指導
—小児救急看護認定看護師が教える子ども・保護者との上手なかかわり—
梶原 多恵
エマージェンシー・ケア vol.36 no.6 707-714 メディカ出版 2013 |
| 2 | 救急外来受診時の対応と家族ケア（重症事例）—交通外傷による頭部外傷乳児と家族への看護介入—
梶原 多恵
小児看護 vol.36 no.6 707-714 へるす出版 2013 |
| 3 | 経口挿管が長期に及ぶと気管切開が施行される理由と気管切開後の呼吸管理上の利点
山下 亮
重症患者ケアQ&A 学研メディカル 2013 |
| 4 | 人工呼吸管理中で、呼吸以外に血圧・尿量に着目する理由
山下 亮
重症患者ケアQ&A 学研メディカル 2013 |
| 5 | 急性期の栄養管理の重要性
山下 亮
重症患者ケアQ&A 学研メディカル 2013 |
| 6 | 急性期の輸液投与の原則
山下 亮
重症患者ケアQ&A 学研メディカル 2013 |
| 7 | 経静脈栄養の成分調節原則
山下 亮
重症患者ケアQ&A 学研メディカル 2013 |
| 8 | 人工呼吸管理中の評価指標
山下 亮
重症患者ケアQ&A 学研メディカル 2013 |

その他

- | | | | |
|---|--|-------|------|
| 1 | 赤ちゃん同窓会 —育児相談—
原 多恵、橋本 優子
北九州市立子どもの館 | 6月12日 | 北九州市 |
|---|--|-------|------|
-

-
- | | | | |
|---|--|--------|------|
| 2 | 平成25年度 感染症指導者養成研修
三井 あゆみ | 7月27日 | 北九州市 |
| 3 | すくすく子育てフェスタ
梶原 多恵、橋本 優子、橋本 真美
西日本総合展示場 | 12月21日 | 北九州市 |

院内看護研究発表会

- | | | |
|---|--|-------|
| 1 | ドクターカー出動における看護師同乗教育の手法について
井上 里美、吉武 知美、橋本 真美、寺地 亜希、飯森 美由紀、池田 かおる（救急外来） | |
| 2 | 小児科外来における看護師による緊急性の評価への取り組み
伊東 知佐子、吉田 愛、村田 寿美、原田 かをる、橋本 優子（外来） | |
| 3 | TACEにおける看護師の知識・援助方法の認知傾向を目指して ～教育介入とその効果の検討～
島村 美紀、野村 美映子、松田 ユリ、中川路 敬子、高田 久子（西3階病棟） | |
| 4 | 対応困難な家族に対する看護師の感情とその対処方法の現状
野上 久美子、島村 智江、友松 むつみ、岡村 志保、山下 美代、松原 由起、杉田 奈都子（西4階病棟） | |
| 5 | 治療用装具装着患者への指導の統一に関する一考察
中川 正男、井上 裕美、北村 都子、吉田 晶子、大塚 由美子（西5階病棟） | |
| 6 | 検査説明に対する看護師の不安の明確化とその見直し
戸簾 妙子、藤川 唯智子、松田 昌子、高澤 浩美（西6階病棟） | 11月8日 |

看護科院内研修

看護科新人研修

- | | | |
|---|---|------------|
| 1 | 平成24年度 第6回 新規任用者研修
「一年間の看護の振り返り、次年度の目標設定」
野村 美映子、吉武 知美、井生 恭子 | 2月28日 |
| 2 | 平成25年度 第1回 新規任用者研修
「災害看護」
橋本 真美
「看護記録」
井生 恭子
「接遇」
米澤 美穂子
「基礎看護技術 注射法」
川崎 久美子、野村 美映子
「事故防止」
古川 恵子
「感染管理・感染対策」
中川 祐子、三井 あゆみ | 4月2日、3日、4日 |

3	平成25年度7月採用 第1回 新規任用者研修 「接遇」 米澤 美穂子 「看護記録」 大塚 由美子 「基礎看護技術 注射法」 川崎 久美子、野村 美映子 「事故防止」 古川 恵子 「感染管理・感染対策」 三井 あゆみ	7月3日
4	平成25年度 第3回 新規任用者研修 「医療連携」 崎田 幾子 「薬剤の基礎」 長井 恵子、原田 桂作	8月22日
5	平成25年度 第4回 新規任用者研修 「急変時の対応」 川崎 久美子、江崎 亜以、岡崎 優子	9月18日
6	平成25年度 第5回 新規任用者研修 「看護必要度」 肉丸 綾子 「多重課題」 村井 澄江、行比 知子、岡崎 優子 「褥瘡予防」 田中 愛美、島村 美紀、高澤 浩美	10月30日
7	平成25年度10月採用 第1回 新規任用者研修 「看護記録」 大塚 由美子	10月2日

2年目研修

1	平成25年度 2年目研修 「診療報酬の動向」 肉丸 綾子 「フィジカルアセスメント」 山下 亮 「リーダーシップ」 谷石 香津代、川原 千恵美、高田 久子	10月16日
---	---	--------

看護科専門研修

- 1 平成25年度 教育委員会専門研修
「急変時に患者の状態をどう伝えるか」
橋本 優子、井筒 隆博 9月19日
- 2 平成25年度 看護科感染管理研修
「これだけは知っておきたい基本の感染対策」
三井 あゆみ、中川 祐子 10月11日
- 3 平成25年度 看護記録研修
「経時記録について」
長田 弘子、尾垣 美江、岩下 律子、木村 律子 12月6日
- 4 平成25年度 災害看護研修
「災害看護」
安部 環、伊村 とさえ、岡村 志保、杉本 佳奈、橋本 真美 12月18日
- 5 平成25年度 第1回 看護科事故防止研修
「なぜなぜ分析」
鶴田 麻衣、松本 由紀、岩村 智子
「医療安全の取り組み」
古川 恵子 10月24日

看護科伝達研修

- 1 平成24年度 伝達研修
「うつ症状のある患者の看護」
阿部 麻奈美
「高齢者の理解と尊厳を守る看護」
池田 かおる
「新人看護職員研修における教育担当者研修について」
川崎 久美子 1月18日

看護科接遇研修

- 「接遇対応について」
兼田 朋子 10月17日、11月25日、11月27日

認定看護師主催研修

- 1 「認定教育課程を終えて」
橋本 真美
「集中ケア認定看護師 今後の活動について」
山下 亮 2月8日
 - 2 「脳梗塞の看護」
波多野 妙 7月11日
 - 3 「プレゼンテーションのコツ」
橋本 真美 10月10日
-

看護補助者研修

- 1 平成24年度 第2回 看護補助者研修
「オムツ交換と冬季に多い感染症」
山之内 妙子、井上 裕美、藤川 唯智子、中村 一貴、中川 祐子、藤田 寿美子
1月24日、1月27日、1月31日、2月22日
- 2 平成25年度 新規任用看護補助者研修
「病院感染対策の基本」
三井 あゆみ
4月1日
- 3 平成25年度 第1回 看護補助者研修
「シーツ交換と検体搬送について」
中川 祐子、三井 あゆみ
11月20日、11月21日、11月29日

委託業者研修

- 1 平成25年度 第1回 委託業者研修
「手洗いについて」
中川 祐子、三井 あゆみ
8月30日
- 2 平成25年度 第2回 委託業者研修
「吐物処理の方法」
中川 祐子、三井 あゆみ
12月13日

その他

- 1 「人工呼吸器の管理と看護」
山下 亮、伊香 元裕
2月14日

検査部門

学会・研究会

- 1 腎動脈エコー検査における側臥位側方アプローチの有用性
近藤 嗣通、吉田 裕見子、栗田 恵利、中村 尚子
第23回 福岡県医学検査学会
6月30日 福岡市
- 2 腎動脈エコー検査における側臥位側方アプローチの有用性
近藤 嗣通、吉田 裕見子、栗田 恵利、中村 尚子、原田 敬
第20回 日本心血管インターベンション治療学会 九州沖縄地方会
8月31日 久留米市
- 3 当院における小児科髄液検査の統計
津留崎 舞
一般検査若手・中堅育成キャンプセミナー in 高知
11月4日 高知市
- 4 拡張型心筋症様の心エコー所見を契機に発見された褐色細胞腫の1例
栗田 恵利、吉田 裕見子、近藤 嗣通、中村 尚子
第23回 福岡県医学検査学会
6月30日 福岡市

座長・司会

1 松本 誠也

講演「健診で見逃されている『隠れ糖尿病』をご存じですか」

臨床検査ゼミナール

11月30日 北九州市

理学療法部門

学会・研究会

1 食道癌根治術における周術期管理について

砂山 明生

呼吸ケアリハビリテーション学会

10月10日 東京ドームホテル

2 視覚と体性感覚の統合に着目した感覚障害・左半側空間無視に対する訓練

武田 優子

九州PTOT合同学会

11月23日 熊本崇城大学ホール

栄養部門

著書

1 北九州市立八幡病院における栄養科の取り組みについて

梅木 加寿子

臨床栄養 医歯薬出版 2013

その他（院内研究会など）

糖尿病教室

1 糖尿病教室「食事療法」

梅木 加寿子、渡邊 響子、阿南 有香、中尾 明奈、石坂 綾子

1月30日、2月27日、3月27日、4月24日、5月29日、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月30日、11月27日、12月18日

2 糖尿病教室「糖尿病と合併症」

末永 章人

1月28日、2月25日、3月25日、4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、8月26日、9月30日、10月28日、11月25日、12月16日

3 糖尿病教室「生活・運動」

米澤 美穂子、山崎 悦子、植田 啓子、松田 昌子、松岡 フミ、小谷 玲子、長岡 寿江

1月30日、2月27日、3月27日、4月24日、5月29日、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月30日、11月27日、12月18日

4 糖尿病教室「薬・インスリン」

田崎 奈緒子、福永 竜一、中村 祥子、姫野 英二、宮野 佳子

1月28日、2月25日、3月25日、4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、8月26日、9月30日、10月28日、11月25日、12月16日

-
- | | | | |
|---|--|-------|-------|
| 5 | 糖尿病食事会
「糖尿病食の実際」
石坂 綾子 | 3月13日 | 10月9日 |
| | 「食事会・相談」
末永 章人、小住 乃理子、梅木 加寿子、中尾 明奈、阿南 有香、石坂 綾子 | 3月13日 | 10月9日 |
| 6 | 糖尿病栄養教室
「糖尿病治療薬についての最近の話題」
坂本 佳子
「食品交換表演習」
石坂 綾子
「血糖検査」
松田 昌子
「食事会・質疑応答」
小住 乃理子、坂本 佳子、梅木 加寿子、渡邊 響子、阿南 有香、中尾 明奈、石坂 綾子 | | 5月22日 |

アレルギー教室

- | | | | |
|---|---|--------|-------|
| 1 | アレルギー教室 「栄養相談」
中尾 明奈、石坂 綾子 | 3月28日 | 11月7日 |
| 2 | アレルギー教室
藤波 志生子、岡村 志保、山下 美代、古田 恵美、山田 友美、石川 祐子、橋本 優子、金屋 美千代、
原田 かをる、井生 恭子、梶原 多恵、高原 文子 | 3月21日 | 3月28日 |
| 3 | アレルギー教室
岡村 志保、古田 恵美、山田 友美、石川 祐子、橋本 優子、金屋 美千代、杉田 奈都子、井生 恭子、
梶原 多恵、高原 文子 | 10月31日 | 11月7日 |

骨粗鬆相談教室

- | | | |
|---|---------------------------------|------|
| 1 | 野口 雅夫、田中 美子、坊野 美津子、渡辺 響子、梅木 加寿子 | 3月4日 |
| 2 | 野口 雅夫、田中 美子、原田 かをる、渡辺 響子、梅木 加寿子 | 9月2日 |

NSTランチタイムミーティング

- | | | |
|---|--------------------------|-------------|
| 1 | 「嚥下について」
波多野 妙 | 1月8日、1月15日 |
| 2 | 「小児のアセスメントについて」
金色 正広 | 2月26日 |
| 3 | 「当院の嚥下食について」
石坂 綾子 | 3月5日 |
| 4 | 「当院のソフト食について」
渡辺 響子 | 3月12日 |
| 5 | 「日本静脈経腸栄養学会」
坂本 佳子 | 3月19日、3月26日 |
-

6	「経腸栄養の投与経路と投与方法」	
	金色 正広	6月4日、6月11日
7	「今後の栄養評価システムはどうしたらよいか」	
	金色 正広	7月16日、7月23日
8	「『食べたくない』と言われたら」	
	金色 正広	7月31日、8月6日
9	「夏バテ」	
	金色 正広	8月13日、8月20日
10	「チーム医療ってなあに？」	
	金色 正広	8月27日、9月3日

医療安全管理研修会

1	平成24年度 第7回 医療安全研修会 「安全に行う人工呼吸療法」	
	山下 亮	1月13日
2	平成25年度 第1回 医療安全管理研修会 「医療コミュニケーション・ギャップの発生要因と対策」	
	神蘭 淳司	5月30日
3	平成25年度 第3回 医療安全管理研修会 「医療安全に対する取り組み」	
	古川 恵子 「三点認証を習慣づけよう」 中村 尚子 「医局からの報告」 神蘭 淳司 「輸血未実施の事例検討-RCA分析を行って-」 高田 久子 「24年度のまとめと異物混入防止について」 梅木 加寿子 「リスク分析の報告」 山下 正義 「放射線科におけるインシデント「傾向と対策」」 山下 三樹	8月1日
4	平成25年度 第4回 医療安全研修会 「呼吸ケアチーム発足について」	
	吉田 有吾 「人工呼吸療法の弊害」 伊香 元裕、山下 亮	9月10日
5	平成25年度 第5回 医療安全管理研修会 「深部静脈血栓症・肺梗塞-こんな怖い病気知ってますか-」	
	岡本 好司	10月3日

PEWSS勉強会

- | | | |
|---|--|--------|
| 1 | PEWSSの効果&レビュー・実際の評価方法
竹井 寛和 | 10月31日 |
| 2 | 小児のフィジカルアセスメント・PEWSS概論
竹井 寛和、後藤 保 | 11月18日 |
| 3 | 小児のフィジカルアセスメント・PEWSS概論
竹井 寛和、後藤 保 | 11月21日 |
| 4 | 小児の気管支喘息について・RSウイルス感染症について
竹井 寛和、後藤 保 | 11月27日 |
| 5 | 小児の気管支喘息について・RSウイルス感染症について
竹井 寛和、後藤 保 | 11月28日 |

救急症例検討会

- | | | |
|---|--------------------------------------|--------|
| 1 | 有機リン中毒
立和田 隆、田口 健蔵
第1回 救急症例検討会 | 10月24日 |
| 2 | 急性大動脈解離
屏 壮史、田口 健蔵
第2回 救急症例検討会 | 12月9日 |

院内感染対策研修会

- | | | |
|---|--|-------|
| 1 | VRE監視培養の考え方と運用について
伊藤 重彦
平成25年度 第1回 市立八幡病院 院内感染対策研修会 | 8月12日 |
|---|--|-------|

災害対策研修

- | | | |
|---|-----------------------------------|--------|
| 1 | 災害対策チームの活動
橋本 真美
八幡病院災害対策研修 | 11月14日 |
|---|-----------------------------------|--------|

その他

- | | | |
|---|--|--------|
| 1 | PEM+CBDCA+Bevレジメンの紹介と副作用対策
原田 桂作
内科病棟抗がん剤研修会 | 11月27日 |
|---|--|--------|

6

委員会報告

▶ 災害対策チーム委員会

委員長：災害医療研修センター長 伊藤 重彦

災害対策チームは伊藤副院長を筆頭に各部署からメンバーが集まり、院内の災害対策全般に関わる活動を行っています。中心となるDMAT隊員は業務調整員の下木（庶務係）が転出したものの、角田（看護科）が新規登録され、田口（救急科）が横浜労災病院から着任しました。さらに山吉（外科）、中川（看護科）が福岡県DMAT隊員として加わりました。

福岡県DMAT隊員は県内で発生した災害に出動しますが、東京で行われる追加講習を受けることによって通常のDMAT（いわゆる日本DMAT）隊員として登録されます。今後は不足している業務調整員を中心に増員を図りたいと考えています。

新たな活動としては、災害対策マニュアルの改訂と並行して、福岡県より2次被ばく医療機関に指定されたことを受け、被ばく医療マニュアルの作成を進めています。11月には北九州市の郡山参与（危機管理）を講師に迎えて放射線災害の院内研修会を開催しました。

また、6月の福岡県総合防災訓練（大牟田）、10月の北九州市特殊災害訓練（化学災害）、11月の福岡空港航空機事故対策訓練、DMAT九州地区ブロック訓練（沖縄）にそれぞれDMATを派遣し、院内でも12月に地震・火災を想定した訓練を消防と合同で行いました。

災害医療の研修会等にも積極的に講師を派遣しています。北九州市医師会や八幡医師会の研修、福岡県DMATの隊員養成研修だけでなく、厚生労働省のDMAT隊員養成研修や政府広域医療搬送訓練にも新たに講師を派遣することによって、福岡県内のみならず、全国に「災害医療の八幡病院」をアピールしています。

今後は新病院に向けて、柱の一つである災害医療をさらに発展させるべく災害対策チームが一丸となって活動してまいりますので、ご協力のほど宜しく願

い申し上げます。

（救急科・災害医療研修センター 副センター長
田口 健蔵）

1. ICT委員会の紹介

2013年は、感染管理認定看護師（以下、ICNとする）1名が加わったことにより、より広い視野でのラウンドや研修が行えるようになりました。毎年恒例となった世界手洗いデーに合わせた手洗いキャンペーンでは、小児科の来院患者を対象として、子供たちにも手洗いチェックを実践してもらいました。このような活動を通して、職員だけではなく病院にかかわるすべての方々に感染予防対策を意識していただき、院内感染を防止に努めていきたいと思っています。

2. 院内の耐性菌検出および抗菌薬使用状況について

耐性菌検出状況、抗菌薬のAUDの推移については右図をご参照ください。急性胆管炎・胆嚢炎の診療ガイドライン2013により、カルバペネム系抗菌薬の使用量が増加しました。2013年は、多剤耐性菌の発生は見られていませんが、引き続き耐性菌検出状況とAUDの推移を監視していきます。

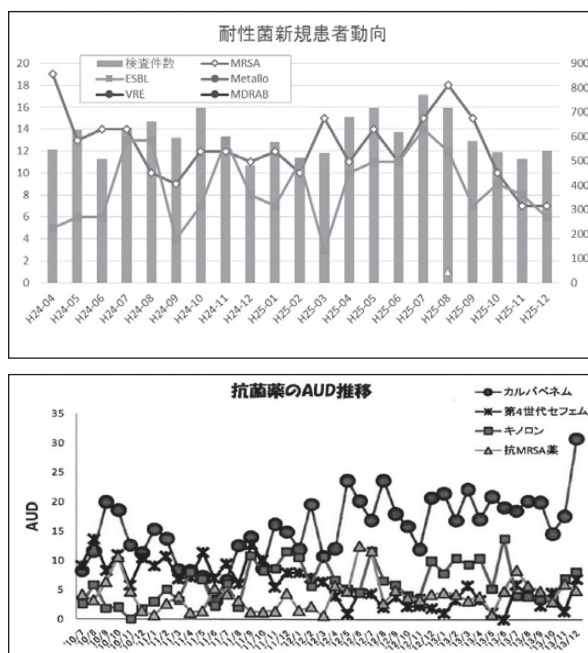
3. 地域連携について

ICT委員会の活動の一つとして、地域連携カンファレンスがあります。当院は、近隣15施設と連携を組み、2月に1回カンファレンスを実施しています。カンファレンスでは、施設における耐性菌の検出状況や抗菌薬の使用状況などを確認し、感染対策に関する意見交換をしています。また、インフルエンザの流行期にはワクチンや具体的な感染対策方法などの情報共有をし、地域の感染対策に努めています。

4. 2014年のICT活動について

電子カルテが導入されることにより、効率的にデータ収集が行えるようになり、今までよりもタイムリーな介入ができるようになると思います。地域連携では、地域の施設手指消毒剤の使用量調査を追加し、感染対策を強化していく予定です。

（感染制御室 中川 祐子）



臨床検査部門委員会

委員長：野口 雅夫

1、臨床検査部門委員会の紹介

臨床検査部門委員会は、当院の臨床検査部門の向上に係る事項等について審議するため、二か月に一回のペースで会議を開き活動しています。

臨床検査部門委員会の平成25年度のメンバーは、委員長として野口雅夫副院長、委員として栗屋幸一内科部長（8月より伊藤光佑内科副部長に交替）、小住清志循環器科部長、石橋紳作小児科部長、野口純也外科部長、野田満脳神経外科部長、森下直由泌尿器科部長、兼田朋子副総看護師長、米澤美穂子看護師長、佐藤奈々絵看護師長、池田稔医事係長、宮本征美臨床検査総技師長、中村尚子臨床検査技師長、松本誠也臨床検査技師長、久野淳二臨床検査担当係長で構成されています。

2、臨床検査部門委員会の活動状況

2013年の臨床検査部門委員会の主な議題は以下の通りでした。

- ・第61回部門委員会（平成25年2月6日）
議題：①BNP測定の院内化実施状況、②アレルギー検査の医療センター集約中止とSRL外注化、③血清フェリチン・無機リンの院内化への検討状況、④頸部血管エコーのスクリーニング、⑤SRL項目の変更
- ・第62回部門委員会（平成25年4月10日）
議題：①新年度委員の紹介、②アレルギー・抗核抗体・抗Ds-DNA抗体の医療センター集約中止とSRL外注化、③血清フェリチン等の院内化への準備状況、④生化学自動分析装置の更新に伴う試薬の変更、⑤SRL項目の変更、⑥小児科よりプロカルシトニンの院内化の要望
- ・第63回部門委員会（平成25年6月5日）
議題：①血清フェリチン・無機リンの院内化実施予定、②プロカルシトニン院内化へ向けた測定機器検討、③電子カルテへ向けた諸課題（血沈、セット項目、集約項目見直し等）、④その他（SRL項目変更、採血量のお願い等）
- ・第64回部門委員会（平成25年8月7日）
議題：①血清フェリチン・無機リンの院内化実施

状況、②凝固検査測定装置の更新、③プロカルシトニン院内化へ向けた機器検討状況（プレゼン、見学、勉強会）、④キャンセル時の対応、⑤その他（細菌検査室使用記録記入のお願い、SRL項目変更）

・第65回部門委員会（平成25年10月2日）

議題：①プロカルシトニン院内化への検討状況（集約検査見直しとの関連）、②血沈の検討状況、③キャンセル時の対応手順、④その他（SRL項目変更、輸血製剤払出しは看護補助者に対してはできない旨確認、自動採血管準備装置の更新予定）

・第66回部門委員会（平成25年12月4日）

議題：①新病院へ向けた検査体制（ワンフロア化、集約体制の見直し等）、②電子カルテ導入への準備状況、③BCロボ（自動採血管準備装置）更新と採血管一部変更、④その他（クリニテスト製造中止に伴う在庫状況、カルバマゼピンの試薬一時変更予定、プロカルシトニンの機器検討状況、プレセプシン実施の要望、Dダイマーの夜間・休日における実施要望、SRL項目変更）

3、今後の方向性

25年は、医療センターへの検査集約体制の見直しにむけ、BNP・血清フェリチン・無機リン等、院内の機器で可能な項目から院内化に取り組んだ。またプロカルシトニンの院内測定には免疫系の測定装置の導入が必要なため機器の検討と予算申請を行い、合わせて免疫系項目の集約見直しに着手し、次年度に引き継いだ。今後、電子カルテ導入や新病院へ向けた諸課題、検査集約体制の見直し等、臨床検査体制のさらなる充実について取り組むことが課題となっている。

（臨床検査科 松本 誠也）

輸血療法委員会

委員長：野口 雅夫

1、輸血療法委員会の紹介

輸血療法委員会は規約により「血液製剤の安全かつ適正な運用」「血液製剤の管理」「血液製剤使用による事故防止」等について審議するため、二か月に一回のペースで会議を開き活動しています。

輸血療法委員会のメンバーは、委員長として野口副院長、副委員長として金色麻酔科主任部長、各委員として診療科医師より神菌小児科主任部長、伊藤内科部長、野口外科部長、野田脳神経外科部長、田中整形外科部長、薬剤科より姫野薬剤師、看護科より兼田副総看護師長、高田看護師長（西3）、小林看護師長（ICU）、古川副総看護師長（安全管理）、事務局より井手口事務局長、臨床検査科より宮本総技師長、實藤技師で構成されています。

2、輸血療法委員会の活動状況

2013年の輸血療法委員会の主な議題は以下の通りでした。

- ・「平成24年度第5回輸血療法委員会」（1月11日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績（2）アルブミン製剤の使用状況及び輸血管理料について（3）O型緊急輸血症例
- ・「平成24年度第6回輸血療法委員会」（3月1日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績（2）アルブミン製剤使用実績（3）アルブミン製剤の届け出書について（4）血液製剤の規格単位変更予定（FFP）について
- ・「平成25年度第1回輸血療法委員会」（5月10日）
議題（1）平成24年度輸血用血液製剤使用実績（2）アルブミン製剤の使用状況及び輸血管理料について（3）O型緊急輸血について（4）遡及調査について（5）輸血マニュアル（返品）の改定について（6）オーダーから出庫までの所要時間の目安
- ・「平成25年度第2回輸血療法委員会」（7月26日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績（2）新鮮凍結血漿の製剤名変更に伴う輸血申込伝票の変更に
ついて（3）輸血マニュアルの差し替え（血液製剤の返品、IR-RCCオーダーから出庫までの所要時間の目安）（4）アルブミン製剤（アルブミン5%）

をER、ICU、OPE室のみ在庫として置く方向で検討する

- ・「平成25年度第3回輸血療法委員会」（9月6日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績（2）O型緊急輸血症例（3）日赤より「サイトメガロウイルス抗体陰性血液について」のお知らせ（4）廃血事例の検証結果について
- ・「平成25年度第4回輸血療法委員会」（11月1日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績（2）輸血用血液製剤輸血口形態の追加のお知らせ（3）日赤より輸血情報のお知らせ（4）FFP融解の際に浮遊物が析出した件

3、今後の方向性

平成25年の活動では、特に「アルブミン製剤の適正使用」にかかる輸血管理料加算の取得へ向け前年に引き続き取り組みました。また血液製剤のオーダーから出庫までの所要時間の目安について、血液センターとの間で配送体制の協議を行うなど改善に取り組みました。今後は電子カルテの導入や輸血システムのバージョンアップ、輸血検査自動装置の導入を含め、輸血の安全性と適正使用の向上にむけたチーム医療体制の充実が課題となっています。

（臨床検査科 松本 誠也）

▶ 広報委員会

委員長：伊藤 重彦

1 委員会紹介

(事務局管理課庶務係 友岡 大雄)

当委員会は、当院の広報に関する効果的運用を図るため、委員長である副院長を筆頭に、医師、薬剤師、臨床検査技師、臨床放射線技師、看護師、事務職員など、多職種にわたる総勢25名で構成されています。

委員会活動の主な内容としては、

- ・ 広報誌「さらくら」の作成（主に連携医療機関様向け）
- ・ 広報誌「やはた病院ニュース」の作成（主に患者さんやそのご家族向け）
- ・ ホームページの作成・更新
- ・ 診療年報の作成

の4項目を柱とし、日々活動を行っています。

2 活動状況

2013年は、これまでの活動に加え、当院についてより積極的な広報ができるよう、様々な取り組みを行いました。

まずは、当院の特長（強み）をより多くの方々に知っていただくため、「さらくら増刊号」を発行し、当院で特に力を入れている治療内容や取り組みについての紹介を行いました。

さらに、より多くの連携医療機関にご覧いただけるよう、「さらくら」の発行部数及び配布先を増やしました。

また、医療機関が行う広報活動（広告等を含む）については、医療法による規制がありますが、この規制を整理し、当院においてより効果的な広報活動についての再検討を行いました。

3 今後の取り組み

今後も、当院をはじめ医療機関における広報活動の重要性は高まるばかりです。

広報活動には、法・予算・人手等の制約がありますが、可能な限り様々な方法で当院を積極的にアピールし、一人でも多くの方々に当院の取り組みを知っていただけるよう、広報委員一丸となって頑張っていきたいと思います。

リスクマネジメント部会

リスクマネジメント部会長：野口 雅夫

リスクマネジメント部会の2013年の実績を紹介する。毎月、インシデント・アクシデント報告の検討や医療安全に関する改善事項の検討、医療安全情報の発信などを行っている。

インシデント・アクシデント報告件数は年間704件で毎月平均約59件であった。

内訳は看護科80%、薬剤科・栄養管理係6%、診療放射線科4%、医局・臨床検査科1%、事務局・リハビリテーション室は1%以下であった。このデータは年1回病院局の包括公表時に報告されている。

院内でも毎年、報告会が開催され、各部門がインシデント・アクシデント報告の原因分析・改善策を提示し、情報の共有は勿論、再発防止に取り組んでいる。

部会の下部組織として医療安全ワーキンググループ活動を行っており、2年経過した。医師をリーダーとして、看護師・コメディカルが招集、事例の検討や患者誤認防止チームと転倒転落防止チームに分かれて活動に取り組んでいる。11月の医療安全推進週間では転倒転落防止活動に取り組んだ。「有害事象の発生を防ごう」と患者・家族、職員にも転倒転落防止のDVD鑑賞を行い、転倒転落防止を意識付ける活動を行った。病棟や外来には、転倒・転落注意を呼びかけるポスターを掲示した。活動期間中、転倒転落の発生件数は、毎月の報告件数と同様であったが、有害事象はなかった。今後も、患者や職員へ意識を高めるため、継続した活動を行っていく重要性を痛感した。

更に、5月より呼吸ケアチームが発足した。医師を中心に、呼吸療法認定士として看護師や理学療法士、臨床工学技士で結成し、人工呼吸器の離脱を目的とした呼吸ケアラウンドを実施している。その他、研修会の開催やコンサルテーションなど呼吸ケアに関する知識と技術の向上に取り組んでいる。

また、血管外漏出防止対策ワーキンググループでは、日々の輸液管理や漏出時の対応について検討を行い、マニュアル作成と院内への周知に取り組んだ。

その他、院内ラウンドを多職種で毎月実施し、イン

シデント・アクシデント報告内容の確認や各部署の問題点の抽出、改善策や対応を確認した。患者さんが安全で安心な入院生活がおくれるよう、今後も組織全体で継続した取り組みが必要と考える。

平成25年の医療安全管理研修会では、医療機器、医薬品に関することなど年7回の研修会とDVD研修会を開催し、職員の医療安全に関する意識の向上に努めている。

今後も、患者・家族及び職員の皆様の期待に応えられるよう、部会としての活動を通じて、医療安全の推進・医療安全の醸成に向かって取り組んでいきたい。

(医療安全管理担当課長 古川 恵子)

医療連携室運営委員会

委員長：太崎 博美

副委員長：阿比留 悦子

1. 委員会の紹介

医療連携の目的は、地域における医療の充実と個々にあった医療、福祉の提供をはかるため病院と医療機関が密接な連携を保ち、継続的で良質な医療を提供することです。医療連携室運営委員会では、地域医療支援病院の承認を得るために「紹介率の向上」と「退院支援の推進」を目標に活動してきました。

2. 現状と活動状況

紹介率は、平均58%で、まだ目標の60%に足りていません。紹介率は、少しずつ確実に向上していますが、診療内容のバランスの問題など解決すべき点を残しています。例えば、病院の経営改善のひとつとして、新しい医療機器を導入したり、医師の増員を図ったりしております。そこで紹介率の向上に繋がるように対外的にPRをしてきました。また、市民公開講座も開催し、市民のみなさまに親しまれる病院を目指しました。

医療連携は、ベッドコントロールと密接な関係があり、看護力や病院の力が成果として現れてきます。退院支援について、昨年からの退院支援加算をとるために、「退院支援とは」といった基礎からの研修を重ねてきました。当初はMSWを中心に取り組みましたが、今年は看護師が中心になって「入院時から取り組む退院支援」に変更してきました。最初から看護師中心に進めれば良かったという反省もあるのですが、止むを得ない状況もあり段階的に進めてきました。介護保険についても研修会を開催し、医師にも理解をしていただきました。何度も検討を重ねた結果、入院時から退院を考慮した取り組みがかなり定着化した印象を持っておりますが、まだ病棟格差がありますので、個別に対応し平準化に向け努力しているところです。

3. 今後の方向性

1) 開放病床の運営

地域医療支援病院の承認を得るためには開放病床の運営が不可欠です。そのための登録医を募集

し、現在80名の先生方に登録医になっていただきました。登録医の先生方には「登録医証」を額縁に入れてお配りし、医療機関に掲示していただくようにしました。さらに登録医の募集を行い、開放病床の運営を開始していく予定です。

2) 病院のPR

電子カルテが導入され、新病院建築に向けて職員が一丸となって頑張っている姿を研修会や、講演会を通して市民のみなさまにPRしていく予定です。

3) 周辺医療機関への訪問活動

医療連携室に連携部長が就任し、精力的に周辺医療機関の訪問を行いながら、いろいろな要望を伺って回っております。今後もこの訪問を継続し、実際の声をいただくように頑張っていきたいと思っております。

4) 退院支援の推進

退院支援に関して、さらに内容を充実させ、患者・家族のみなさまにご理解・納得のいく連携をめざし、結果的に在院日数が短縮できるように努力していきます。また、国の方針が「在宅医療強化」ですので、看護科と一体となって広域的な退院支援を行なっていきたいと考えております。



<登録医証>

リハビリテーション部門委員会

委員長：野口 雅夫

当委員会は、リハビリテーション室の円滑な運営を協議するため設置されました。

その目的は、

- (1) リハビリテーション部門の体制を確立する。
 - (2) リハビリテーション部門を担当する医師、専門職種間の連携、協力体制を整備する。
 - (3) リハビリテーション部門の業務改善をする。
- というものです。(以後リハビリテーションをリハと略す)

これまで、病院機能評価を見据えての改善を行なってきました。

野口副院長を委員長とし、構成員は、辻（整形外科主任部長）、越智（脳神経外科主任部長）、末永（内科部長）、田中（循環器内科部長）、岡崎（東5病棟看護師長）、大塚（西5病棟看護師長）、高澤（西6病棟看護師長）、堀池（事務）、井上（理学療法士長）、和才（理学療法士）、武田（作業療法士）、その他委員長が必要と認める者です。

2013年は5回開催し、業務の改善などを検討してきました。

以下にその主な議題を箇条書きにします。

- (1) 年末年始、ゴールデンウィークの長期休暇期間のリハ対応について説明を行い、対象を選択し実施した。
- (2) 各科からリハ指示箋を直接受ける方向で検討した。その結果5月16日より、内科・循環器内科から直接リハ室へオーダーできるようになった。これに先立ち、「リハビリテーションオーダーの手順」を作成し、説明を行った。
- (3) 心大血管疾患リハへの対応を検討し、理学療法士の専任登録を行った。
- (4) 院内においてリハを必要とする患者について検討し、その中で外科医の当委員会への参加を求めることになった。
- (5) 「リハビリテーション総合実施計画表」について、通則などを説明した。医師と看護師の記入部分について、以前の取り決めを確認した。

- (6) スムーズにリハが開始できるよう、病棟とリハ室間での情報伝達における注意点などを検討した。

今後の方向

心大血管リハへの適応拡大や言語聴覚士（ST）の採用を含め、リハビリテーション部門のさらなる充実を図るため、諸問題を検討し改善していきます。

（整形外科理学療法士長 井上 裕子）

▶ クリニカルパス委員会

委員長：木戸川 秀生

2013年クリニカルパス委員会はほとんど活動を行っていない。新しいパスが提出されなかったため委員会が開催されなかったこと、さらに前委員長転勤により長らく委員長不在であったためと考えられる。

2013年12月に約1年11ヵ月ぶりに委員会が開催され「胃切除パス」が承認された。2014年には電子カルテが導入されるため、現在導入しているパスを電子化するという難題を抱えている。しかしパスが電子化

されることによって、現在まで行っていなかったバリエーション分析などが比較的容易に可能となる。当院にとってパスの電子化は未知の領域であるがこれを機会に現在のパスを大幅に増やしていく所存である。

現在運用中パス：現在までに38のパスが作成されている（表）。その後医師の異動などにより使用されていないパスも存在する。当院のクリニカルパスの目標は70であり電子化を機会に増やしていきたい。

診療科	番 号	パ ス 名	必要部数	備 考
循環器内科	B-001-01	心臓カテーテル検査		
	B-002-01	ペースメーカー電池交換		
	B-003-01	ペースメーカー植込み術		
小児科	C-001-01	肺炎		
	C-002-01	RS		
	C-003-02	小児ソ徑ヘルニア		
	C-004-01	低身長		
	C-005-01	包茎		
	C-006-01	停留精巣		
	C-007-01	ステント抜去		
	C-008-01	小児斜視		
	C-009-01	小児外眼部手術		
	C-010-01	鼓膜チュービング術		
外 科	D-001-06	腹腔鏡下胆嚢摘出術		
	D-002-05	大腸内視鏡・ポリープ切除		
	D-003-05	成人最径ヘルニア根治術（前方アプローチ）		
	D-004-01	虫嚢切除術		
	D-005-02	胃十二指腸潰瘍穿孔（手術療法）		
	D-006-02	胸腔鏡下肺部分切除術		
	D-007-01	胃十二指腸潰瘍穿孔（保存療法）		
	D-008-01	痔核根治術		
	D-009-03	結腸切除術		
	D-010-02	肝動脈塞栓化学療法		
	D-011-01	成人腹腔鏡下最径ヘルニア手術		
	D-012-01	胸腔鏡下交感神経切除術		
	D-013-01	幽門側胃切除術		
整形外科	E-001-01	人工骨頭置換術		
脳神経外科	F-001-01	脳血管造影(アンギオ)		
	F-002-01	頸動脈ステント留置術(CAS)		
形成外科	G-001-01	顎裂		
	G-002-01	口蓋裂（Push Back法）		
	G-002-01	口蓋裂（Furlow法）		
	G-003-01	片側口唇裂		
	G-004-01	両側口唇裂		
	G-005-01	副耳		
	G-006-01	副耳（1泊2日）		
産婦人科	J-001-01	子宮内容除去術		
眼 科	K-001-01	白内障手術		

褥瘡対策委員会

委員長：田崎 幸博

1. 褥瘡対策委員会について

八幡病院褥瘡対策委員会は院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図る目的で、委員長の副院長を筆頭に医師、看護師、薬剤師、栄養士、事務局のメンバーで構成されている。さらに、褥瘡対策を実行あるものとするため、委員会に褥瘡対策チームを設置している。褥瘡対策チームは医師、看護師、薬剤師、栄養士で構成されており、褥瘡の予防対策、実施及び指導、そして褥瘡対策に関する情報収集等に取り組んでいる。

2. 活動について

定例会議では褥瘡を有する患者や、リスク状態にある患者のケアや予防についての討議を行った。月2回ラウンドを実施し、各部署の現状把握や問題点の抽出を行い、指導を行った。また、褥瘡発生に関する統計を日本褥瘡学会ガイドライン（以下、ガイドライン）に沿って集計し、ラウンド結果とともに褥瘡セミナーで発表した。褥瘡セミナーではポジショニングの基本についての講習会を実施した。

3. 平成25年の当院の褥瘡発生状況

褥瘡有病率は平均2.2%で、ガイドラインの標準値0.9～3.32%と比べるとほぼ標準範囲内であった。ガイドラインが示す推定発生率の標準は0.60～1.76%で当院は1.031%と標準範囲内であった（図1）。部署別に見ると急性期病棟である集中治療室、東6階病棟の順に多かった（図2）。有病率、推定発生率ともに重症度が高く、日常生活自立度が低い患者の多い病棟が高かった。発生部位では褥瘡好発部位である仙骨部、踵部の順に多く（図3）、褥瘡の程度は新規より持ち込みの褥瘡のほうが重度であった（図4）。

4. 今後の方向性

不足していた褥瘡予防物品も充足されつつある。今後は徐圧の徹底とスキンケアの見直しを課題として有病率、推定発生率の低下を目指したい。

（看護科 米澤 美穂子）

図1

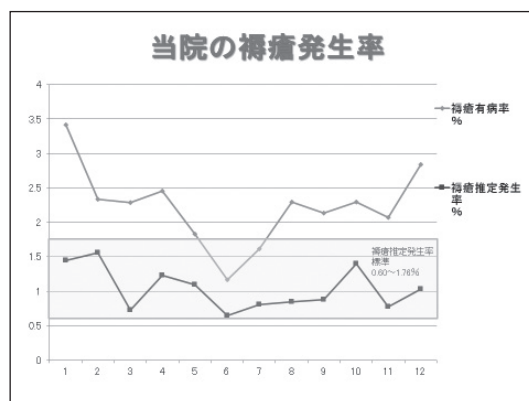


図2

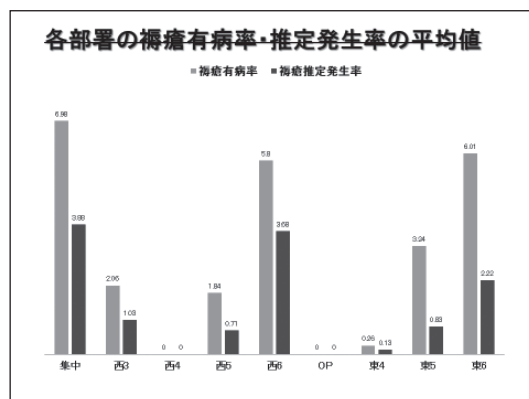


図3

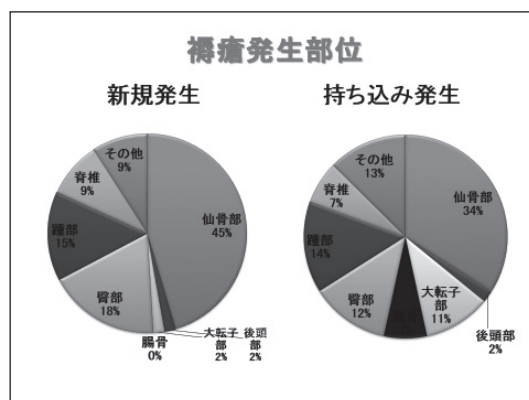
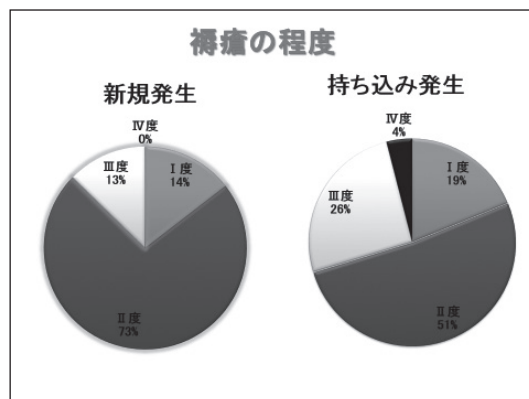


図4



7

各種学会指導医・ 専門医・認定医一覧

(平成25年3月31日 現在)

認定修練施設

臨床研修指定病院

日本内科学会認定教育関連病院

日本循環器学会専門医研修施設

日本心血管インターベンション学会研修関連施設

日本神経学会准教育施設

日本糖尿病学会認定教育施設

日本消化器内視鏡学会認定指導施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

日本外科学会専門医修練施設

日本消化器外科学会専門医修練施設（認定施設）

日本胸部外科学会認定施設

日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設

日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設

日本小児科学会専門医研修施設

日本脳神経外科学会専門医訓練施設

日本脳卒中学会認定研修教育病院

日本整形外科学会認定医研修施設

日本形成外科学会認定医研修施設

日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設

日本眼科学会専門医研修施設

日本泌尿器科学会専門医教育施設

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設

日本麻酔科学会麻酔指導病院

日本医学放射線学会専門医修練機関

日本超音波医学会専門医制度認定施設

日本救急医学会救急科専門医指定施設

日本プライマリケア学会認定研修施設

日本肝臓学会認定施設

日本外傷学会外傷専門医研修施設

日本消化器病学会認定施設

各種学会指導医・専門医・認定医

日本内科学会

認定医 太崎 博美、末永 章人、
吉田 有吾、田中 正哉、
小住 清志、伊藤 光佑

日本循環器学会

専門医 太崎 博美、田中 正哉、
小住 清志

日本心血管インターベンション治療学会

認定医 原田 敬

日本神経学会

専門医 末永 章人

日本呼吸器学会

専門医 吉田 有吾

日本消化器病学会

指導医 岡本 好司

専門医 野口 純也、酒見 亮介

日本肝臓学会

指導医 岡本 好司

専門医 野口 純也

日本外科学会

指導医 伊藤 重彦、岡本 好司、野口 純也、
木戸川 秀生、山吉 隆友

専門医 伊藤 重彦、岡本 好司、野口 純也、
木戸川 秀生、山吉 隆友、
井上 征雄、榎屋 隆太

日本消化器外科学会

指導医 岡本 好司、木戸川 秀生、野口 純也

専門医 岡本 好司、木戸川 秀生、
山吉 隆友、野口 純也

認定医 伊藤 重彦

消化器がん外科治療認定医

岡本 好司、木戸川 秀生、野口 純也

日本胸部外科学会

指導医 伊藤 重彦

日本呼吸器外科学会

認定登録医

井上 征雄

指導医 伊藤 重彦

日本肝胆膵外科学会

高度技能指導医

岡本 好司

日本内視鏡外科学会

技術認定医

木戸川 秀生

日本呼吸器内視鏡学会

指導医 伊藤 重彦

専門医 伊藤 重彦

日本消化器内視鏡学会

指導医 伊藤 重彦、岡本 好司、

木戸川 秀生

専門医 伊藤 重彦、岡本 好司、

木戸川 秀生、山吉 隆友

日本小児科学会

臨床研修指導医

市川 光太郎、天本 正乃、

神蘭 淳司、松島 卓哉

専門医 石橋 紳作、今村 徳夫、

山根 浩昌、西野 裕、山本 剛士、

富田 一郎、富田 芳江、

小野 友輔、小野 佳代、

市川 光太郎、天本 正乃、

神蘭 淳司、松島 卓哉、八坂 龍広

日本血液学会

専門医 神蘭 淳司

日本小児血液がん学会

小児血液がん暫定指導医

神蘭 淳司

日本小児外科学会

専門医 榊屋 隆太

日本脳神経外科学会

専門医 越智 章、岩永 充人、氏福 健太

指導医 越智 章、岩永 充人、氏福 健太

日本脳卒中学会

専門医 岩永 充人、氏福 健太

日本脳神経血管内治療学会

専門医 岩永 充人

日本整形外科学会

専門医 野口 雅夫、辻 正二、田中 尚洋

日本形成外科学会

専門医 田崎 幸博、福井 季代子

皮膚腫瘍外科指導専門医

田崎 幸博

日本熱傷学会

専門医 田崎 幸博、福井 季代子

日本創傷外科学会

専門医 田崎 幸博

日本泌尿器科学会

指導医 森下 直由

専門医 森下 直由

日本耳鼻咽喉科学会

専門医 麻生 裕明

日本麻酔科学会

指導医 金色 正広

専門医 石田 昌一

日本医学放射線学会

専門医 神崎 修一、今福 義博、今村 紹美

日本超音波医学会

指導医 神崎 修一

日本IVR学会

指導医 神崎 修一

肺がんCT検診認定機構

認定医 神崎 修一

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会

検診マンモグラフィ読影認定医

今福 義博、今村 紹美

日本救急医学会

専門医 伊藤 重彦、木戸川 秀生、
井上 征雄、岩永 充人

日本精神神経学会

専門医 白石 康子

日本皮膚科学会

専門医 藤野 雅世

日本産婦人科学会

専門医 王 志洪

日本乳癌学会

認定医 岡本 好司、今村 紹美

日本がん治療認定医機構

暫定教育医

岡本 好司

認定医 山吉 隆友、氏福 健太

ICD制度協議会

インフェクションコントロールドクター認定医

伊藤 重彦、岡本 好司、
木戸川 秀生、山吉 隆友、
伊藤 光佑

日本医療機器学会

認定MDIC

金色 正広

厚生労働省

麻酔科標榜医

金色 正広、石田 昌一

統括DMAT登録者

伊藤 重彦、井上 征雄、田口 健蔵

日本医師会

認定産業医

太崎 博美、田中 正哉、
小住 清志、小住 乃理子、
白石 康子、野口 純也、金色 正広

日本外傷学会

専門医 山吉 隆友

日本外科感染症学会

外科周術期感染管理認定医・教育医

伊藤 重彦、岡本 好司

8

編集後記

編集後記

北九州市立八幡病院 診療年報第3号をお届けします。

2013年は電子カルテ導入の準備や新病院ワーキンググループの会議がはじまりました。そして2014年6月末より電子カルテが導入され現在順調に稼働しております。次は新病院のワーキンググループが本格的に動き出しています。

今回よりファイルメーカーを利用して業績入力効率化に取り組みました。各診療科・部門にファイルメーカーファイルを配布しデータベースに入力することで、業績の記載形式を簡単に統一できるようになりました。ただ、すべてのファイルを統合するのが意外と手間がかかるという欠点も見えてきました。2014年からは電子カルテネットワークを利用してサーバー上にすべて入力するように考えています。

診療年報をできるだけ次年度の早い段階で発行することを目指しています。今後とも皆様の御協力をお願いいたします。

(木戸川 秀生)

広報委員会委員長	伊藤 重彦(副院長)
年報編集委員長	木戸川秀生(外科)
年報編集委員	富田 一郎(小児科)
	末吉 宏成(薬剤科)
	中村 祥子(薬剤科)
	肉丸 綾子(看護科)
	林 和子(看護科)
	松嶋久美子(看護科)
	永松真由美(看護科)
	友岡 大雄(庶務係)
	西原慎一郎(医事係)

